

20

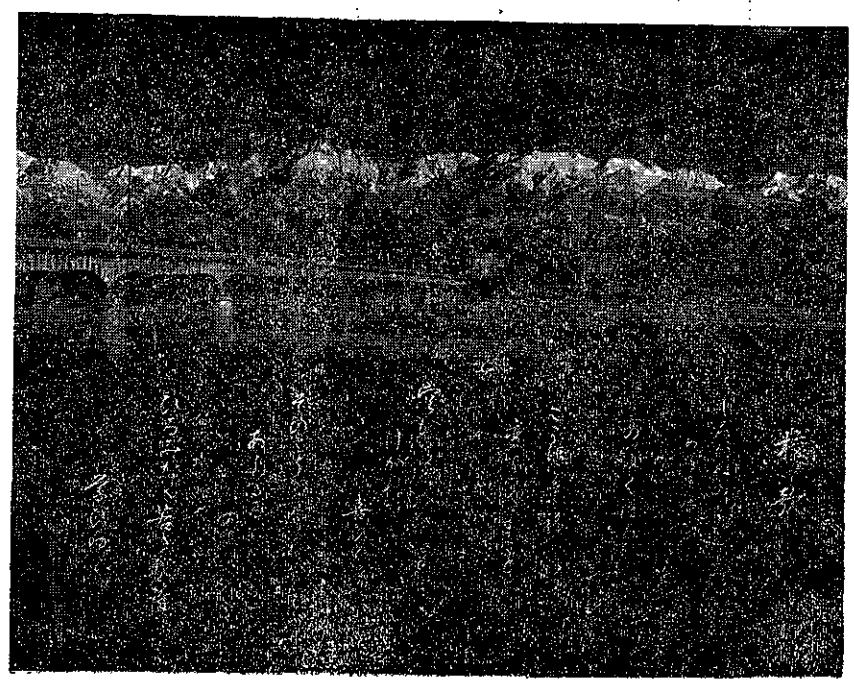
山なみ

中
学

富山大学教育学部
附属中学校生徒会

山
な
み

二
十
号



目次

校長先生の言葉……………4

生徒会長の言葉……………6

特集

「付 中 生」……………9

回顧

生徒会……………21

部……………21

ク ラ ス……………58

ユーモアアンケート……………70

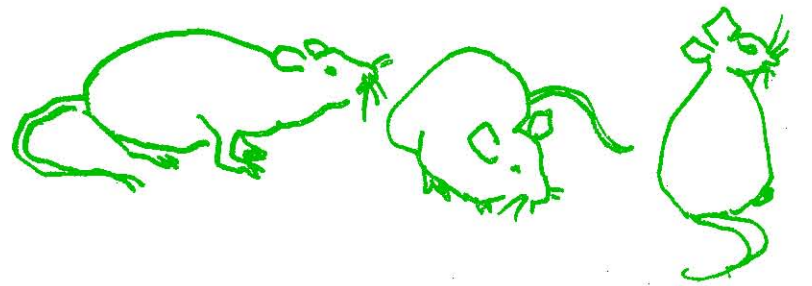
文 苑……………73

師 曰 く……………93

後輩への言葉……………103

山脈20号を発行して……………120

編集後期……………120





山に祈る

学校長 黒坂富治

私は昭和十一年から毎夏、女子師範学校と富山県立富山高等学校最上学年の生徒たちに付き添って立山登山をした。青年教師だったその頃が懐かしい。当時は交通の利便もなく、今の「千垣」から徒歩で行った。今の「千寿ヶ原」が「藤橋」と言って、そこまでトロッコに便乗できることも稀であった。登山隊は体力もあり、学業成績も良く、規律正しい模範生が選抜されて編成された。人数の制限があったからである。従って登山隊に加わることは、将来お嫁さんの有力な資格条件になると言われた。面白い話でしょう。

晴天に恵まれれば、登山ほど快適なものはないでしょう。しかしお天気は、そんなに注文通りいくものではありません。昭和十九年の七月、立山一帯を襲った集中豪雨はたくさん遭難者を出しました。私たちは幸い全員、天狗平小屋に沈殿し続け、その難をまぬがれたことでしたが、小屋に籠もりながら、室堂に向う人たちが、ほんの僅かな距離の地点で凍死されているという情報を聞き愕然としました。今更ながら山の悲しさを痛感しました。今の新湊高校の前身校である射水中学校の生徒さんの遭難が多かった、付き添いの早苗先生（マラソンで有名だった今は故人）も私たちの室にかつき込まれ、私は人工呼吸やマッサージをしてあげました。ようやく裏脚が切れて私たちは下山の帰路につきました。洪水のため称名の谷は通れません、ブナ坂の旧道を泥んこで下山した途次、当時の助川寅七校長さん（すでに故人）

が、消然と一人で登ってこられるのに会いました。遭難された生徒たちの遺体を迎えにこられたのです。太平洋戦争でサイパン島が失陥された時でした。夏山遭難の悪い記憶であり、きつい戒めでした。

富山大学文学部の前身校だった富山高等学校の山岳部、私たちは時折りこの人たちに山で会いました。リーダーの鍛冶君は早期、小屋の外に出て空模様を観察されていました。部員はリーダーの命令に絶対服従です。眼がさめていても起床の指示があるまでは、ふとんの中で休養せねばならないのです。私はそのような厳しい規律が尊いと思われず、この人たちの後輩である富山大学の学生たちが、昭和三十五年の暮れから、昭和三十六年の正月にかけて、赤谷山で遭難死されました。十六人もの遭難は大きなショックでした。遺体全部が見つかった五月、大学で合同慰霊祭が行なわれました。当時、学生部長だった大島文雄先生が「挽歌並反歌『清らかなる魂』を作られ、霊前に献歌されましたが、私はこれに作曲したことです。

(一)うるはしき魂ありて　　うるはしきいのち終りぬ

冬山の夜空きびしく　　雪たけく降り積む下に

みづみづし胸を抱き合ひ　　わかわかし声よびかはし

あなあはれ　　息の緒の絶ゆる時まで　　友をまもりぬ

反歌　あかねさす赤谷山にほの匂ふ　　夕焼雲はうつろひにけり

このような芸術詩が作られても、現し身は還りません。たちねの嘆きを招くことのないよう、山に祈り、自然を愛し、自分自身の生きを慎み、よき人生を全うするようにしたいものです。

(昭和四十七年一月一日)



時代と差異

後期生徒会長 高見育郎

人間には、新なるものをすべてよしとなす種属がいる。また、逆に、どうあろうと旧なるものが、その真髄を伝えていると考え、是とする種属もいる。そして、この兩者の間にはいつの世にも対立を生ずる。

結論するならば、この二つの考え方の相違が、近年、騒がれるようになった「世代の断絶」の根源ではないかと思われる。

例をあげれば、音楽にしても、親はクラシックがよいと言い、子はポピュラーがよいという。大人は毛を短くしろと言い、子はのびしたままでいようとする。

何故、このようになるのであろうか。

私は、まず、親が自分自身の過去に非常な愛着を持っているからだと思う。かの時代の人には、音楽と言えば、ベートーベンやモーツァルトを意味し、髪と言えば、坊主刈りが当然であった。つまり、自分の少年時代の中に、自分を、そしてわが子を思い浮かべているのだと思う。となると、子が、わが過去に反する主張をすると、それすなわち、自分の過去経験が、拒否、否定されるように感ずるのではなからうか。親たちは、子に反対されると愛する子であるだけに、特に内心は苦しいのに違いない。

また、子は子で、親の言うことには理もあり、長い人生経験からの言葉である以上、正しいだろうともよく理解している。だが、経験不足からくる大人への劣等感と、これから自分で独立し、形成しようとする自分の歴史に、親といえども、介入されるということには強く抵抗を感じるのである。

広い目で見れば、親は子を思うあまりの自身のエゴイズム、また、子は自分自身を思うあまりのエゴイズムを持っているのではなからうか。しかし、何と言っても、われわれの世代はもう一度考え直すべきである。それは、現代のわれわれ、現代の文化、それらすべて、過去の土台に立脚して存在することを——。われわれ自身が未来における土台であること——。

歴史という大きな歯車は、それを動かす連続という力によって回転されるのである。私は思う。確かに時には、親をうるさくも思い、また、過去なるものを軽視したくもなる。しかし、それ以上に、無限の過去から無限の未来への連続の中における自分の存在というものを、尊いとも思い、偉大だとも感ずる。



目的を持つ

前期生徒会長 吉川栄一

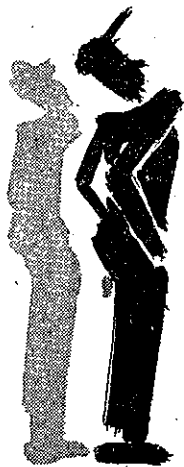
今日までの三年間、私たち卒業生はこの付中で多くのことを学びました。それは、学業だけではなく、精神的な面、生活の面、その他い

ろいろな面でのことです。しかし、学業だけを考えても、私たちははたして「真」に学んだと言えましょうか。たしかに、数学や理科の計算はできるようになりました。歴史上の事実や、日本や世界のことはわかりました。けれど、それだけでよいのでしょうか。私たちは単に知識を得ることに走りすぎて、「何のために学ぶか。」という最も大切なことを考えずにきてしまったように思います。

私たちだけではなく、この社会においても同じようなことがままあります。たとえば、政府の政策においても、最初は国民生活の向上を考えての経済の高度成長をめざしたのでしょう。けれど、しだいに経済の成長にばかり目を奪われ、GNPが云々といっているうちに、足許を見てみたら、公害だらけになっていたといったところではないでしょうか。

ものごとにはすべて目的がなければなりません。目的を忘れての行動は、何もしていないのと同じです。しかし、先ほどのように、目的があってもしだいに忘れさられてしまったり、始めから目的というものをもっていないかったりというのが現実かもしれません。

人生についても同じことが言えます。キサロのことは、「なんじは生きるために食うべきで、食うために生きるべきでない。」というのがあります。現代社会には、何の目的もなく、ただ家族を食わさせていくだけの人間が、何と多いことでしょうか。私たちも、ともすると毎日の生活に追われ、自分の目的というものを忘れてしまいます。しかし、目的のない人生は、死んでいるのも変わりがないのです。人生そのものが、生きる目的に左右される以上、私たちは、その目的ということについて、今一度真剣に考えてみなければならぬのは明らかです。



特 集

付 中 生

今回の特集のテーマは「付中生」ということです。

テーマを決めるのにアンケートもとらず制作委員の独断で決めてしまいました。しかし、山なみの二十回発行を一つの起点として、過去の付中生を振り返り、現在と比較し、さらに未来への希望を新たにするために、このテーマは有意義なものとなると思います。

内容としては、掘り下げが足りないところもあるでしょうし、無駄なところもあるでしょう。(実際、こんな前書きをだらだらと書くこと自体、必要でないのかもしれないが) また、何通も出した原稿の依頼状のうち、帰ってきたのがたった×通。いないこともありました。

しかし、十年後二十年後に、新しく「付中生」というものを考え直すときにも、このページは役に立つものと思っています。どうぞ先をお読みください。

私の中学校生活—生徒会活動

米田 保晴

「いやです。僕は暇がありませんのでお断わりします。」との、懸命の辞退にもかかわらず、入学直後、私は総務部にさせられてしまった。以後、私の中学校生活の大部分は、生徒会活動に向けられることになった。

生来のクソ真面目ぶりを發揮しているうちに、学級委員長・生徒会副会長を経て、二年後期に総務部長に任命された。三年生を含む十八人の部長の上に立つとなると、真面目なだけではどうにもならない。人を動かすことの難しさをこの時ほど感じたことはない。最初の企画を実行する前の晩、心配のため一睡もできなかったことを覚えている。

三年前期、とうとう会長に当選してしまつた。偉大なる先輩達に比べ、自分はまだあまりにも小さく見えた。当時の生徒会は、恒例の諸行事の継承と、そのマンネリズムの打破、および新規約の下での円滑な運営を課題としていた。幸い役員に人材が揃っていたため、ほとんどの行事は問題なくこなした。ただ、私のアイデア不足のため、新鮮さに欠けるといふ感みはあったと思う。

三年後期には、代議員会議長となり、また

過去の付中生

過去(今まで)付中生はどんな生活をしてきたでしょう。昔々の会長様方にかがってみました。

私の中学時代

玉生 卓也

11月3日の文化の日は北陸にはめずらしく上天気になり、家族を連れて呉羽山を散策しその帰り、付中校の前を久し振りに通りました。この原稿の依頼を受けたのはその直後でしたので、立派な校舎を見ながら感慨深く感じたことを拾って見たいと思います。

(当時の生徒スタイル) 肩掛のズックの靴・靴はズック(小生を含む不良タイプは厚歯(厚ゲタ)でカランコロン) など物質面では今の比でないが結構それなりに気を使っていたようです。女子のセーラ服姿は同じ顔でも2倍は良く見えました。(今はどうですか。)(スポーツ) 朝一時間早く行ってサッカー。放課後2〜3時間サッカー、おまけに体育授業の70%はサッカーでした。おかげでサッカー部の全盛時代で試合があると女子の黄い声

「山脈」の編集にも関係したりしたので、とうとう丸三年、生徒会のことばかりやっていたことになる。

生徒会活動を通じて私が出たものは計り知れない。まず、生徒会で共に苦勞した友だちとは、今だに親友としての交際が続いている。次に、生徒会で御指導を受けた恩師には、卒業後もいろいろとお世話になっている。最後に、自ら企画し実行したという経験は、私自身を飛躍的に生長させた。高校や大学で行なつた、学習・海外旅行・その他の自主的な活動の基礎は、中学の生徒会活動で培われたようだ。私にとって、生徒会に明け暮れた中学三年間は、過去二十一年間中、最も意義深く、かつ最も忘れがたい時代である。

付中時代を顧みて

高野 好期

自分の中学校時代のことは、どうもはつきり思い出せないが、できるだけ鮮明に思い出そうようにして、中学校生活について述べてみよう。

僕にとってなんといっても思い出されるのは、生活会活動である。入学当初から卒業時までやり続けたが、今から思い返してみても

援が飛んで、それがまた結構勝率に響きました。今はあまり強いという評判が無いようですが勉強をほどほどにして伝統を守っては何? (教えられたこと) 点取りのな教育は今も昔も同じでしょうが、残っているエキスをことごとくとして捕えてみると、溝上校長の「自然と文化」、永森・中山先生の「自由と規律」(アングロサクソンスタイル)、古木先生の漢語的「有意義」などが浄化されて残り、その基本的な柱としては「人格の完成」が教えの中に滲み出していた。昨今、「人間の回復」が強く叫ばれそれが何であるか問われるとき単に物質や上辺の教育ででなく、豊かな人間社会の基本的問題に触れる感じがする。少なくとも小生には、この頃に教えられたソフトウエア的要素は、今の生活の中で大きく支配している感があります。中学時代は肉体的にも精神的にも飛躍的に成長し、また大部分の人はこの時期に人生観の芽生えがなされるといえるでしょう。

最後に付中生としての誇りをさらに磨きあげ、数多くの良き思い出を個々の足あととして存分に残され悔の無い青春を送られることを祈っています。

得るところが多かったように思う。やっていた当時は、行事の進行がうまくいかず、人もうまく動いてくれなかつたりして、苦しかつたことが多かつたように思う。決して楽でもない生徒会活動を、三年間もなぜやり続けたのか不思議に思うのであるが、その理由はどうも付中のもつ自主的な雰囲気にかかれたことにあるようだ。自由で自主的な校風という点で、付中は他にないすばらしいものをもっていたし、またそれが現在まで引き継がれているようだから、大変頼もしいことと言えよう。卒業してみると、学校時代の思い出というものは、勉強したことや、自分一人で何かをやったというよりも、みんなで何かをやったというところが、より思い出されるようだ。高校ではそういうことは望めないし、大学という所は、中学・高校とは別の世界であるから、中学時代には是非みんなで何かをやったという一—生徒会・部・クラス活動等——経験をもつたらよいと思う。また積極的に話し合いに参加し、何かを決定し、それをきちんと実行するという経験を自分でおくのも、有意義なことであろう。

自分の中学校生活について書くのに、生徒会活動論やその他のことに話が移ってしまう

だが、それだけ自治活動は、思い出深いものだったといえようか。

母校の発展を祈りつつ、筆をおきます。

中学時代の生活と現在

須田 満

小さな頃から、非常に強い自己主張をする習慣があるためか、中学校時代などホーム・ルームとなると一人で大声を張り上げて、皆をアジテイトしたものであった。

——こんなに一生懸命に考えているのにどうして黙っているんだ……このバカ野郎……と。

それが高校一年になると、少しは変わる。

人数が付中の倍近くになると相対的に私のような者も増すのだ。そのために、ホーム・ルームの時間になると四・五人で口争いをする。その頃はまだ担任のアドバイスでかたづけくことが多い。しかしながら、回を増せば



増すほど口論がひどくなり、それを聞いている他の人がわれわれにリレームを申し出るようになるのだ。

ここまでは、まだ救われるのだが、二年ともなるともう、どうしようもない。

ホーム・ルームは、はじまりから、シーンとし、十分もすると、たまりかねた有志が議長となり、話を進めようとする。が、努力すればするほど、議長が悪いと責められ、その場で両者の口論に入ってしまう。両者おわることなく、ゴングで終る。こんなことが四五回くり返され、担任が口を出してもう、万事がだめになってしまう。その結果、ホーム・ルームの時間となると、リクレーションといった型におさまってしまうのである。こんなことが生徒会についても言えるのだから……。しかし、クラスがまとまらないのだから当然と言えばそれまでであろう。

こんな時、自分の思うように話し合え、実行できた付中時代が、無性にうらやましく思えるのだ。——付中生徒会が夢のように思えるからだ。山なみが今号で二十号だそうである。私はその十八号の編集をしたのだが、あのような機関誌は、付中だからできるのだとおっしゃったある先生のことばが、今、しみ

じみとわかるような気がする。付中が続く限り山なみも続いてゆくことを心から祈る。

自分をふりかえって

鹿熊 正一

私がいま中学校生活をふり返る時まず思うことは、なんとまあ正道を歩んできたのであるという事です。この正道を歩むという気性はその後変わらぬ私の生活を内部から規定しているものです。そしてこの傾向を私はよいものだと思っていきました。少なくとも中学生である間は、しかしその後さういう自分をとてもいやに思う時が折にふれてあります。自己嫌悪はよくおこる衝動ですね。しかし一瞬過去をすべて忘れたいほどになることは、そんなに多くあることでしょうか。

遅刻が多いとか掃除が不真面目とかいうことはみなさんの課題の一つかと思えます。私も真剣に取りくんたことがあります。ある時期にはこれだけが私の学生生活のすべてでありました。もちろん私は自らを律し、模範であるように努めました。持ち前の正道を行くの気性がこれを私に許したのでしょう。そして規則を破る人を悪い人と思いました。規則

特集

私の中学校生活

橋爪 欣三

みなさん、悔いのなきよう生活を送って下さい。小市民的なものを夢みているくらいなら、たとえ恵とみなされても規模の大きいことを夢みる方がましです。心を大きくもって下さい。私の期待する付中生像は、まさに私の過去とは正反対なものです。

私が中学校へ入学してからの年数を、あらためて数えてみるともう二十年近くになるのに今更ながら驚きました。しかし中学生時代

の思い出は、ついこの間のような気がします。沢山のなかでも私の一番の思い出は、なんといってもサッカーに熱中したことですが、その頃はサッカーが付属中学の校技みたいになっており、昼休みには全校生が一ヶのボールを蹴りあつたものですし、いつも大会には優勝していました。芝園中学が強敵でどの試合もよきライバルとして戦つたものです。われわれも絶対負けな自信がありましたし、われわれの時代に、それまで続いて来た伝統を破りたくないという意地がありました。

私が三年の時に、市体の決勝戦で芝園中学校と争った試合は、今でも忘れ得ぬ試合です。夏の暑い時で、中学生の体力では一試合フルに走るだけでもかなり消耗するの、試合は両方ゆずらず0対0で延長戦になりました。十分ハーフの延長戦でも押し気味ながら無得点で、再度の延長戦になりましたが、その頃には両方のイレブン共に体力の限界になり、ボールを思うように追えない状態になってしまいました。われわれもホームグラウンドですし、ほとんど全校生の応援を受けていたので最後の気力をふりしぼって戦いました。再度の延長戦も後半になり引分けかと思つた時にフォワードのコンビよろしく待望の得点をあ

げました。この時の感激、全校生の前での晴がましい姿、試合が終つて全員抱きあつて汗とも涙ともつかぬ顔で喜びあいました。私にとって、この時のことはいつまでも忘れない楽しい思い出です。在校生の皆さんも、精々スポーツに親しんで、たくましい中学生になってください。

原稿を書いていたいた先輩方

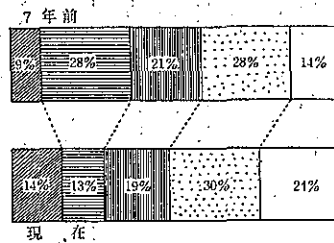
- 第十一代会長 玉生草也先輩
- 第二十三代会長 米田保晴先輩
- 第二十七代会長 高野好朗先輩
- 第四十一代会長 須田 満先輩
- 第三十九代会長 鹿熊正一先輩
- 第九代会長 橋爪欣三先輩

以上、昔の生徒会長で、今は社会へ出て、あるいは高校や大学で活躍しておられる、先輩方にうかがってみました。生徒会長だけでなく、一般の生徒会員にもうかがう必要があつたかとも思われますが、これでも昔の付中生の様子を、十分わかつてもらえたかと思えます。

付中精神—今昔

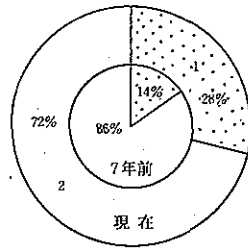
山なみ13号に「付中精神」と題する、アンケート集計がのっていました。山なみ13号は今から7年前に発行されたので、昭和40年ごろの付中生はどうだったかということがわかるわけですね。そこで、7年前と今とでは、付中生がどう変わっているかを調べるために、それと同じアンケートをとってみました。

一、あなたはわが校の校訓を言えますか。



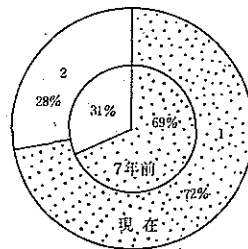
- 完全に言える。
- 半分位言える。
- 少し言える。
- 知らない。
- 他人が言っているのを聞けばわかる。

二、あなたの行動を校訓が左右したことがありますか。



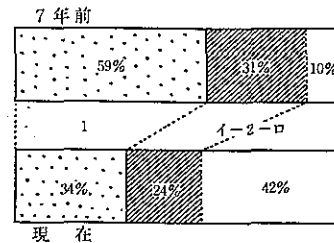
- ある。
- ない。

三、付中には他校よりすぐれた面がありますか。



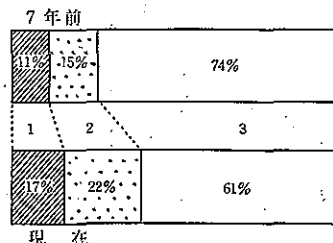
- ある。
- ない。

四、あなたは外出の際制服を着用しますか。



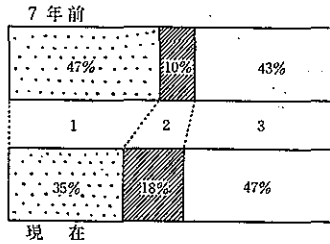
- 着用する。
 - 着用しない。
- イ、した方がよい。
ロ、しなくてもよい。

五、わが校に付中精神があると思いますか。



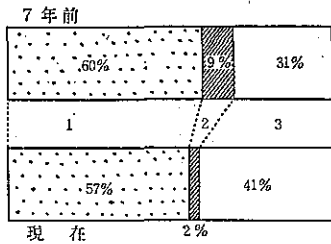
- している。
- していない。
- 判断に苦しむ。

六、あなたは付中精神が必要だと思いますか。



- 必要だ。
- いらぬ。
- 判断に苦しむ。

七、あなたは付中に来てよかったですか。



- よかった。
- よくない。
- 判断に苦しむ。

以上のアンケートの結果をまとめてみます

(一)の結果より

校訓を完全に言える人の割合がふえたという事は、実にはたのしいことだと思えますが、逆に言えない人が増したことは、改善の必要があるのではないのでしょうか。

(二)の結果より

校訓が個人の行動を左右するという事は、実にむづかしいことなのに、校訓に左右されたことのある人が増したのは、実に良い傾向ではないでしょうか。それとも、付中生の自主性がなくなり、校訓にまで左右されるようになったのでは……？

(三)の結果より

付中の良さを認識している人が多くなっているのは、付中も付中生も向上したからだと思います。これはあくまでも先輩がいなのであって、私たちはちつとも長くはありませぬ。

(四)の結果より

外出の際に制服を着る人がへっているのは、はでなものへと向う世相が悪いのでも取り締まり係の校紀委員が悪いのでもありません。流行を追う私たちが悪いのです。動きざかりの中学生を、窮屈な制服にとじ

(五)の結果より

こめておこうというの無理な話ですが、規則は規則として守らなければいけません。その点で、付中生の質が落ちたのではないかと心配が出てきそうです。

(六)の結果より

山なみ13号のアンケートの結びに、『アンケート全体を通して、まず、感ずることは、まだ付中生の付中精神に対する関心がうすいということです。今までは、明確でなかった付中の心、付中精神は是非必要なものなのです。そして、今がそれを確実に捕えるべき時、皆で考えるべき時です』ということが書かれています。このことが今の付中生にそのままあてはまると思えます。付中精神ということばの存在の有無も知らない人もいるでしょうが、7年前の山なみにのっているところを見ると、昔はこのことばがよく使われていたのでしょうか。とにかく、付中の心というものを考え直す必要があるのではないのでしょうか。

(七)の結果より

付中に来てよかったですかと思っている人がへったということは、そのまま付中の荒廃を意味するものなのでしょうか。悪かったと思っている人もへっているのでしょうか。

現在の付中生

他校生の付中感

さて、他校生は現在の付中生に対して、どんな感じをもっているでしょうか。他校の門前に立って聞いた意見を、できるだけ要約せずに書いてみます。

(一)つき合いやすい感じがする。

○「おれも二・三人のヤツとつき合っているけど、面白いやつばかりいるな。洒落をどんどん言う、そいつがおかしいんだな。全くつき合いやすいヤツらだよ。」

○「わたしの小学校の同級生が一人付属に行っているけど、ときどき道で会うのよ。そのたびに挨拶してくれるわ。同じ中学へ行っていても、クラスが違えば顔を見てもちょっと挨拶しない人もいるでしょう。そんな人から見れば友だちがいるわ。」

○「二年生のAが同じ塾へ来てるんだ。付属へ行っているだけあって頭はいいねえ。でも遊びにさそっても、必ず来るな、あいつは。付属の生徒は頼まれればいやと言えないやつが多いんじゃないの。」

(二)他校生と全く同じだ。

付中生に思う

二年三組 太田 克郎

私のような不徳な凡人に、付中生に何を望むかといわれてもいささか酷である。私は買いいもするし、掃除をさぼることもある。しかし、やはり思うことがあるので書くことにする。

わが校の校風は非常に乱れている。それは一つ一つ書かずともわかるだろう。ところがそれらの中心をなすのは上級生であり、一年生は、まじめである。それは、遅刻者数や掃除違反者数が示している。そして入学当時の純真な心を濁らせる物は何か、上級生に影響されたといえよれまでもだが、これにはもつと深い根源があると思う。

私はこの学校を選んだ理由はただの、あこがれであった。多くの付中生も、きつとそのようなはつきりしないあこがれからだったと思う。だから、そのあこがれを信じて全てのこと全力を尽したのである。

しかし、その夢もいつかは立ち切られることになる。皆が成績を上げることししのぎを削り出すのである。が、単に成績を上げると言っても、それは自ら選んだ学問の道ではなく周囲からの強制のような型になっている。

○「どんなに成績が良くても、しよせんは中学生なんだよ。どこも違いやしないさ。」

○「付属の人は知らないからよくわからないけれど、そう違わないのじゃないですか。RNBのラジオを聞いていても、リクエスとはどこの中学生も出しているし、書かれている内容もみんな同じみたいですよ。」

(三)キザで、はでな感じがする。

○「町を歩いても付属の人ははでな服を着ているでしょう。やっぱりお金持ちなのかしら。」

○「映画館なんかで、赤のシャツやGパンなんかはいている人がいると、付属の生徒だつてすぐわかるわよ。歩きかた一つにしても何かキザよ。中学生らしくないわ。」

○「あそこは髪の毛を伸ばしてもいいだろうだから、おれたちが行くとわざわざ帽子をとって通りすぎるやつがいるんだよ。いやな野郎だよ。」

(四)男女の仲がいい。

○「この前食堂で中学生の男女が何か食べていたわ。よく見たら付中生だったのよ。付属にはあんな人がたくさんいるのかしら。」

○「フォーク・ダンスも何回もやるんだらうらやましい感じがするな。」

つまり、成績のよい者は賞賛されても、掃除をまじめに行なう者は何の得もない。環境が成績だけ上げればよいように、極端に作られてしまっている。これでは校風が乱れるのも当然だ。

そうなると、自然、成績が人間の価値を決めてしまうような考えが生まれ、反面、公徳心や社会性といったものが失われることになるのであろう。だとすると付中は勉強のみにすぐれた、なまけ者を大量生産していることになる。実際、今の付中には勉強することと遊ぶことしかできない不具者が大ぜいいる。もつと根本的な生活態度が確立したうえで初めて学問の道へ入るべきではないだろうか

私自身としては、小手先の成績よりも、掃除をしたり、校則を守ることの方が、よほど重要だと思えてしかたないのである。

付中の未来 稲垣 洋一

ある物理学者が、次のように述べている。「人間は孤独な存在であると同時に、また社会的な存在である。孤独な存在として人間は自分や自分にもつとも近い人々の生存を保護し、自分の個人的欲望を満足させ、また自分の生得的諸能力を発展させようと試みる。社会的存在としての人間は、同じ人間たちから

その他のいろんな意見が聞かれましたが、主なものはこれくらいです。

聞いた中で一番多かったのが、「キザだ。」とか「はでだ。」「坊ちゃん嬢ちゃんばかりだ。」などという、批判的な意見でした。一部にはそんな人もいるかとも思われますが、全体としては、そうキザでもないように思われます。また「男女の仲がいい。」という意見もあまり真実性がないように思われます。他校でも仲のいいカップルも他数いるでしょうしフォーク・ダンスも行っているでしょうから

好意的な意見の、「つき合いやすい。」というのは少数でしたが、その内のほとんどは、付中生の友だちを持っている人で、付中生をよく知っているからそう言えるのでしょう。

しかしこうやってみると、付中生は相当誤解されているようです。確かに男子の髪の毛が長いとか、試験をうけて入学したとかという違いがあると思いますが、それにしても、最近市内でも多数の学校が調髪にしているのです。付中生に誤解されるような面でもあるのでしょうか。それなら何とかそれを直して少しでも誤解を解かなければいけないはずなのですが……。

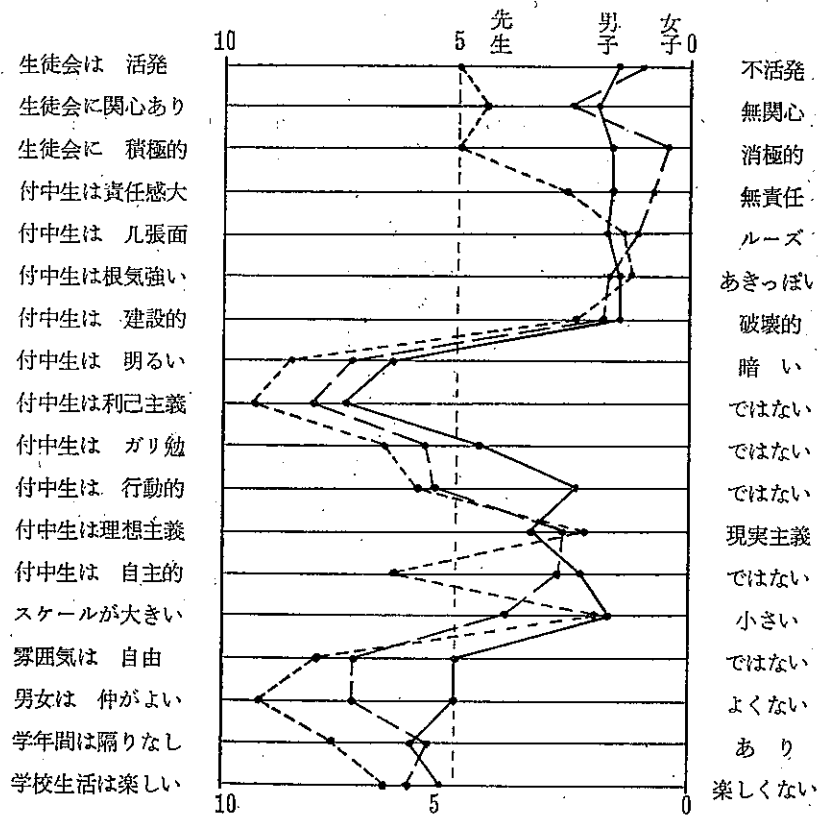
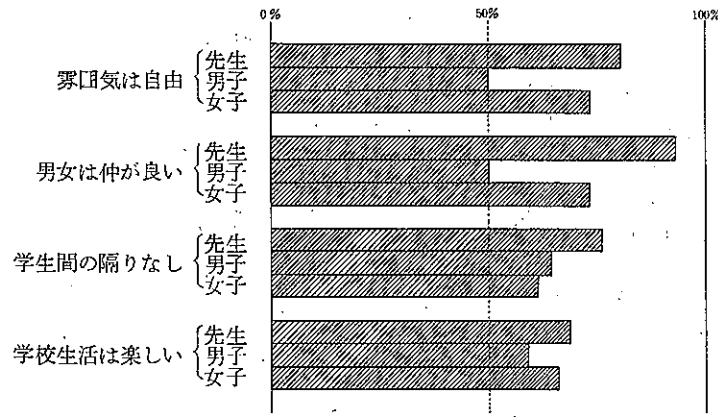
認められたり愛されたりしようとし、彼らと喜びを共にし、彼らの悲しさを慰め、彼らの生活条件を改善しようと努力する。しばしば矛盾しあうこのさまざまな努力が存在していることのみが、人間の性格を説明するのであり、それらの努力のある組合わせが、個人が内的均衡を達成し、社会の福祉に貢献しうる度合を決定する。……」

彼のいうことに、納得しながらも「おかしいな。」と思う点に遭遇した。なぜ、ああいったものがあるのだろうか。

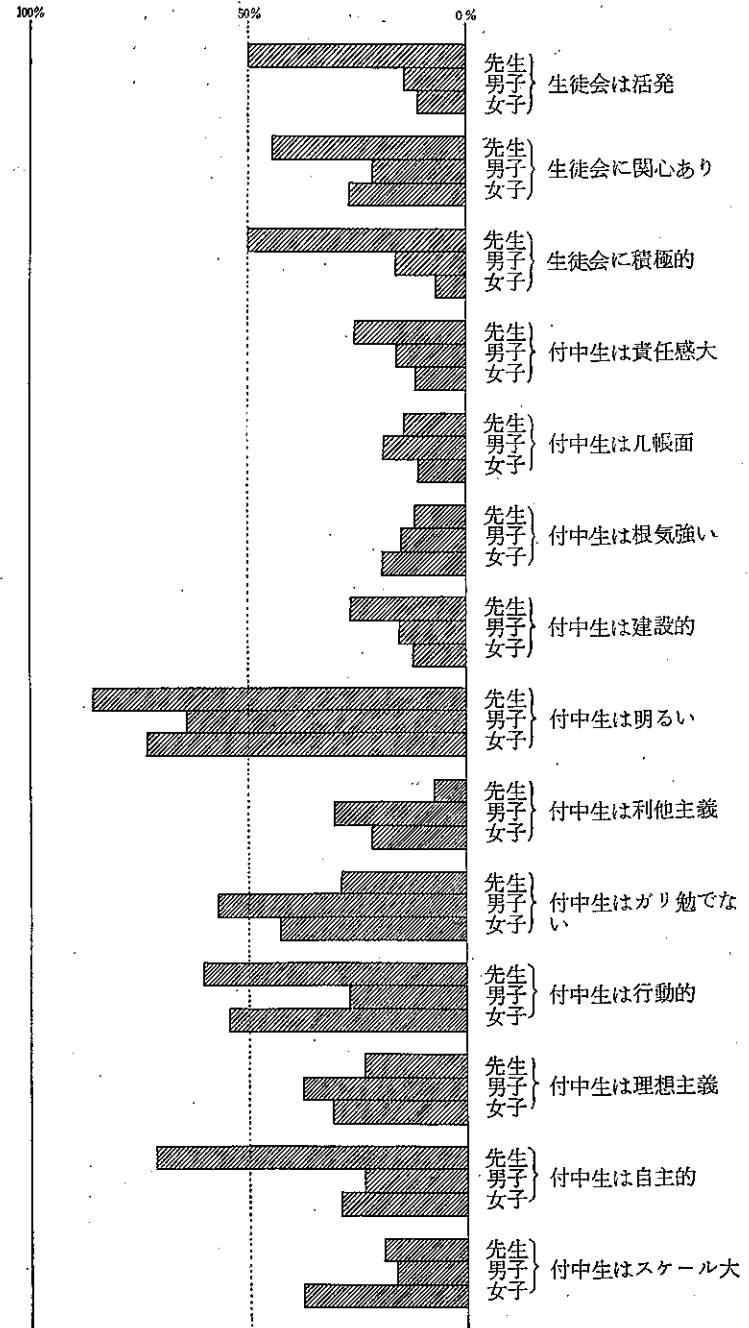
私たちが営んでいる学校社会には、なにか特別な部分があるように思える。(他の一般社会と比べて特徴のある点)それは、みんなが、人間の社会的存在からせまられて作つたに違いないのだが、現在では、私たちはそれに対して騒々・無関心の念をいだいている。さらには、そういった人々に対し悲難する傾向まであらわれている。もしかすると、これが『しばしば矛盾しあうさまざまな努力』なのだろうか。……

本題とそうとうずれたようだが、付中の未来をきめるポイントは、ここになるような気がする。真に付中の未来は、人間の社会的存在からかりたれた矛盾しあう努力にあるのではないだろうか。付中の前途は、花々と書いてせまくなることを知らないのだ。

アンケートにみる付中生



(カレント80号より)



これからの付中生

今までは付中生の現状について考えてみました。さて、これからの付中はどうあるべきなのでしょう。

インタビュアーより——これからの付中生

- ・付中生の質はもつと落ちるのではないかつまり、買い食いも遅刻も多くなるだろうし、生徒会への関心も落ちてくるということだ。

- ・校紀委員会など生徒会がよっぽどしっかりしないと、付中生もだんだん規則を守らないようになると思う。学力は高くなるが・ガリ勉がふえる。

- ・部も不活発になるし、生徒会もよっぽどしっかりした人が出てこない、だんだん荒廃してくるだろう。

(以上付中生悪化説の代表意見)

- ・今のままじゃいけないと、付中生は思うようになる。つまり、自衛するようになる、付中もだんだんよくなるのではないか
- ・今のままでよいと思っている付中生はいない。このままでいいと思っている人がい

たなら、それは付中生ではない。付中生は必ずよくなる。

(以上付中生改善説の代表意見)

- ・このままの付中が続く。今までもずっとこんなのだったろうし、これからもこのまま。よくも悪くもならない。

(付中生無変化説の代表意見)

- ・付中生？ それ何？
- ・無関心

(以上無関心説)

インタビュアーをしてみても一番多かったのが付中生の質が落ちてくるだろうという考えでした。この考えの中には、今の付中生はよくてこれから下り気味になってくるというのと今も悪いがこれからはもつと悪くなるだろうというのの二つが考えられますが、ほとんどは後者のようでした。

付中生がよくなるという意見の全部は、付中生はすばらしい人材ぞろいだから、必ず規則も守られるようになるというのです。いくらか自信過剰(?)という気もしないではありません。

無関心な人も数人いましたが、こんな人もいるのかと思うと何かさみしい感じがしない

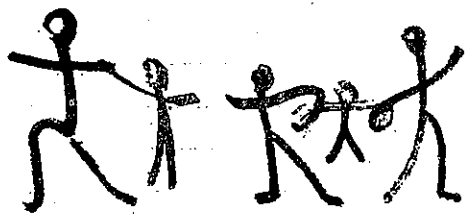
でもありません。

——後書き——

以上付中生のいろんな面を調べてきました。過去の付中生の様子もわかっていただけただけでしょうし、付中生の今と昔の考え方のちがいもわかったと思います。

付中生は他校生に相当誤解されているといったことも、付中生は付中生自身をどんな風に評価しているかということもわかったと思います。

この資料が、後にふり返られて、付中生の発展のよすががわかることを期待しています



回顧

生 徒 会 回 顧

四月

- 四月五日 始業式
- 四月六日 入学式
- 四月九日 第一回代議員会
 - ・役員承認
 - ・新設クラブ説明
 - 一 齊委員会
- 四月十日 第二回代議員会
- 四月十四日 第三回代議員会
 - ・生徒会費値上げ案
 - 予算折衝
- 四月十五日 一年生歓迎会
- 四月二十一日 第五・六回代議員会
- 四月二十二日 第七回代議員会
- 四月二十三日 第八・九回代議員会
- 四月二十四日 第十回代議員会
 - ・予算承認
- 四月二十六日 第十一回代議員会
- 四月二十七日 第十二・十三回代議員会
- 四月二十八日 生徒大会・予算承認
- 四月三十日 第十四回代議員会

新入生歓迎会

一年四組 松本 健

新入生歓迎会の第一印象は、二・三年生への親近感だった。最初思っていた上級生への近づきがたい感じが取れていった。

また、次々に出てくる劇やコーラス部のオペレッタ・バイオリンの独奏などには、さすが中学生だなあという風格が感じられた。しかし、がっかりしたことがないとは言えなかった。それは付中は試験で入学した人た

ちなんだ、大事な時にはさわがず落ちついてるんだというばかりの期待が裏切られたことだった。入学式の時も後ろでしゃべっていたし、先生にも、注意されていた。この時感じたのは、付中生とはいえ、普通の中学生だという現実感だった。

ぼくは、今度の一年生には、こんな気持ちを持たせないようにしようと思う。昔からいわれている。よい意味でのエリート意識を取りもどそう。

校外指導

二年三組 太田 克郎

われわれ二年生は呉羽山を中心として校外指導が行なわれましたが、去年と違い班別で行動することになっていたので皆緊張しているようでした。

ふもとの桜谷公園までは各学級ごとに並んで行きましたが、そこからは、それぞれの班のコースに従って分かれて行きました。

コースには、県立図書館、五百羅漢、天台、万葉の遺跡などが含まれていました。

あいにく前日に雨が降った為、道はぬかっている所もありました。が、早春の呉羽山は緑にぬられ、すがすがしい風が気持ちよく感じられました。学校での意屈 授業を受けるのよりも価値があったように思いました。

この校外指導の目正は、郷土にある呉羽山を自分たちで歩いて知ることと班を通して団体行動を学んだり友好を深めたりすることです。残念ながら前者の方はあまり見るような所もなかったようでした。でも、後者の方はとても役にたったと思いました。

皆、おだやかな春の一日をおおいに遊びおおいに歩いて、最後は呉羽山で一度集合してから各自で山を降りて行きました。

「フォークダンスについて」

一年一組 国谷 等

付中に入学してから、いろいろな行事があったのだが、フォークダンスは運動会や学校祭などに比べ、それほど印象に残っていない。少なくとも、それらよりも回数が多かったのだが。(と、いっても片手の指の数ぐらゐしか……)

ところで、その内要なのだが、私も参加した、前期第一回目のフォークダンスを、例にとってみると。参加者は思ったより少なく、参加者の中でも、役員が多い。では、参加しなかった者とは、見ると、校舎から会場の中庭を見降し、ニヤニヤながめている者もいれば、まったく無感心の者もいる。ダンスの方も、やり方を知っている者は、あまりおろさずどうもスムーズに進行できないようだった。

終りに。いろいろ悪評を重ねたが、それでもみんな、けっこう楽しんでいたと思う(一部の見部人も含めて)しかしまだ全員が参加したのではない。また、フォークダンス以外にも、もっと、生徒の心のふれ合いの場を、ふやすべきのではないだろうか。今後の計画に、期待したい。

写生大会

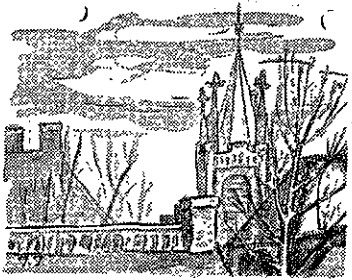
三年一組 窪田陽昌子

中体連が近いこともあって、何となくあわただしい中で行なわれた写生大会。しかし、以外な呉羽山の美を見つけて、私は、はっとする思いでした。

もう花も散り、新芽をふいた桜。若葉がいつの間にか燃えるような緑になっていた山の木々、その間にひっそりと咲いている名も知れぬ草花。そして眼下に広がる緑の田畑——どれもこれも描きたいものばかりでした。いつもは、あまり身近すぎて見逃していたこの自然の美しさを、あなたはどうか画用紙に描いたのでしょうか。

新鮮な空気と、緑の香のブンブンとする中で、友と語りながら、歌いながら筆を運ばせたあのなごやかな時間——。心が安らげられるような解放感とでも言うのでしょうか。今思いだしてみると、ほんとうに「よかつたナァ。」と思わずにはいられません。暮れゆく春のひとつときを、充分味わう事ができ、とても有意義でした。

- 五月 五月一日 ア・クォーターランニング実施 第十五回代議員会
- 五月四日 第十六回代議員会
- 五月七日 第十七回代議員会
- 五月八日 第十八回代議員会
- 五月十日 第十九回代議員会
 - ・写生大会承認
 - 選手壮行会
- 五月十二日 写生大会
- 五月二十四日 第二十回代議員会
- 五月二十六日 運動会企画委員会
- 五月二十九日 運動会 結団式
- 五月三十日 三県付中交歓会準備会 (金沢にて)
- 五月三十一日 開学記念日



六月

六月二日	運動会係会
六月六日	研究会準備
六月七日	研究会
六月八日	代休
六月十日	遠足
六月十二日	合同種目練習
六月十四日	第二十一回代議員会
六月十五日	新聞コンクールについて
六月十五日	運動会予行演習
六月十七日	運動会前日準備
六月十八日	運動会
六月十九日	第二十二回代議員会
六月二十二日	新聞コンクールについて
六月二十二日	第二十三回代議員会
六月二十三日	新聞コンクール修正案
六月二十四日	第二十四回代議員会
六月二十五日	新聞コンクール承認
六月二十六日	第二十五回代議員会
六月三十日	第二十六回代議員会
	生徒会規約改正について

新聞コンクール

一致団結の強み

一年三組 道正 和明

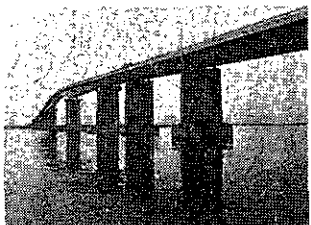
新聞コンクール最優秀の知らせを聞いたのは、ぼくがグラウンドで部活動をやっているときだった。そのときはなにげなく思っていたが、教室へ帰ってからのみんなの喜びようが、最優秀の手ごたえを感じた。といっても、実際はぼくは仕事らしい仕事はしなかった。それでも表紙のデザインを考えたり、ローラーのインクで真黒になったものだ。回想してみると、いろんなことが頭に登場してくる。印刷器がなくて小学校や幼稚園まで歩きまわったこともあった。紙がたりなくなっただけでなく、インクの色がどうのこうのと言いかいをしたこともあった。休日なに出てきてがんばったときもあったものだ。しめ切り数時間前になってもできあがらず、クラスあげて総仕上げしたときのみんなの心は、ほんの一つになっただけだ。

こんなみんなの努力を考えると最優秀という形となって表われるのは当然だと思うのである。ぼくは、一年三組になりよかったと思う。それは、外見は平凡な一クラスだが、一致団結したときのパワーとチームワークのす

春の遠足

- 一年 宮崎方面
- 二年 獅子吼高原
- 三年 能登方面

ばらしさは、付中一と大いばりに誇れるから。



一年

思い出多い遠足

一〇三 野口 真美

中学校に来てから初めての遠足宮崎方面。ありふれた所ではあったが最初の遠足というだけにうれしく楽しかった。

まず、富山からバスに乗り城山へ向った。山の登り口で、頂上めざし登った。何しろ五月晴れの天気で皆汗だく、やっこのことで登り切り、今度は、細い道を降り目的地、宮崎海岸へ到着。丁度、12時15分、昼御飯とたら汁を食べた。歩いた後だけにそのおいしさは、言いつくしがたいものだった。ある人なんか五杯も食べたとか？

満腹こなしの運動を皆、海岸での遊びに夢中、中でもひどいものになると、頭の上から足の先まで、服ごとズブぬれになっている者までいた。今でもあの惨めな姿を思い出すと「ブッ」と吹き出しそうになる。

海岸で数十分遊んだ後、近くの宮崎小学校で勾玉遺跡の説明を聞いた。

考古学に興味のある私にはとてもおもしろく昔の人に会ったような気がした。いろいろ学ぶことができ、楽しかったこの日の遠足は、私にとって忘れることのできない思い出として残るだろう。

二年

春の遠足を終えて

二〇四 本吉 秀光

今年の遠足は獅子吼高原。何人かの生徒たちは、前に行ったことがあるらしくおもしろくなさそうだった。

当日は、まあまあ天気よくできそうだと思っ出て行くと、バスガイドさんが男の方で、やや白け気味……。ユカコーラ工場で、のどの乾きをうるおして、いざ目的地獅子吼高原へ。

リフトに乗って、高原に行き、弁当を食べたらもうおしまい……。もっぱらカメラをぶら下げ撮る物も無い所を、ブラブラしているだけだった。

兼六園でも同じく、公園内を走り回っておしまいという忙しさだった。なにぶんにも、日帰りの旅行とあって、とても忙しい日程ではあったが、それなりに楽しい一日であったと思う。

ところが、今あった楽しい遠足が終わると同時に次の旅行が待ちどおしい。思いつきり夜深してやるぞお／＼という野望を胸に秘め、その日の眠りについて。夢の中「早くこいこい次の修学旅行。」

三年

春の遠足

三〇三 久和 茂

今年の遠足は中学三年間の良い思い出となるだろう。

八時十分ごろ、ガヤガヤと集まり、三十分ごろ、バスは何となく動き出した。

始めから白けムードで重い空気がバス一ぱいに広がっていて、それが一日中影響した。バスガイドさんまでがそれに輪をかけてるうちに時々、フツと思いついたように説明するだけ。そんな内にも七尾につき、下車。他のクラスの話を聞いてうらやましいと思ったくらいだ。

再びバスにのったのだが、まだ白けムードは変わらず、全然おもしろくなかった。能登金剛で遊覧船に乗った時さいふを落し（実は家に忘れて来た）なお一層おもしろくなってしまう。

帰り、バス内でマイクを回したが、だれも歌おうとせず、ますます白けて悪循環をくり返すばかり。おそろく、おもしろかったと思ったものもないと思う。理由はいろいろあったろうが最大の理由として、各自遠足を盛り上げようという気持ちになかったからだと思う。

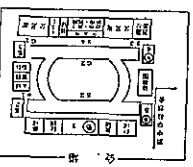
谷岡学園合同運動会

プログラム

と き 昭和6.6.18(日)午前9時
と ころ 学園運動場

種目	組別	対戦相手	結果
男子対抗リレー	赤	緑	赤勝
	白	黄	白勝
	赤	白	赤勝
	緑	黄	緑勝
女子対抗リレー	赤	緑	赤勝
	白	黄	白勝
	赤	白	赤勝
	緑	黄	緑勝

種目	組別	対戦相手	結果
男子対抗リレー	赤	緑	赤勝
	白	黄	白勝
	赤	白	赤勝
	緑	黄	緑勝
女子対抗リレー	赤	緑	赤勝
	白	黄	白勝
	赤	白	赤勝
	緑	黄	緑勝



有線特設部
住岡小学校
住岡中学校
富山大学教育学部

運 動 会

- 総合優勝 赤団 688点 ⇨男子対抗リレー優勝
- 次勝 緑団 653点 ⇨応援協力賞
- 三位 白団 571点 ⇨女子対抗リレー優勝
- 四位 黄団 568点 ⇨応援優勝

- デコレーション
- 赤団 キョブテン スカーレット
- 白団 エルビス オン ステージ
- 黄団 イエロー サブマリン
- 緑団 城

赤 団

団長 野上 豊

今年の運動会で我赤団は、計画、準備という最初の段階でつまづいた。デコレーションを決定する迄大変時間がかかったり、穴を間違つて、掘り直したり、一・二年の協力が少なかつたり、そのため中心になった三年生はひびいめにあった。が、何とか当日迄、完了することはできた。

さて当日であるが、我団は、総合優勝応援合戦アイデア賞、男子リレー一位という立派な成績をおさめた。これも赤団全員が一生懸命頑張った成果だと思ふ。

我団は終始緑団と激しくトップを争った。騎馬戦、綱引きとしいに追い上げて来た緑団に女子対抗リレーでついに同点にされた。

あと残るは男子対抗リレーだけ。この時とはや失望している者も居たし、皆、あせりの気持ちを押さえ切れず、興奮していた。もちろん皆の期待は、男子リレーに向けられた。激しいせり合いの末、赤団のアンカーがテープを切った。赤団の優勝、僕はもちろん、皆が歓声をあげた。兎に角すばらしい物だった



白 団

団長 二神 望

今年は、不本意な成績だったが全般を通して団結力の弱さがはつきりと出ていたように思う。特に応援団員に欠陥があったようだ。本来なら応援団によって要囲気が盛り上げられる物なのに、今回はだらけていたようである。もっとしつかりしてほしかった。

しかし応援合戦は、案外うまくいった。白という色彩のアピールの弱さにも苦労した。また、マスケゲームは、応援団長の不協力で女子が決めた。団結の弱さがこういう所にも表われているのかもしれない。

デコレーションは白団のが一番目立っていたように思うが、エルビスのそびえ立つ、あの大ステージを十分に生かせなかったことが残念でたまらない。ここでも応援団の不活発さが悔まれる。結構、評判のよかつたデコレーションだったのに、くやしいなあ……。

今年、いろいろな面での不協力的もあつたわけだが来年からの白団の諸君には絶対こうであつてほしくない。それに、一度でもいいから優勝して、運動会をより楽しいものにしていってほしいものだ



黄 団

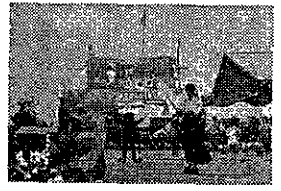
団長 川原 肇

尾尻にスクリーン付けたK君とセーラ服のK君の御陰で我団は見事応援優勝を取つたのである。団長の私は、忙しくて練習には出れなかつたが、黄団全員よく頑張つてくれたと思う。特にデコレーションの出来具合はよく、これには、三年生全員の血と汗と涙が結集されている。また、応援歌は、当日さえわたつた。さて華々しい応援優勝に比べ総合成績の方は、実に慎んで四位というものだった。三年生の弱さが主な原因だったようなのでこの話はやめたい。

再度、われわれの団結力と創造力の素晴らしさによって勝ち得た。応援優勝の話をしよ

う。あの八分余りの応援合戦のため応援団は朝早くから夜おそく迄練習に励んだ。一・二年生も、例のレコードに合わせて、飽きもせずあの単純な動作を何回もくり返してくれたのであるが、閉会式の時に「応援優勝黄団です」と言われた時は、さすがに嬉しくもう皆、飛び上がらなばかりに興奮してしまつたのだ。

来年は総合のほうにおいても頑張つてほしい。たのむぞ！



緑 団

団長 野村克信

今回の運動会で皆は、勝利という榮光に向かつて、心を一つをして進んで行くことの素晴らしさ、その喜びに感じたに違ひありません。

我緑団は途中他の団との差が大きく離れたこともありました。皆はきつと勝つと心は燃えて居ました。そして騎馬戦三位、陣標争奮戦一位綱引き一位と着々と点差を縮めて行きました。それは一重に執念と根性の勝利に違ひありません。特に、女子の執念を感じさせた綱引きは、印象的でした。そして女子リレーで総合得点を赤団と同点にしました。そして大会最後の男子リレー、緑団の期待を一応に集めピストルは撃たれましたが残念にも逆点優勝は、成りませんでした。

これで熱気を帯びた運動会は、幕を閉じたのですが、われわれには悔いはありません。応援合戦も協力賞という立派なものでした。

この運動会で私は、団長という重い責任を負わされましたが、皆あとについで奮闘してくれたかと思つています。皆、あの時のあの場面の団結忘れられ無いでしょう。ほら聞こえるでしょう。わあ、わあ。



運動会について

二ノ三 西田哲也

運動会。エート、あれはいい、いつのことだったろう。うん、そうだが6月17日だったと思う。(と書いたが、実はどうしても思い出せなかったので、生徒手帳で調べてみたのである)そう、今年の運動会は、わが黄団は総合四位、つまりどりだった。しかし応援優勝できたのである。これは、デコレーションのすばらしさとマスケゲームの時のきばったアイデアの潜水艦のおかげだと思ふ。考えてみれば、今度の運動会の応援については、イエローサブマリンにすることや、応援合戦についても三年生が、一・二年生から何の意見もとらずに、勝手に決めて三年生だけで、デコレーションを作ってしまったのであった。こんなことから、団の団結を欠いたのかもしれない、が、今になって考えてみると、僕たち下級生の方に積極的に参加する意欲があまりなかったため、三年生として、こんな手段をとらねばならなかったのだらう。

今年の運動会は優勝こそできなかったが、改めて、三年生やみんなの実行力のすばらしさを見せられたように思う。

交歓会

体育委員長 千先康二

富山での交歓会はとても有意義だった。互いに汗を流し、あるいは討論して初対面ながらもとてもうちとけ合っていた。他人行儀になるのではとの心配も若者のさわやかな心の交流が吹きとぼしてしまった感じだった。時間のたつのが速く感じられたのも若者の特徴である熱中することの表われだった。

それとは別に思い出されるのは、企画実行のことである。このような大行事における準備はたいへんなものだったと思う。総務委員長および会長に心から感謝したい。

交歓会

三の一 越崎

交歓会の中で、最も天候に左右されるのがこのフィールドワークだったらう。が、絶対雨が降らないという、I先生の予言は当たったのである。雨は降らなかった。……がしかし、理解しあうという主旨が、はたしてどの程度達成できただらう。私は、どのコースを通るのか、それさえ知らなかった。またどのようなレクリエーションをするのか、計画もなかった。皆はそうだった、初めてとはいえあまりにも、いい加減な気持ではなかったかもちろん私も含めて……。

交歓会 三県付中交歓会に至るまで

春休み中……役員会で原案を練る。

(予定日、日程の草案)

(交歓会旗製作内定)

五月一九日……初めて福井・金沢へ連絡の手紙

五月三〇日……金沢にて「交歓会準備会」

(日時 七月三〇日に決定)

(各校、交歓会旗製作承認)

六月二八日……交歓会旗のデザイン決定

(金大付中の代表者のもの)

七月一日……先生方と役員で交歓会当日の受け

いれ体勢について協議

(本校参加者三年生全員と

各部一・二年生代表数名)

七月七日……郷土紹介の出演者決定

(一・二年の各級女子三名)

七月二〇日……最終の福井・金沢への手紙書く

七月二六日……交歓会旗できてくる

(京築による制作)

七月二八日……郷土部で、フィールドワークの

コース決定

七月二九日……三年生の歌唱練習

必要数のイス並べる

七月三〇日……交歓会当日 十時四十五分開始

(参加者三校で約六〇〇名)

交歓会をめざして

前期総務委員長 高見育郎

昨年から、三校で持ち回りとなった三県付中交歓会。今年は、それを富山で開催する順番であった。

春休み中に役員会で、どのように企画運営するか、大まかなことを話し合った。だが、ここ数年來、いつも金沢ばかりで行なわれてきたこの会を本校でするといっても、ほとんど資料もなく、まったく当惑してしまった。

それでも、五月三〇日の金沢での準備会には、何とか草案を持って出かけられた。開催日を七月三〇日と決定したのや、交歓会旗の製作がはつきり軌道に乗ったのも、この日からであった。さらに、本校提案の民謡発表をもっと自由な形式の郷土紹介にしたり、富山市内めぐりを廃止して、呉羽山フィールドワークを具体化したたりもした。

とにかく、その後交歓会前日に至るまで、連絡のますさなど多くのことで悪戦苦闘したが、どうにか七月三〇日の開催をみた。

交歓会当日、快晴の空のもと、競技に討論に、三校の生徒が一体となりうちこんだ、初対面の者同志の意見の交流・友情、それらがこの交歓会の最大目標であったのである。

交歓会

二年一組 松井紀子

交歓会で覚えていたことといえば、バレー部の会場になった旧体育館がたいへんきたなくて、前日も練習をそっちのけにして何回も何回もほうきで掃き直し、雑巾がけをしたことと、息づまった感じの体育館で木越先生のピアノ伴奏に合わせて歌を歌ったこと、それともう一つ、我がバレー部は、金沢の都合が悪くて、二県付中交歓会という形で試合が行なわれ、その結果女子があっけなく負けてしまったということの三つである。

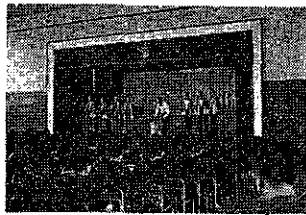
交歓会・交歓会といっても文化系の部はわからないけれど、体育系の部は時間の関係でただ決まったとおりに試合をして充分な話し合いの場も持たずに終わってしまった。今、あれが交歓会だったのかと思うと、何となく心残りである。

三年生にしてみれば、他校との試合はこれが最後だったし、私たち二年生も九人制では最後の試合だったのである。試合とともに交歓会ももっと盛り上がりのあるものにしたかった。

来年は金沢で行なわれる。来年こそは、来年こそは……ガンバリマス!

種別	対戦相手	結果
男子バレー	富山	1-2
女子バレー	富山	0-3
男子バスケット	富山	21-24
女子バスケット	富山	12-18
男子サッカー	富山	0-1
女子サッカー	富山	0-1
男子ソフトボール	富山	0-1
女子ソフトボール	富山	0-1
男子野球	富山	0-1
女子野球	富山	0-1
男子テニス	富山	0-1
女子テニス	富山	0-1
男子卓球	富山	0-1
女子卓球	富山	0-1
男子バドミントン	富山	0-1
女子バドミントン	富山	0-1
男子バレー	富山	0-1
女子バレー	富山	0-1
男子バスケット	富山	0-1
女子バスケット	富山	0-1
男子サッカー	富山	0-1
女子サッカー	富山	0-1
男子ソフトボール	富山	0-1
女子ソフトボール	富山	0-1
男子野球	富山	0-1
女子野球	富山	0-1
男子テニス	富山	0-1
女子テニス	富山	0-1
男子卓球	富山	0-1
女子卓球	富山	0-1
男子バドミントン	富山	0-1
女子バドミントン	富山	0-1

8 月
21 日 校内
22 日 トレセン
31 日 代議員会



クールアベイユ

トレセン

トレセンの意義について

二の三 正橋立子

トレセンの意義とは何でしょうか。それは短かい期間に、改めて「JRCを研究」するということでしょうか。つまり私たちはJRCを調べ考えてそれを明らかにしなければならぬのです。

そこで今年のトレセンでも、JRCについての講義や、各議題についてのディスカッションや、楽しい(?)フォークダンスやフィールドワークがおこなわれました。

とはいっても「一泊二日という短い期間に得ることもないのではないか。」と思う人もいるとは思いますが、それは参加者の態度ひとつで決まると思っています。ですから、今年のトレセンは、参加者の態度がよかったです。効果はあったと思います。

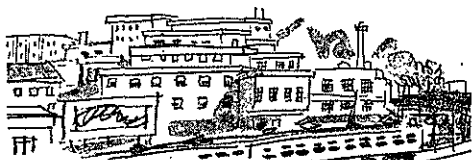
それから、参加者は、トレセンで得たことをこれからのJRC活動などでどんどん生かして欲しいと思います。

それでこそ「JRCの研究」をしたことになるのではないのでしょうか。

トレセン裏話

▲一日目の昼食の時の自己紹介、「ええ、私をはじめ、恋愛というものを経験したのが○才の時でありまして、今の家内とは×年前に知り合い、以来つましくやっております……」m先生もやるねえ。▲夕食時、個人芸披露とばかりI教官「live been working on the railroad……」と声高らかに。その声のひびいたこと。▲推進委員とN先生とがフィールドワークの準備のため、A・M三時から呉羽山めぐり。そのこわかったこと。また推進委員の一人が、起きられなかったらこまるといので一睡もしなかったとか。

(UPII共同)



市

ステレオコンサート

- 絵画—作品展
- 写真—写真展
- 科学—私たちの科学 合成樹脂の合成
- ハツカネズミの解剖
- 古典—万葉の遺跡をたずねて
- 報道—ポスター展、ステレオコンサート

〔第三日目〕

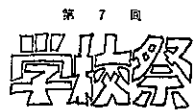
- 開会式
- 講演会(講師 佐伯富男氏)
- 演題「エレベレストスキ」探検」
- 仮装行列 (クラス展示テーマ)
- 一の 一のらくろ (戦争)
- 二 浦島太郎 (海とその未来)
- 三 一寸法師 (川)
- 四 ロビンソンクルーソー (海)

- 一の 一 狼カニ合戦 (富山の立体地図)
- 二 妖怪大行進 (戦争の手えたもの)
- 三 清水次郎長 (星座)
- 四 遠山金さん (人間の体の中)

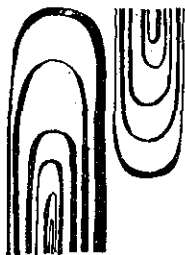
- 三の 一 荒野の七人 (歴史)
- 二 コマーシャル (音楽)
- 三 ナポレオン (革命)
- 四 夕陽のガンマン (若者)

九月

- 九月三日～五日 学校祭(三日、陸上競技大会)
- 九月八日～十三日 会長選挙公示
- 九月十三日～十八日 副会長選挙公示
- 九月十六日 第二十七回代議員会
- 生徒会規約改正について
- 九月十七日 会長選挙
- 高見育郎当選
- 九月二十二日 副会長選挙
- 太田章・土肥千晴当選
- 九月二十三日 一斉委員会
- 九月二十五日 第二十八回代議員会
- 決算説明と質問
- 九月二十八日 第二十九回代議員会
- 決算説明と質問
- 九月二十五日 第三十回代議員会
- 決算承認
- 九月三十日 生徒大会
- 決算承認
- 会長引き継ぎ
- 前期役員のおいさつ



スロクテム



富山大学教育学部付属中学校

学校祭日程

〔第一日目〕

- 陸上競技大会
- 〔第二日目〕
- 開会式
- コーラス部発表(「山の祭」若い枝)
- 演劇部発表(シガマの嫁)
- 個人発表
- フォークダンス
- 部展示・文化の集い
- 郷土に関する歴史・地理的研究
- 郷土に関する映画会
- ラジオ・アマチュア無線について
- アマチュア無線公開実験

学校祭

二年二組 黒田 一

今年の学校祭は別にどこといった欠点もなく、ただ何となく終わった感じである。ぼくの学校祭に関する知識(去年の学校祭)から一口に述べるならば、とてもよかったと思う。第一にクラスの和を築くということ。これはクラス展示、もぎ店などの制作のため朝まだ暗いうちから登校してきたという熱心なクラスもあったことから各クラス員一人一人の信頼は深まり、完璧に各クラスの団結は成立されたと思う。

もう一つは、校内に漂った祭り気分を充分に味わい、勉強のことを全く忘れて楽しむということである。(これが一番大事ナノダ)クラス展示、もぎ店など各クラスの総力が結集されたものを見て歩く楽しさ。これも学校祭ならではのものである。

現在われわれが送っているマンネリ化の継続した学校生活において、学校祭とは生徒一人一人の数少ない緊張感のない気晴らしの場であり楽しみの場である。どちらにしてもわれわれの学校生活において重大な意義を持っていることにまちがいが無いノダノ

学校祭情報

学校祭の裏話——と言っても、あまり思いつかないので、クラス展示を中心に雑感を述べてみようと思う。

一年生のあるクラスへ入ると、私がクラス展示の審査員であることを知っているのか、「おい、来たぞ。」「早くやれやれ。」「という声がおこえ、にわか説明のテープが鳴り出した他のクラスでは、わざわざ説明に来る人がいる。サービスの良いことであった。

二年生のクラス展示。殺風景でガランとしているもの、凝った富山県立体地図を展示しているもの。またあるクラスは、教室を人間の体内に見たてて、愉快な展示をしていた。三年生の各クラスは、若者らしい熱気(?)で満ちつくしていたように思う。テーマも全体に抽象的であった。が、それ故に、同じ傾向に片寄って、独創性に欠けていた面もあったと思う。

さて屋上では、模擬店がずらりと並んでいる。売子は、客引き(?)に懸命である。ポイントリングをさせている店もあったが、これもブームのためだろうか。——三年三組のアイスクリームも好評であったと聞く。
——等々、学校祭の雑感である。(西尾)

学校祭を終えての友告

西尾佳世子

「学校祭の反省事項を書いて下さい。」と原稿用紙をつき出された時、「困ったな。」と思った。いったい何を書けばいいのだろう。だいたい私は、『反省事項』を書くほど余裕を持って学校祭を味わっていないのである。「さて」と思ったところで、良い物を思いついた。この間、役員会で学校祭の反省を話し合ったのだがそれを参考にすればよい。

感想を率直にいうと、「あわただしかったこと」があげられる。準備期間に夏休みをいさみ、準備活動が一時中断されたため、思うように準備が進まず最後になって、バタバタやり出したというようになった。

もう一つは、「自由な雰囲気だったこと」があげられる。自由時間が多かったため、皆気ままに好きなところを回って楽しんで来たようだ。しかし、講演会や部の発表会に出来ないだけじめのない態度はひどいと思う。

クラス展・模擬店・仮装行列・全体会・個人発表・文化部の発表や展示等々……。今年度の反省を生かしてこれらをより充実させ、また、新しい企画もとり入れて、今後の学校祭をすばらしいものにしてほしい。

陸上競技大会

体育委員長 千先 兼二

運動会に続いて陸上競技大会が前期に行なわれたため、とても忙しく、それだけに成功したとは言えない。長い夏休みをほさみ、明けてすぐ行なわれるので、計画をたてるには充分だが現実性を考えると、単なる机上論になつてしまふ。学校祭第一日目としての役割はどうあるべきか、クラス団結の象徴である四千五百メートルリレーをどうするかなどと単なる記録会ではいけないという責任を伴う他の役員は文化祭に忙しく、運動会の際のように協力してもらえなかったためか、荒削りな計画にはやはり破たんが生じた。しかし無事終了することができたのは体育委員の影の努力であり、全生徒の理解のおかげだと思いつても感謝している。

今も耳に聞こえてくる。運動会のような華やかさとは違って、各々が自分自身と戦って記録更新するべく、力をふりしぼって大地をける音、せわしく息をする音……。左右を逆にしてやらねばならないラジオ体操……。しかし心に残ったのは、口で言い表わせない終了後のほっとした気持ち、満足感だった。ほんとうに協力ありがとう。

最後の陸上競技大会

三年三組 松倉京子

最後の学校祭。今、私の心は「思いつきりやっただぞ。」という満足感でいっぱいである。

九月三日の陸上競技大会の日、朝から私の胸はとても激しく鼓動を打っていた。

(もうこれでおしまいなんだ。りっぱな走り納めの日にしよう。)と……。

そして、あの喜び、あの感激、今はただ満足するばかりである。

文化的行事「学校祭」の中に陸上競技大会という体育系統の行事を取り入れたことは、たいへんすばらしいアイデアだと思う。

クラスの展示、仮装行列などで団結し、五十人のクラス対抗リレーでさらに団結を深めてゆく。また、全員が必ず出場する大会だけに個人個人が実際にくやしき、喜びなどを経験する。その喜び、くやしきは、いつまでもひとりひとりの心の中に残るだろう。

学校祭はすばらしい。だが、それ以上に陸上競技大会はすばらしい。

いつまでも絶えることなく続けてほしい。みんなの真剣な顔が浮んでくる。楽しい思い出を一つ作らせてもらった。

校内陸上競技大会

一年四組 室田悦子

学校祭第一日目は、校内陸上競技大会。そのう、あの日は気持ちの良い晴天だったと思います。わたしたちは始めてのせい、みんなとワイワイはしゃいで(?)競技場へと向かって行きました。

大会最大の競技、四、五〇〇メートルリレーでは、わがクラスはなぜか、どういう訳かおしくも三位でした。クラスの団結力が表われると聞いていましたが、やはり、もう一つ何か足りなかったのでしょうか。

しかし、四、五〇〇メートルリレーで敗れても、みんなの実力が集まり女子の学年優勝その上学年総合優勝というすばらしい成績でした。

ある人が、「やっばり、がんばったかいがあった。」と言いました。そう、みんなもいっぱい走り、飛び、そして若さとファイトを燃やしたのですから、もうこれ以上にも言うことはないと思っています。

新記録

三年二組	松倉京子	200 M	30 秒
三年四組	太田 章	100 H	15 秒

十月

十月二日 第一回代議員会

・役員承認

・議長選出

・新設部の説明と承認

十月五日

部登録

十月十一日

予算折衝

十月十二日

三年生の修学旅行(九州方面)

十月十四日

二年生の修学旅行(関西方面)

十月十六日

一年生の修学旅行(中部方面)

十月十八日

第二回代議員会

十月十九日

第三回代議員会

十月二十日

第四回代議員会

十月二十一日

第五回代議員会

十月二十二日

第六回代議員会

十月二十七日

大掃除

十月二十八日

生徒大会

・予算承認と新役員のあいさつ

修学旅行

一年

中京方面

十三日 明治村見学

名古屋観光会館にて宿泊。

十四日 トヨタ自工見学

二年

京都・奈良方面

十二日 彦根城・本田技研見学。

鈴鹿ビレッジで宿泊。

鈴鹿サーキット遊園地・エンジン教室。

十三日 若草山・興福寺・東大寺・春日

大社ら見学。

京都の東寺洛南会館で宿泊。

十四日 二条城・銀閣寺・三十三間堂ら

見学。

京都駅から北陸線で一路富山へ。

三年

九州方面

一年

最も印象に残った明治村

最も印象に残った明治村——そこは、予想外に広く素晴らしいところだった。県庁の白く高い屋根、赤レンガの家々……。小雨の中を歩く人々が、真新しい背広を着た紳士に、美しいドレスを着た貴婦人にと変わっていく。夢の中を歩いているような気がする。じやり道を進むと、機関車が見える、教会の十字架が見える、燈台が、ガス燈が……。明治の人々の大きな遺産、明治村は、私たちに何か貴重なことを教えてくれたように思う。(土肥・井口)

二年 二年一組 志村公三子

修学旅行の一カ月以上も前から、先生方はやれ班の編成だ、やれ係員の決定だのと、忙しかつたようであるが、私たち生徒は、はたしてそうであったらうか。私など、旅行委員の話を「からすのわめき声」程度のものとしてとっていたようである。しかし、さわぎながら集合の練習をしたことも事実である。

午後八時すぎまで鈴鹿サーキットで遊んだ。第一日目は、初日とあって就寝時刻を守った者は二・三人であった。

第二日目どこをどう行つたか、とにかく寺ばかり見物させられ、同じような仏像ばかりを見て来たことが記憶にのこっている。この日は、旅館からの外出も許されなかったし前日の疲れものこっていて、することといえは眠ることぐらいいであった。

第三日目、霧雨にけむる京都といえれば聞えるがいいが、雨具もつけずにきちんと並ばせられ、カメラの前でむりして笑うには少々まいった。

京都の三十三間堂で、解説していた坊さんが我校のことを侮辱したことを除けば、あとは最高に楽しい修学旅行だった。

十一日 富山——大阪——広島

世良源にて宿泊

十二日 平和公園見学

広島駅——佐世保

弓張岳で佐世保の町を展望

鹿子前海浜ホテルにて宿泊

十三日

長崎平和公園

孔子廟(おいしいおいしいサラうどんを食べたのヨ)

大浦天主堂・グラバー邸

めがね橋をバスの中から見学雲

仙に着き地獄めぐりをする

一ノ谷にて宿泊

十四日

フェリーボートに乗る

殉教公園 合津松島にて昼獲天

草パールのライン

水前寺公園・熊本城

九重高原(九重西鉄ホテルで宿

泊)

十五日 阿蘇山に登る、地獄めぐり(別

府)高崎山自然動物園 別府

(寝台車)——大阪

十六日 大阪——富山ああ疲れたんだワ

三年 三年一組 北島節子

初めての九州旅行。そして中学校最後の修学旅行も、あつという間に過ぎてしまった。夜、先生の目をぬすんで友だちと遅くまで話をしたこと、昼、なりふりかまわずバスの中で、ねたこと。夜と昼が反対になったような六日間であったが、今から思い出してみると楽しかったことがいっぱい。特に、四日目の演芸会は、多種多様の演技が見られて、おもしろかった。でもひとつ残念なことに、三日間を汽車にとられ、あとの少しの日数で見学地を回ったので、時間をかけて見たかった所も見ることができずつまらなかった。

さて今度の修学旅行で思ったことだが、一・二年の時に比べて、やはり三年生にもなる。和気あいあいというか、組なども関係なしに、みんなとも仲よくやっていたように思う。そして修学旅行とは、ただ見学地を回るだけでなく、いろいろな友と話をし、新しい見聞を広めて、親しい友との間をよりいっそう深めるためにも大切なものではないかと思う。

とにかく、今度の修学旅行は、私にとって一生の思い出になると思う。

十一月

- 十一月十三日 フォークダンス
- 十六日 第五回代議員会
- 二十二日 先生と役員の話し合い
- 二十四日 合唱コンクール



生徒会 日常活動

○付中生体力増進運動

『ア・クォーター・ランニング』
 体育委員長（千先）が始めたもので
 全校生徒の運動を目的とし、「一日十五
 分間走ろう」というスローガン。
 もう少し盛り上がり方がほしかった。

○美化週間

掃除の徹底を目的として、毎朝中庭の
 除草なども行なう。公德心の向上。

○生徒会（各学級）の週間目標

時間厳守、ホームの充実化、掃除の徹
 底、公德心の向上など一週間ごとの目標
 を作る。行事のない後期の地道な活動。
 印刷物を出すなどPRがよいが、一般生
 徒がどの程度協力してくれるか？

○各種印刷物

部調査を中心とした文化、体育委員会
 誌図書月報、代議員会機関誌、とりわけ
 カレント増刊号が「付中発見」のスポー
 ガンに基づき活発

合唱コンクール 三年四組 堺 正之

クラスの団結を強めるのに効果のある行事
 運動会・新聞コンクール・学校祭……の中に
 合唱コンクールがある。先生から与えられた
 課題曲をこなし、自分たちで選んだ自由曲の
 中に、クラスの個性を発揮することによって
 クラスみんなが協力することの重要性、そし
 て、クラス全員で物事をやり遂げる喜びを、
 感じとることができると思う。

さて、昨年十一月の合唱コンクールの時を
 思い出してみると、どのクラスも、練習を始
 めたのは三週間くらい前だったが、最初の間
 は足並みがそろわず、練習するクラス、それ
 を聞きながら帰ってしまうクラスなど様々だ
 ったものが、日がたつにつれて、練習に熱が
 入るようになり、一週間前にもなると、下校
 時刻ギリギリまで歌うクラスが現われ、どの
 クラスも競争意識をむきだしにして頑張った
 そして当日は、クラス全員が一丸となって声
 を張りあげた……歌い終わった時のあの満足
 感、それまでの努力があったからこそ、僕
 たちの心を満たしてくれたのである。
 このように、合唱コンクールは「クラスの
 団結は、クラス全員の努力によって成る。」と
 いう教訓を僕に再確認させてくれた。

十二月

- 十二月十七日 一年生バレーボール大会
- 十八日 二年生バレーボール大会
- 二十日 三年生バレーボール大会
- 二十二日 終業式

バレーボール大会

二の一 たみこ・さゆり

ライオンズマンの旗が上げられた、〇〇さん
 のサーブがきまった。その一瞬みんなの歓声
 がわきあがった。そうだ一組の女子の優勝が
 きまったのです。

この優勝は、血と涙と汗の結晶です。毎日
 あの苦しい練習に絶え、つらい時も、きびし
 い時も互いに手を取り助け合ったバレーボー
 ル大会、これこそ真にうちとけあえる友情で
 はないでしょうか、チームの和を築くことに
 よってクラス全体の和もでき、固く強くな
 ることにもくじけない人間の姿をみることで
 ききました。

これは、私にとってはよい体験でした。こ
 の体験をものにして、よりいっそう友情を深
 かめ、学校生活のよき思い出にしたいもので
 す。三年生になると、たぶんクラス編成で、
 今のクラスメイトとはばらばらになると思い
 ます。しかし二年生の時の思い出は、一人・
 一人の心の奥にひめられ忘れられないことでし
 ょう。そして、何をしてもあたっても思い出に
 のこるようになりたいものです。

最後に我クラスの男子は、健闘むなしく、
 9位でした。なぜこんなにならうのでしょうか

バスケットボール大会

三年二組 確井貞成

わあ、わあ、わあ、ほら喚声が聞こえるで
 しょう。体育館がこわれそうなくらいに大き
 な拍手、ガラスが割れてしまいそうなくらい
 の女子のかけ声。こうして私たち三年二組は
 男女とも栄光を勝ち得たのです。

二月七日、それは、雪はないけど、とって
 も寒い日でした。前々日の激しい予選をのり
 起えての私たち、優勝するのは、下馬評から
 いっても実力からいっても妥当でした。

ハッスル君、そして、バスケットにかけ
 ては天才のF君、T君、この日初ショットを
 決めたO君、チャンスマーカーI君、長身の
 F君、かっこ良さでは一番のO君、鬼のK君
 Oさんに盛んに声援を送るジェイタイのS君
 タイク・インチョコのYさん、……みんな頑張
 ったんです、そして、このみんなの力で、み
 ごと私たちは、学校祭の陸上競技大会に次ぐ
 独占を果たしました。とっても楽しい大会で
 した。反則なんかも、たくさんあったけど、
 とってもおもしろい大会でした。

○ ○
 その次の日、うつつらと積もった雪。みん
 なの熱戦のあとの興奮をさますに、ふさわし
 いくらいの寒い日でした。

二月

- 十日 第三学期始業式
- 二十日 P.T.S. 討論会
- 二十四日 週間目標の実施

バスケットボール大会

(三年)

- 十日 代議員会
- 十四日 代議員会
- 十五日 会長選挙（稲沢徹君当選）
- 十九日 副会長選挙（古木・中村君
当選）

反省 前期の反省

吉川栄一

ここだけの話ですが、私が会長選挙の時にした演説は、私が小学校の児童会会長選挙に選ばれた演説と本質的には大して変わっていません。公約などなく、生徒会には生徒会員の協力が必要であるということ、生徒会の本質であると思っています。

さて、私は、その協力するという意識をどうやって呼びさまそうかと思案しましたが、結局、行事、日常活動を問わず、なににごにも、役員が誠意と努力をもつてぶつかり、また、常に生徒全員との交流をおこらざるにいなれば、自ずと、生徒会員の協力が生まれるのではないかと考えて活動することにしました。

その結果が前期の活動です。一部の甘い坊たちから燃惑を買いましたが、自分の信念に基づいてやってきたことですから、私のしたことはまちがっていないと思っています。

前期六カ月間の生徒会活動に私ひとりとして助けて下さった先生方、役員諸君、そして何よりも大きな力は、みなさんの協力です。

前期

半分満足半分反省

針原寿朗

六カ月間副会長をしてみて、先ず思いつくのは、副会長の仕事はできたが、公約はあまり守れなかったということです。立合い演説の時言った細かい公約は守れましたが、公約の主旨は、あまり達せられませんでした。

しかし、こうやって任期が終ったから考えると、自分自身得ることが多かったように思います。また仕事をやり遂げたという満足感も半分あります。

副会長の六カ月は、半分満足、半分反省といった時間だったのでしょうか。

こずかいより

金子 巖

自分は生徒会のこずかいを六カ月間やったこずかいの義務を完全にやれたかわからないゲーテ曰く、

はたされた義務は、やはり負い目として感ぜられる。われわれはけっして完全に満足するようにやったことはないのだから。

「格言と反省」から

会計

遠藤美樹子

「会計の殻を破って役員としても何かをしよう」と最初は希望に燃えていた私でしたがいつの間にか、出納帳をつけるだけで六カ月が過ぎてしまいました。しかも、私はソロバンが大の苦手なので矢敗ばかり。本当に申しわけありませんでした。

仕事の終わった今、毎日コンコン整理していく大切さを思い知らされている私です。

会計

三ノ四 塚 正之

前期は多くの行事があり、委員会や部の活動も活発だった。それに伴って予算も多くなり、会計もやりがいがあった。と言うと聞こえはいいが、実はこの僕、そろばんは全くできない。それに加えて、帳簿をつけることは苦手というから、会計としては全く無能だった。しかし、そんな僕でも、生徒会役員の一員として、行事を支えるための雑用ができたことには喜びを感じたものだ。

請求書に追いまくられる日もあったが、他の面で生徒会というものを知るよい経験ができたことを、うれしく思う。

書記

山川 恭代

今から思えば、前期六カ月間の私の生活はたいへん充実していたと思います。

もちろん書記の仕事は忙しくて、私がふりまわされているという感じがしないではありませんが、私なりに一生懸命やりました。ですから、その結果がどうであろうと今はとても満足な気持ちです。

しかし一つ気がかりなのは、備品の紛失が多かったことです。後期の事務局員の人にはしっかりと管理をして欲しいと思います。

みなさん、この半年間ありがとうございました。

書記

正橋 立子

あつというまにすぎさつた六カ月間、なんにもしないうちにおわつてしまったようです。六カ月前には、希望に燃えて(?)いろいろなやろうとはりきつていたのですが、今あらためて考えてみれば、思い出されるのは苦しい失敗談ばかりです。

けれど、私自身書記として、へたな字の印刷物でも、なんとか、みなさんの役に立つことをたいへん嬉しく思いました。

また、他の役員の方々から、学ぶことも多く、勉強になりました。

どうも、ありがとうございました。

総務委員長 高見 育郎

前期総務委員会の最大の問題点は、一部の人だけへの活動しかなかったということ。つまり、交歓会にしても、トレセンにしても全員参加ではなくて、代表の人しか出ませんでした。確かに、場所や運営上やむをえなかったのですが、それならそれで、JRC週間や何なりを行ない、付中生全員の精神高揚に努めるべきでした。一部の人から間接的にJRCや親善交流を全体に促がそうとしたところに私の浅はかさがあったように思われ、反省しております。

校紀委員長の反省と回顧 太田 章

今期は、今までにない経験を校紀委員長という立場で、させてもらった。

朝早く学校に来て役員会に出て、朝の遅刻者を調べる。放課後には、下校時刻十五分前の放送をする。下校時の遅刻者を調べる。

これだけではない。行事あるごとに、司会をさせていたで、多少とちる。役員として、運動会・学校祭の係長となる。神通川へ偵察に。etc.

校紀委員会の話は出ませんでした。委員の方でもよくやりました。おわり

文化委員長を終えて

西尾佳世子

文化委員長を依頼されたとき、私はいへん驚いた。「エッ、私が文化委員長!」

しかし、後期となった今、「何とか無事にやってこられたのだなあ」と思う。写生大会新聞コンクール、学校祭……等々。失敗の多い半年だったが、精一杯頑張ってきたつもりである。

体育委員会

委員長 千先 康二

今期の体育委員会は、仕事が多くどれも中途はんばに終わったような気がします。体育関係二大行事(運動会、陸上競技大会)に加わえ、ア、クオーターランニング……etc.

いちばん心残りなのは、ア、クオーターランニングが不活発なことです。ただ走れというのではなくその効果や体力についての意識を高めようと考えていたのですが、行事の関係などでついに放置状態同様になったりもしました。しかし委員の協力もよく私としては有意義だったと思います。

保健委員会

委員長 川上 元秀

だいたい保健委員会は、掃除のことばかりやるのではなく、もっと広い活動をしなくてはいけないのがたてまえです。ところで、保健委員会は、前々から「掃除委員会」という汚名がつけられています。掃除という保健委員会の仕事の一部分しかやっていなかったということ。ところが今期は、その一部分の仕事である掃除に關しての仕事も満足にできませんでした。

まったく反省の至りです、深くおわびします。

公徳委員会

委員長 宮崎 研一

今期の活動の反省点といわれれば、全てが反省点である。いろいろと考え、悩んだが、結局できずじまいに終わってしまった。

公徳心というものを、辞書では、「世間一般の道徳的な心」というような抽象的なものでしか表わされていない。付中生に欠けているといわれている「公徳心」というものを具体的に表現するといった何だろう。だれにもそれが常識化するためには、どうすればよいか。

それを半年の間、考え続けてきたつもりだが、結局、わからずに終わった。

報道委員会

委員長 林 裕一

前期は、たいへん行事が多くあり、報道委員会は、おもてだったことは、何もできませんでしたが、その行事にあわせて、やりたいことを、自由に、行なってきたつもりです。いろいろな、機械の操作のほかに、福井や金沢の放送部との交歓や、学校祭での、4チャンネルステレオコンサートなどと、委員会の活動とは、いえないくらいのことまで、やってきました。ですから、私は、たいへん満足です。

編集委員会

中川 徹

仕事を終えて仕舞った現在、自分の遣って来たことに就いて思い反して見て、何かしら皆に申し訳ない気がしてならない。前期六カ月と言ふ時間、付中の歴史の記録であるカレンダー製作を為ると言う名目、その他一寸の隙も許されぬことを総て任せながらも、それを十分認識し、仕事に臨まなかった。そして、自分は、如何に不真面目で有ったかと言ふことが今になってひしと感られて来るのである。自分では良く遣ったと思つて来りわゆる一人芝居とか自己満足だと言ふ風に批判された原因もここに有ったようである。兎も角、私の遣つたことは失敗であり、皆に許して貰きたい。なお、今後の委員長には真逆、私のような者は居ないと思うが十分自分の責任を考え立派に活動して戴きたい。

後期

副会長

太田 章

図書委員長・校紀委員長・副会長と、三期連続の役員はたいへんであった。校紀委員長で打ち止めの予定であったが、会長選挙に当選した高見青郎君の顔を見ると、どうしてもならざるをえなくなったのである。

三期の役員のうちで、最つもむづかしいのが副会長であった。これといつて定められた仕事がないことや、補佐であつて自分の考えどおりにいかないことなど、むづかしいことぞろいであつた。副会長を今後めざす生徒諸君、心の底にひめておいてくれ。

副会長

土肥 千春

あつという間に過ぎていった半年。雑用は、何かやれるだけのことをしたつもりですが、会長補佐、生徒会委員の補佐となると、努力はしてみました。やりとげるところまではいきませんでした。週間目標の実施については、精一杯努力しましたが、時期的に、やや遅かつたような気がします。しかし、半年の間、生徒会のために何かできたということ、とても幸せに思っています。

前期をふり返って

図書 越崎

こうやって「山なみ」の原稿を渡されるとやつと終つたんだナと思えてくる。役員として委員長として、クラスの一員として、はたして、どれだけ充実していたのだろう。今、原稿を書く資格が私にあるのだろうか。なんだか、ぼさつとしていられるうちに、私だけが残されたみたい。まだ、委員長の時の気分があつて、「図書委員長は……」なんていわれると、ドキッとす。長かつた六カ月いる、いろあつた六カ月、でもそれはそれなりに私にプラスになつたと思う。

代議員会

代議員議長 石本 裕

代議員の出席——代議員は、何と考へていられるでしょうか。義務と共に命と等しい物なのです。出席の少ない代議員、多いに反省すべし、また、出席の義務の代償として(？)決議権が与えられていると思ひますが、例年と同様に今期の代議員も全生徒の決議権を預かっていることを考慮に入れていられる方が少なく、軽々しく決議権を使用しているようです。代議員となつた以上、自分ひとりの身ではないということと深く刻み込んでほしいです。常設委員会活動しかり、また議会で態度、校内外の活動、態度しかり、いつも生徒会員が見ているということを忘れずに——。

會計

河西千佳子

時のたつのは、はやいものです。もう反省文を書かされる時が来ました。従来と違つた型破りのことをやろうと思つて、はりきつて仕事についたのですが、結局、マンネリ化した会計の典型的な例として終わってしまいました。六カ月の経験は、いろんな面でプラスになりました。思つたとおりにやれませんでした。一生懸命がんばつたつもりです。みなさん長い間ご協力ありがとうございました。

會計

龜谷 直子

私のような者に会計の仕事ができるだろうかと心配でしたが、ようやく終えた今はホッと一息ついていきます。何をやったのか？と考へてみると、毎日役員会におくれないように早く来て、時には掃除をしたり、心残りなのは、与えられたことしかできなかったことです。しかし、私は名だけの役員だっただけ、役員としての体験が、私にとって何らかのプラスになり、うれしく思います。

回顧

反省

Discover 号航海記 高見 青郎

「Discover・号」の旗をマストに掲げ、「付中発見号」は多数の船と共に、目の前の「後期」という海洋に出帆した。われわれの目的は見失われつつある付中生のよき、特質というものをこの航海で発見することだつた。

しかし、いっこうにその姿は浮かんでこなかった。甲板の前には、いつも暗い海があるばかりである。

だが、私たちは、何かを忘れてはいなかった。過去の付中は、すばらしかった。といわれるそのわけを——。

付中の歴史は回転す。大きな歯車が、その一枚一枚の歯の独特の音をたてながら回転し形成してきた歴史だ。独特の音といつてもそれは、わずかずつの音の連なりだ。つまり、連続の中における音の変異にほかならない。わずかずつの変異それは、おれが作っていくのか。われわれ自身ではないのか。われわれ、付中生自身が、過去の伝統を受けついで創造していくのだ。

歯車の一刻み。それが付中を作るもとであり、われわれが、そのにないでであったことを、忘れてはいなかったらうか。

書記

町野 美子

「目立たないが、何かその支えとなる仕事」それが書記ではないでしょうか。一つの仕事を一生懸命行ない、それがうまくいった時の快さ。この半年間、痛烈に味わったこの仕事本場の「縁の下力持ち」になれませんでした。が、初めて体験してみ、働く楽しさ、仕事に熱中した後の充実感。これらを知ったことは、私自身としても、大きな収穫だったと思います。

書記

今野 直樹

この半年間をふり返ってみると、はたしてぼくは書記の仕事をやったのだろうか？と自分を疑いたくなってきました。なんだかいつも人にたよってばかりいたようで、ほんとうにスママセン。でも今考えてみると、どうして字がまずいこのぼくがこの半年間書記がつづけられたのか不思議です。それは、やっぱり他の役人のみなさんにいろいろと教えていただいたおかげだと思います。何はともあれ付中生徒会員の一人としてみなさんに少しでも役だっていればさいわいだと思っております。

総務委員長

森 久志

過ぎてしまったことは、もう今からどうなるものではない、だから反省というものは好きではない。僕の場合、反省してみると不愉快になるだけだ。後期をふりかえてもやっぱり不愉快。具体的な活動のない委員会だけに、また僕が二年生だというためにたいへんやりにくい。何をしようか考えているうちに終るみたいだ。とにかくほめられることは一度もなかった。僕は来期の委員長をめだたせるだけの役だったのだろうか。やっぱり反省はしないほうがよかった。僕、不愉快！

付中生 校紀委員長

野上 豊

今期、活動をして感じたことは、現在の付中生が非常にだらけているということだ。遅刻をしては、寝過ごしたと言ひ、腹が減ったからと言っては買ひ食ひをする。まったく今の付中生は「ばか」としか言いようがない。

付中生諸君、君らはいったい何をしにこの付中へ来たのか。規律のない自由を求めに来たのか。そんな身がってな気持ちで来たのか自由が欲しければまず規律を守りたまえ。もつと付中生であることを自覚しろ。

保健委員長

長沢 峰己

例年ここに書かなければならないことは、反省文と決まっている。しかし、私はしらじらしい反省文など書く気はまったくない。

今期、私は朝掃除の時間にしばしば各クラス(特に一・二年生)に興奮きみどなりこんでいったのであるが、どのクラスも、私のことばなど聞き入れず、いつも「掃除当番じゃないよ。」とかうまい口実を設けて私を適当にあしらってくれるのである。まったく悲しいではないか。

公德委員長

川原 稔

「積極的な公德委員会に」と思いながら、結局何もすることができなかった。カレントでもそうとうたかかれていたが、やはりこの失敗の一番の原因は、パン販売にあると思う販売委員がだれもいなく、パン・牛乳券がおきっぱなしになってることが、よくある。学級販売などを試みてみたが結局は失敗におわっている。クラス訪問も一学年だけであった「公德心の向上」のためには、委員が信用を得、もはんとするべきだ。来期に期待したい。

流れ

碓井 貞成

流れは止まることを知らない。何時までも流れる――

川の流れ……海へつづぎ、

枯渇も生まれる……

☆

しかし、青春の流れは、奥深く流れてる。

何時迄も枯れを知らない。

輩から輩へと受けつがれて、

……流れは水劫回帰

報道委員会

広野 幸治

卒業を目前にして言うことがずいぶんと無責任なようですが、今期はぼく自体がたいへん怠慢だっと思っています。一応なんとか最低限度の委員会の機能ははたしていたつもりですが、それもどうやらあやしかったようです。来期の人はずいぶんと画期的な計画ももっておられるようですし、ぼくに言えることは、来期は先期にくらべてなんとよかったですのだからと言われるようになってほしいということです。みなさんにも大変ご迷惑をおかけしましたが、どうも半年間ありがとうございました。

文化委員長

野村 克信

適当にやったように思えます。合唱コンクールは、なんとか、うまくいきましたが、文化委員会は、行事執行委員会では、ないと思気こんでいたのでしたが、やっぱりそれしかできませんでした。後悔してもしょうがないことです。また一人の役員として、不まじめだったことをお許し下さい。

後期の反省(体育委)

八島 裕二

後期、体育委員長をやってみて、いちばん感じたことは、人を動かすことのむずかしさである。委員を充分に動かすこともできないのに、一学年を、また全校生徒を相手に、一つの行事を行なっていくことは、人にたよらないといわれるこの私にとって、むりなことだったのかも知れない。しかし、いっしょうけんめいに何が何だかわからぬくらいにやってみて、今、心に残っているのは、一つの喜び(自己満足)である。何もやらなくてそんなことを思うなんて、みなさんに申しわけないのだが、でも私はなんとなくうれいのである。

図書委員長

湖東 豊子

今期の図書委員会も図書館を開館して閉館したにすぎませんでした。

利用者の数も本の貸し出し数も、以前とあまり変わりありません。図書館を開館しても当番がいなかったりしてみなさんに迷惑ばかりかけていました。みなさん、ほんとうに申し訳けございませんでした。

代議員議長を終えて

西尾佳世子

代議員会議長を引き受けてから、私は「しまった。」と思いました。早口で、言い方の回りくどい私に、議長など勤まる訳がありません。――案の定、失敗が多くて……。それに、代議員会議長として不真面目だったことも反省しています。

会長はじめ生徒会員の皆さん、どうもすみませんでした。

昭和四十六年度後期予算

<執行委員会>		<文化系部>	
総務委員会	230	生物部	6,000
校紀委員会	220	演劇部	3,900
文化委員会	490	園芸部	8,080
図書委員会	22,800	コーラス部	2,100
体育委員会	300	郷土部	1,490
報道委員会	15,130	ブラスバンド部	200
編集委員会	81,150	古典部	1,350
公德委員会	720	ラジオ部	16,000
保健委員会	420	絵画部	10,000
計	121,460	科学部	3,680
		写真部	21,516
<体育系部>		計	74,316
サッカー部	25,400	<事務局>	29,750
陸上部	5,550	<山なみ>	133,000
水泳部	8,100	総収入	489,220
テニス部	9,400	総支出	483,856
野球部	9,980	予備	5,364
バスケット部	22,800		
バレー部	17,600		
卓球部	4,500		
バドミントン部	22,000		
計	125,330		

昭和四十六年度前期生徒会予算

<執行委員会>				<文化系クラブ>			
	予算	使用金額	残金		予算	使用金額	残金
総務	18,200	16,965	1,235	科学	16,000	15,535	465
校紀	590	0	590	天文	5,800	0	0
文化	7,345	31,506	-24,161	コーラス	578	0	0
体育	1,510	1,295	215	郷土	7,620	4,135	3,485
図書	23,670	8,004	15,666	演劇	10,600	9,030	1,570
編集	70,000	70,000	0	絵画	9,600	8,510	1,090
報道	10,460	8,870	1,590	古典	480	720	-240
保健	950	0	950	写真	9,580	10,100	-520
公德	0	5,840	-5,840	ラジオ	4,375	4,355	20
計	132,725	142,480	-9,755	園芸	56,75	3,755	1,920
<体育系クラブ>				計	64,965	57,195	7,700
テニス	13,300	11,690	1,610	<山なみ>			
卓球	29,800	1,800	28,000		100,000	100,000	0
バドミントン	19,200	18,500	700	<事務局>			
陸上	9,400	9,200	200		30,720	33,538	-2,818
バレー	18,400	18,400	0	<予備費>			
サッカー	24,600	24,010	590		25,558	48,585	-23,027
バスケット	23,400	22,800	600	総収入			
野球	12,560	11,350	1,210		505,278		
計	151,310	117,750	33,560	総支出		499,548	
				残金			5,730
				来期くりこし			5,730円

富山大学教育学部附属中学校生徒会歴代会長名簿

年度	期	歴代	氏名	卒業
昭24年度前期	初代	奥野	岳男	(2)
(1回)後期	二代	酒井	晃	(2)
昭25年度前期	三代	久世	光彦	(3)
(2回)後期	四代	田中	彰二	(3)
昭26年度前期	五代	溝上	恵	(4)
(3回)後期	六代	杉本	勝一	(4)
昭27年度前期	七代	源	良胤	(5)
(4回)後期	八代	林	秀広	(5)
昭28年度前期	九代	橋爪	欣三	(6)
(5回)後期	十代	中川	正昭	(6)
昭29年度前期十一代	玉生	卓也	(7)	
(6回)後期十二代	中田	民男	(7)	
昭30年度前期十三代	三由	雄介	(8)	
(7回)後期十四代	近藤	俊夫	(8)	
昭31年度前期十五代	高橋	純	(10)	
(8回)後期十六代	高橋	正彦	(9)	
昭32年度前期十七代	小谷	徹夫	(10)	
(9回)後期十八代	田中	常弘	(11)	
昭33年度前期十九代	長勢	甚遠	(11)	
(10回)後期二十〇代	福田	護	(11)	
昭34年度前期二二代	斉藤	鷹穂	(12)	
(11回)後期二三代	関野	晋	(12)	
昭35年度前期二三代	中山	剛	(13)	
(12回)後期二四代	数土	幸夫	(31)	
昭36年度前期二五代	関	栄一	(15)	
(13回)後期二六代	吉村	庄市	(14)	
昭37年度前期二七代	浜松	誠二	(15)	
(14回)後期二八代	細川	興一	(15)	
昭38年度前期二九代	吉田	進	(16)	
(15回)後期三〇代	若林	秀樹	(16)	
昭39年度前期三二代	田中	徹博	(17)	
(16回)後期三三代	川岸	悟	(17)	
昭40年度前期三三代	米田	保晴	(18)	
(17回)後期三四代	佐野	申治	(18)	
昭41年度前期三五代	吉田	宏	(19)	
(18回)後期三六代	中道	勇	(19)	
昭42年度前期三七代	高野	好朗	(20)	
(19回)後期三八代	津田	秀二	(20)	
昭43年度前期三九代	鹿熊	正一	(21)	
(20回)後期四〇代	深山	正久	(21)	
昭44年度前期四一代	須田	満	(22)	
(21回)後期四二代	高橋	正樹	(22)	
昭45年度前期四三代	高木	哲也	(23)	
(22回)後期四四代	柴田	敏彦	(23)	
昭45年度前期四五代	吉川	栄一	(24)	
(23回)後期四六代	高見	育郎	(24)	

部 回 顧

きびしい練習が要求される部

先輩たちが築きかけた栄光を、今われわれが白紙に返してしまった。
昨年度の秋季の市体ではサーブもろくにきまらず、一回戦で敗退した。レシーブ、トス、スパイク、全ての点でおとっていたからだ。他校の磨かれた技術にわれわれは閉口して脱帽するだけだった。

なぜそうなってしまったのかと言われると理由は簡単。人員の不足と練習量の不足である。バレーボールが六人でおこなわれる以上当然六人は必要であるが、その人数すら集まらなかった。広いコートに二十人あまりもの女子が練習していて、はじき出された二、三人のあわれな少年たちがバス練習をしている。そんな姿が今も目に浮かんでくる。
しかし、敗戦後われわれは、もっと欠けていたものがわかった。それはバレーボールに対する熱意であり愛着であったと思う。どん

なに女子にばかりにされても、試合に勝てなくても、必死になって練習し、ボールについていけば、いつかボールがほほえんでくれる。そう思っただけで練習を開始した。

毎朝七時四十五分までに体育館へ来ないものは罰金を支払うことになった。また放課後も欠かさず練習をした。部員もいつも六人以上の出席を見るようになった。レシーブカも向上したし、サーブも安定してきた。

そして、練習試合で芝中に初勝利をおさめることができた。われわれは確かにうれしかった。だがいくら力がついたとはいえず、一カ月そこそこでそう強くなるものではない。それよりも練習を通して皆の心の中に「バレーボール」へのそして「勝利」への執念が生まれたのではないかと思う。われわれはまだまだ練習が足りない。過去の先輩たちの練習はもっと激しくきびしかった。今の練習は、非常にまじめかと思えば、一変してだらけたり、むらが多いのが目につく。これでは、いつまでも実力がつかぬことは真実であり事実だ

男子

秋季大会

地区大会

一回戦不戦勝

二回戦
付2 - 1 芝

付
21 21
1 3
大

三回戦

準決勝

付2 - 1 岩
決勝戦
付0 - 2 東

付
18 11
21 21
岩

女子

秋季大会

一回戦

二回戦

付
15 15 14
3 2 19
新

付
15 15
5 0
西

三回戦

決勝

付
15 15
10 12
水

付
12 15 14
15 9 16
東

野球

練習はした。でも……。

ある時ある人が、ぼくに言った。「野球部は試合に勝った時がないじゃないか。いったい練習しているのか。」と。

ぼくは答えた。「もちろん練習しているよ。ただ試合に勝てないんだ。」と。

この文を読む人には、ぼくの負けおしんどしかとらない人がいるかもしれない。

しかしぼくらはたしかに練習した。

放課後には全員が必ず集まり、下校時刻ぎりぎりまでやった。試合の二週間前にもなると朝早くから来て練習した。それなのにぼくらは先にも述べたように試合にはあまり勝っていない。なぜ勝てないのか……。

それは野球と他のスポーツのちがいにのっとなつていて、中学校の野球においてなくてはならないのは、ピッチャーである。信用できるピッチャーが絶対に必要なのだ。そのピッチャーがぼくらの時には出なかつたのである。つまり不作だったのだ。

それゆえにぼくらがいれさせたとく点の大部分は、ピッチャーの自責点だったのである。

つまりファールボール・死球などが相手方のお点の大部分だったのである。

だからぼくらの後輩にせひともやってほしいことは、必ずよいピッチャーを作れということである。

もう一つは冬の間の練習不足による持久力の低下です。これは、よいピッチャーをつくれなかつた理由だったからである。

他の部が体育館でやっているのがどんなにはがゆかつたことか。せめて旧体育館を使用させてくれれば、冬の間そればかり思っていた。

しかし何にせよ、試合には一度しか勝てなかつたことは確かである。すぎ去つたことをいくら悔んでもしょうがない。

次の野球部にぜひがんばってもらわなくては……。

みなさん期待して下さい。(川腰)

試合結果

春期大会

付属 0-4 西部

市民大会

付属 2-18 南部

新人戦

付属 0-2 水橋

なお五月一日に強豪長羽中学を相手に練習試合をし、大熱戦の末三対一で付属の勝利

練習試合

付属 3-1 呉羽

四十六年度サッカー部試合結果

・春季大会

一回戦 ○付属 3-0 山室

二〇 付属 0-3 芝中〇

・市民体育大会

一回戦 不戦勝

二〇 ○付属 3-3 北部

三〇 付属 2-3 和合〇

「ベスト四」

新人戦

一回戦 ○付属 5-0 山室

二〇 ○付属 4-1 大泉

準決勝 ○付属 4-3 西部

決勝 付属 1-2 和合

「準優勝」

富山地区大会

準決勝 ○付属 3-0 八尾

決勝 ○付属 2-0 大久保

「優勝」

サッカー

これからに期待しよう。

サッカー部、県下一の実力を持ち輝かしい記録を打ちたた。わが校で最も伝統ある部です。

昭和二十四年発足し、二十六年に早くも完全優勝をなしとげたこの部は、続いて二十七・二十八・三十一・三十二年と完全優勝を果たしました。そして三十五年、ついにその力は頂点にたつし、不滅の大記録を樹立したのでした。通算得点九十九、失点〇、まさに世紀の大記録と呼ぶにふさわしい成績です。この頃のサッカー部は、むかうところ敵なし、ゲーム内容も一方的なワンサイドゲームがほとんどでした。また、それから二年後の三十七年にも、六十二対〇の無失点記録を打ちたたしました。

しかしこの黄金時代の後、サッカー部はなぜかパッとしたところがないまま、現在にいたっています。あれから十年、あの闘志、あの根性、今はどこへ行ってしまったのでしょうか。

今年度のサッカー部は、三年生にはあまりはなやかなところがありませんでしたが、後期に入つて、二年生が、秋季大会準優勝、富山地区大会優勝など、非常によい成績をおさめています。二年生は現在まで、六勝一敗の成績をです。しかし今の二年生の力は、かならずしも安定しているとはいえません。これは練習不足が大きな原因となつているのでしよう。

今のサッカー部の大きな悩みは、人数が不足していることです。現在のサッカー部員は二年生が十四・五人、一年生はわずか九人です。しかも、ふだんから練習に参加しているのは、わずか六・七人にすぎません。サッカーは十一人で行なうスポーツです。サッカーは、チームワークを最も必要とするスポーツです。わずかに六・七人では、思ったように練習できませんし、士気も高まりません。前にも書いた安定した力が、私たちにどうして必要なのです。ですから私たちサッカー部員は、ファイトのある人がほしいのです。ぼくたちの士気を高めてくれるような人を。伝統あるサッカー部の歴史に、私たちと共に輝やかしい一ページをきざさうではありませんか。

卓球

やる気のある部員を

スポーツとして、またレクリエーションとして、卓球ほどブレイ可能人口の多いものはないと思う。

卓球の特色

- 一、卓球は、きわめて頭腦的で、デリケートなスポーツである。
- 二、微妙な運動神経を必要とするスポーツである。
- 三、誰にでもできるスポーツである。
- 四、想像以上のエネルギーを消費するスポーツである。

あらゆるスポーツと同様に、卓球においても心・技・体のトレーニングが必要である。この心・技・体のどれか一つが劣ってもよいプレーヤーになることは、むずかしい。それで、トレーニングによって、心・技・体を一様に高めていかなければならない。つまり、丈夫な体を作りそして、精神・技を向上させることなのである。このようなトレーニングは、必ず毎日やらねばならないのである。

近年卓球部は、練習不足とやる気のある部

員不足のため、ほとんど一回戦で敗れた。

だから、今学期からは毎日練習をし、また、近くの中学校などと練習試合をして、強くなることを目標として努力している。いつでも上位へ勝ち進むようにするため、今期と来期一年間をかけて、基礎トレーニング、技の向上に重点をおいて練習するつもりである。

今、卓球部に必要なもの、それは本当にやる気のある「心」だと思ふ。

特にぼくらの後に続く一年生は、わずか三名しかいません。

場所は、旧体育館を卓球部だけで使わせてもらっているため、毎日練習できますが、電燈がないため、冬になると暗くて練習がやりにくくなります。

ぼくらは、強くなることを目標として、毎日練習にはげんでがんばっています。

そして、次の大会には、立派な記録を残すようにがんばりたいと思います。

一年生のみなさん、今卓球部は、あなた方の力を必要としています。これから、あなたのその手で将来の卓球部を、築こうではありませんか。

(金盛)

(試合結果)

(男子)

新人戦

団体戦 (対和合中)

安川0	池田2	8	11	9	11
清水0	五十嵐2	8	11	7	11
中村1	(五十嵐)	2	9	11	11
金盛1	加藤	2	11	9	11

個人戦

中村2	橋本0	11	3	11	4
金盛0	松田2	8	11	9	11
中村0	八ッ橋2	5	11	7	11

(女子)

新人戦

団体戦 (対北部中)

高信1	堀	2	9	11	9
野上1	上田2	7	11	11	8
(西野)	(後藤)	7	8	11	11
稲垣0	村田2	7	11	11	11

個人戦

高信0	村田2	8	11	6	11
野上0	松田2	9	11	8	11

バスケット

全国にはばたけ付中の籠球

近年の「山なみ」の部活動のページを見ると、どの部も昔は強かった。しかし現状は、「というふがいないことである。しかし今年の「山なみ」のバスケット部のページには、これらの言葉は不要である。なぜならわが部は「付中の部は弱い」という汚名をいち早く解消した部であり、付中で最も期待されている部である。このようになった足跡を振り返ると。(男子)まず春季中体連。三年生のみ

なさんが準優勝という今大会付中で最も素晴らしい活躍に運がよかった。」とか「まぐれた。」なんていう声もきかれ、本当にその力を認める人は、少なかつた。しかし、その声に奮気したのか市体ではみごと優勝しバスケット部の力を実証した。そして榮譽ある具体出場権を獲得した。具体でも付中バスケット部は、堂々と戦った。惜しくも一回戦で敗退したものの、決勝進出の相手校に一点差という少

差で敗れるという大健闘でした。

また二年生も負けじと、対芝中練習試合に

一〇三対一〇という驚異的な点差で大勝した

のをはじめ、付中バスケット部創設以来、はじめての新人戦優勝という偉業もなしとげたまた地区大会でも優勝のがしたが、準優勝した。

ここに付中バスケット部の新しい伝統をつくりあげた訳である。この新しい伝統をつくりあげたことの原因は何であろう。

それは部員一人一人がバスケットボールというものが、好きだからではないかと思う。

練習は、毎日男女合わせ三十人以上は出席し練習もまじめだった。男子は、夏休みの間、ほとんど毎日学校で口では言い表わせないほどの練習にたえてきた。しかしこの練習から逃げだそうとする者は、一人もいなかった。

このように歯をくいしばってがんばってこれたのは、やはりバスケットが好きでなければできなかったと思う。まさに「好きこそもののしようずなれ」である。

女子はいま一つ力が足りないようで成績もおもしろくなかったが、バスケットが好きということには変わりなく、今後大いに活躍が期待できる。

今、伝統を守りつづけ、優勝は当然という必勝の信念をもって、全国大会へと意気上がっている、バスケット部である。(滝脇)

(試合結果)

(男子)

三年生

春季中体連 準優勝

市体 優勝

具体出場

一年生

新人戦

二回戦 付属46対41奥田

三々 付属33対24南部

決勝戦 付属50対29大泉

付属優勝

地区大会

二回戦 付属40対22西部

決勝戦 付属34対37八尾

付属準優勝

練習試合

対芝中戦 付属108対10芝園

(女子)

一年生

新人戦

一回戦 付属48対16東部

二々 付属18対24堀川

水泳

来年こそは一位を

最近、やっと名前の売れてきた部。それと
いうのも、一年の中川さんの大活躍によつて
やっと、そんな部があつたのかと知られるよ
うになつたのです。部長の私は残念ながら、
なんの役にも立っていないようなのです。

さて、この部は、全員でたった七人しかい
ない小さな部なのです。そして全員女子、二
年生が一人（これは私）そのあと六人はみん
な一年生です。

前期、六月ごろしつこく金井先生につきま
とい、やっとプールそうじまでにこぎつけ、
毎日あきもせず、せつせとプールそうじにせ
いを出しました。みんなとてもまじめで、い
つもほとんど全員参加、そうじだからいやだ
などという人は一もいず、みんなやるぞとい
う意志に燃えていました。

プールにはいれるようになってからは、雨
の降る日も、ほとんど毎日はいりました。
練習内容としては、軽かつたのですが、それ
なりに効果はあつたようです。

何よりも大事なものは、みんなにやる気が、

あつたということなのです。みんな試合での
ゲス脱出に執念を燃やしていたのです。

なんせ、私が一年の時、試合を見にいった
ら、付中はゲスで、名前もいってもらえなかつた
のでした。こんなはずかしいことは、二度と
度としないぞと、その時固く固く決心したので
あります。

一年生が大部分のこの部では、二年生がか
たみのせまい思いをしなければなりません。
あまりに活発な一年生たちが、とつびようし
もないことをしよつちゅう言うので、最初は
おどおどしまどい、一年生にかすかな反抗を
しようとしてしまつたが、ついには恐怖心をいだ
くようになりました。今では、もうあきらめ
鷹倒にもたえて、わびしく部長をしているの
です。

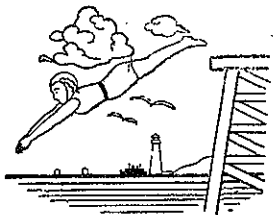
水泳は、前期は泳げますが、後期はおもに
陸上でのハードトレーニングが中心となりま
す。泳げないからおもしろくない、いいかげ
んにやる、などということはなく、来年こそ
は、一位になるぞ、という意欲に燃えてガン
バルのであります。

(野口)

〔試合結果〕

○春季中体連	5位
○地区大会	5位
○市民体育大会	3位
なお、このときは：	
百メートル自由型	中川弘子 1位
二百メートル自由型	〃 1位
メドレーリレー	〃 1位
四百メートルリレー	〃 2位

であつた。



演劇部

―協力で築きあげた一時間―

『スタッフのみなさん、ありがとう』

開舞、十分前。
こわいような時間です。心臓の鼓動が、か
らだ全体にびびき、額には、にこつた汗が、
たらたらこぼれおちるんです。

セリフが、頭から消えうせてしまったよう
な気がした時、もう幕は、上がっていました
耳まで赤くなるほどあがつていて、出たく
ない。この一時間が一秒であれば――。

でも私たちは、舞台に立ちました。練習の
時笑いながらやった所も、主役がまじめにな
つたことで、どうにかまとまったように思ひ
ます。

結局、悲劇が喜劇になつたへたくそな劇で
したが、やり終えたという喜びで私は、ほん
とうによい経験をしたと思つています。

そう、私は、今回の劇で、ほんとうに感謝
しなければならぬ人たちが、たくさんいる
と思ひます。

それは、スタッフの三年生と、顧問の先生
方、先輩たちです。

ほんとにあの時、お世話になりました。
今まで私たちと、かわらない存在であつた
三年生の特に男子は、たのもしくて、びっく
りしました。

舞台装置をせつせと作つてくれたあの姿、
誰かさんなどは、手がすべつてけがまでした
そうです。それでも私たちのへたな劇のため
にがんばつてくれて――。

また、台風が近ずいた日の夕方、雨風の中
を、びしょぬれになってベニアをはこんでく
れたんです。

先生方のおかげで、思つてもみなかつたよ
うな支関つきの舞台になつて、みんなで喜ん
でおりました。また、セリフ、歌のほうも、
例年のように大学の生徒さんの助けがなかつた
ものですか、先生方の助けで、どうにか
まとも(?)にしました。

最後に一言
大事な場面でやじをとばした人へ。
スタッフの方々のつめのあかをせんじての
んでみてはいかが？――

(黒部)

科学部

―期待される大発見―

だれもが、一度ははいつてみようと思つたよ
うな部。それが、科学部です。

科学部というと、理科が得意で、物知りば
かりいるような感じを皆さんは持つていらつ
しやるのでは、ないでしょうか。

私たち科学部員は、決してそうでは、あり
ません。それに、学年のへだたりはなく、自
由で楽しい部なのです。

今期、科学部から生物班が分離して出てい
き、生物部ができました。が、それは、自由
な部だけに、研究範囲が、拡張していったた
めなのです。

どうしても、個人活動が多すぎるため、ま
とまりがありません。

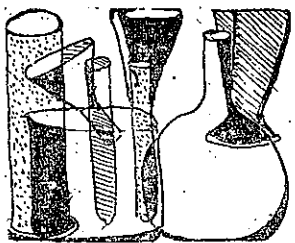
けれども、来期からは、まとまりのある部
にし、計画的に研究をし、それをみなさんに
発表していきたいと思つています。

そして

『付中……科学部、科学……付中とすぐい
えるような大発見、大発明を』
それを、実現することが、私たち科部員の大

きな大きな夢なのであります。

この世に不満の方は、わが科学部へ来られ



ラジオ部

—「こちらJJAのYDR」—

他の文化系の例にもれず、不活発。

しかし、やることだけは、やっているのです。去年の黒田部長の意志を継ぎ、少数精鋭主義をとり、目立ち他の者の日陰にかくれたような部。しかし、見て下さい。去年の北陸地区のコンテストでは社団局部門で堂々二位。

今年は、コールサインを持つ部員も八人中四人。従事者免許を持つ者一人。部のコールサインは、JAのYDR。無線機さえあれば、世界中のハムと交信することができます。君は見たことがあるでしょう。屋上のあの銀色に輝くアンテナを……。あそこから世界中に電波が飛んでいくのです。

しかし、現在部には、無線機はなく、受信機しかないのです。しかも古く感度の悪い修理しようにもわれわれ中学生の手に負えないのです。われわれは、これを何とかしてまともなものにしよう、がんばっているのですが、若千十四才の私たちの手では、なおりそうもありません。しかしわれわれには、個人無線機があるのです。

今年、これを用いて、コンテスト入賞をねらうのであります。市体で優勝した体育系のチームは、バッジをもらいました。ほくらにも、もらえるかもネノ

われわれは「付中にラジオ部あり、ラジオ部にJAのYDRあり。」といわれるようになります。

と、アマチュア無線関係のことばかり書きましたが、ラジオ部にはオーディオ部門もあるのです。君は、学校祭の時あの四チャンネルステレオシステムを見たでしょう。

あの迫力あるサウンド。あれが、たった三千四百円でできたのです。アンブは、三共無線の顔見知りの人にとだでもらいました。

また、スピーカーは、家庭科の時間女子が作ったものを、これまたただでもらいました。何と経済的な部でしょう。

しかしラジオ部には女子がいまいません。世のファイトある女生徒諸君、わがラジオ部へ来たれノノノ

(毛利)

写真部

—何とかがやっております—

わがFFC長くいうとTCFFCでなわけ、なんとかがやっております。

まず写真部の歴史といきましょう。

S44年、わが写真部のスタート。

S45年、部員が、先年度部長の教員さんだけとなったが、今、二年の写真部四名はなんとかFFCを守ったのである。そして引き出し機が、はいった。(生田先生の生)しかし、現像の研究をしようと思ったら、すべてがぬすまれていたのであった。

S46年部員十三名となり私たちは非常によるこんだのであった。後期、十八名になった。45年に比べると、夢のようにふえた。そして、ぼくが部長となる影の声(どうなることやら)……

というようなわけで、なんとかここまでできました。では活動について一口二口、口をだしてみましょう。

まず、FFCは、貧しいのです。たった四本しか現像できないというのを、二十本近くやったり(これは、薬品のこと)また、ま

もなカメラを持っていない者はいないし、とにかくたいへんなのです。暗室もなく、みなさんは、知らないと思いますが、玄関の横の受暗まくをはったりして、暗室がわり。

この前、まくをつけているがびょう(貧しいと釘が使えない)がとれて、光がはいり印刷紙がだめになつたりして、何もできなくなつたのです。

また、機械もすべて、生田先生のボロ(すみません)をつかっている現状、何をしろというのですか。ほんと、こまりますネノ

ところで、副業として、部の写真をとって部費をかせいでいますが、これも楽ではありません。雨がふっても、自転車に二人乗りして、目的地へと。そして帰つたらすぐ現像

次の日、ネガを見て写真屋へ……
というものである。

(須摩)

古典部

—NON・NON・NONの部—

古典部とは……(一般的見解)

・ 欲求不満の人の集り

・ 川腰先生にコテンコテンにやられる物好きの集団

・ インテリぶりたい人の集団

・ 欠食児童の集まり

……とにかくカッコイイんです。

Tシャツにブルージーンで君も遺跡研究に

きませんか?

歩きつかれで、ドリンクがほしいときには、

「男は黙ってサッポロビール」

ナンソコッチャエ……??

活動といえは

誰でもすぐわかる百人一首。

マジシャンやコイコイより、よっぽどおもしろいぞー Touch of dance もあるかもよ、

さあ、欲求不満の方 ストレス解消にお困りの方は、すぐにおちかくの古典部まで。

古典には、センスも教養も need not

ただセンスと教養がつくだけ。

古典をやるにルールはいらない。

フィーリングで理解すればそれでよいのだ。
とにかく気さくないい人たちがばかりだから
マナーなんて、気にかけないですむんです。
思いのままに自分を表現できます。

原則
スル
セル
NO
NO
NO
NO
NO
NO
NO
NO

古典
これを、読んで下さった人で、
古典部の部員みたいにかっこ
よくなりたいた方は、シャルムへ
いって、BIG-EYEZのCDを
買ってはこうね。(山田)



園芸部

— 中廊を行く部 —

時々、「園芸部は体育系部なのか、文化系部なのか。」と、言われることがある。
その人は冗談のつもりなのだろうが、僕は考えさせられてしまう。

園芸部、それは確かに文化系部だ。栽培法を学び美しい花を咲かせるところを見れば、誰だってそう思うだろう。しかし、花を咲かせる過程において、花壇を耕して手にマメ作り、種まいて土かぶり、太陽の下、汗流して草刈る姿を見れば、体育系部だと思われても無理はない。また、夏休み運動服を着、首にタオルをかけ、走る僕を見て、誰がこれから花壇に水をやりて学校へ行くと思像したたらう。

それでも僕は、園芸部を文化系部だと信じている。園芸というのは、あくまでも植物の美しさをひきだそうと努力することであってその点では、絵画や彫刻に似ている。

園芸にたずさわる人は、より美しい花をつくりだそうと日夜努力している。つまり園芸には、芸術的な面が多分にある。ところが、

園芸を行なうには、そのような芸術的な気分だけで決して充分ではない。

なぜなら、植物というものは、自然の要素であるから、それを栽培する過程においては、自然科学の法則に従わねを得ないのである。

朝顔には、ちゃんと決まった種をまく時期があり、移植時期があり、いくら大きな花を期待しても、肥料には施す限度がある。

だから、植物を栽培するには、芸術的な面と科学的な面とを理解しなければならぬのである。

もし芸術的な面ばかりを考えたならば、正しい栽培はできず、反対に科学的な面ばかりを考えたならば、試験場のような、全く暖かみのないものになってしまう。

こう考えてみると、花をつくるということは、芸術的な美しさを、自然科学の法則に従いながら求めるといえる、たいへんむずかしいことのように思われる。

話を園芸部のことにもどせば、つまり、この部は、文化系部でありながら、体育的な部であり、芸術的な部でありながら、科学的な部であるという、わけのわからない……いやつまり中廊を行く部なわけである。(界)

ブラスバンド部

— クラブの影で小さくなっている —

ブラスバンド部は、後期いつたい何をしたのか？ 芳その答えは、ただ一つ「なし」である。そう、全く活動をしなかったのです。これほど、立派(?)な部は、今までなかったでしょう。それは、部員が悪いのも最もですが、その根本的原因とは、クラブという全く矛盾したものが、学校側から、義務的におしつけられて、優秀な人はクラブに吸い取られていって、部には、私めを代表とする、世間一般的に、ヘタタソといわれる連中しか入らなかつたからです。

私めは思います、クラブとは部を不活発にするために作られたのではないかと……。また、音楽とは、うまいとか、へただとかで聞いてはいけないと……。

では、音楽とは……。それは、音を楽しむものです。そう、心で聞いて、そして、心で感ずるものだと思わなければなりません。

本当の音楽をわかりもしないで、さわぎたてることは、ダメだと思わうのです。

かの有名なビートルズだって、そうではあ

りませんか。彼らは、作曲の勉強もしなかつたし、作詞の勉強もしなかつたから始めは、とてもヘタでした。でも彼等は、本当に音楽が好きだったので。だからこそ、聞けるのです。

私めも、希望だけは捨てません。あなたもそうです。ヘタだからといって音楽をきらいにならないで下さい。好きになるのです。そうすれば自然にうまくなるのです。ビートルズのように……。

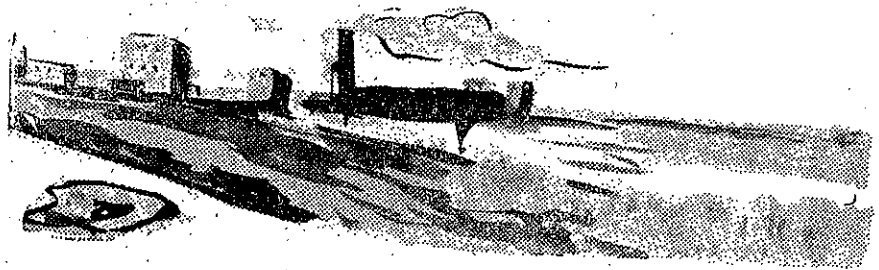
音楽にとつて、たいせつなものは、心なのであります。あのウッドストックは、四十万人の若者が、一つとなつて何かを、生み出したものです。でも、それはもう、今では神話でしかないのです。

なんだか、話しが、コケましたが、これから、部を撰択される方は、迷わず、ブラスバンド部へ、お入り下さいまし。

そして、音楽によつて何かを、見いだして下さい。きつとすばらしいものです。しかし

何も、しなかつた部の代表者の、私めがこんなことが、言えるか、どうかは……ですでは……PEACE?!

(水野)



クラス 回顧

しまりないが、まとまっている

わがクラス

付属中学へ入る。二階へ上がる。と、一番初めに目につくのが、一年一組である。

一年一組とは、どんなクラスだろうか。あの人に言わせると「ヒマ人の集まりである。(どこでも同じ)」。だそうである。一年一組を表わすと、二冊の本ができてしまいそうなので、ここにはそのうちのごく一例をあげておこう。

ガラスがよく割れる。コンクールなどではなかなか入賞できない。牛乳ビンを素手で割るヤツがいる(女です)。男女交際について絶えず話し合う。フォークダンスに参加する人が多い(ボクもデス)。席替えが、多すぎる。三十八キロも歩いた女がいる。理科の時間、熱気にみなぎる。牛乳ビンを一度に八本も持てるヤツがいる(人間ヤメンマエ)。蚊トンボにあこがれているヤツもいる。一つ事が起ると、ウラで相当のカネが動く(暗黒街)。

激しくチョークが飛びかう月に一回必ずレクリエーションがある。集団で授業中にメシを食べる。などなどたくさんあるので、もう書かないことにする。(実は、これ以上書くと、作者の生命が危機に瀕するからである)。とにかく、このようなダメな人間の集団なのである。しかし、それは絶えず意欲と闘志に燃えた面々でもある。これらが集団となって問題にとりくむ。ちぐはぐではあるが、案外うまくいく。ほくは、もう少しみんなに勇気があればよいと思うのだが。しかし、みんなそれぞれ特長のある、とてもよい仲間ばかりだ。自分の仕事以外のことも気軽に手伝っている仲間なのだ。

一の一とは、英語でワン、ワン。ワンとは中国語で王のことだから、王、王という意味になるのである。付中の金字塔まではいかなくとも、銀字塔ぐらいにはなるだろう。ほくは、そう思う。(小坂 泰啓)

一の一は、とても仲のよいクラスである。授業時間は他のクラスに比べ、消極的だと

新しい物をたえず求めつつける

わがクラス

みなさんに一年二組とはどういうクラスなのか、わかってもらうために初公開する。

一年二組の一日は、ドラドラとした掃除に始まる。掃除当番のいない一年二組では、全員でそれを行なっている。とはいっても、はじめな人は五・六人、他の人は機械的にほうきを持ち床をなで(中にはサビついて動かない人もいる)。いいかげんにほうきをほなすというぐあいである。そして朝のホームは掃除が早く終わるせいか正常に始まる。一年二組では、他のクラスとちよつとちがったホームを行なっている。それは、司会者が学級長ではなく、その日その日の当番がやるのだ。この方法ではみんなが自分もやらなければならぬのだというところで、そうとうの効果はあった。そして授業……。(気になる点々)

たいへん授業に関心を持ち、活パツに意見をのべることは、よいことなのだが元気が足りすぎていつもうるさい。(全先生に注意されている)なんとか、ならないものかとした今、頭をひねっている。

そ、そしてついに四限の終わり。見たすとみんなの顔という顔は血走っている。これから、世におそろしい光景が展開されるのだ。(ゴクリ)「先生、まだですか!」

と、絶えきれなくなった一男子が叫ぶ。その声に同情してか「では終わりましたよ。」「と神様の一声。とたんにみんなの顔にバラ色の光がさす。礼、次の瞬間、「ワッ!」。「バタジ、」「イテッ!」。「ガシャン!」……。シーン。文章では、とても表わすことができない。あのすさまじさ。何しろ、礼をしてから、十〇秒もかからない内に食堂利用者はいなくなる。ま、想像してください。

そして帰りのホームを終えて一年二組の一日が終わるのだ。その他にもいろいろな特色がある。一つに新しい遊びを次々と考え出していくクラス。例をあげれば、七五三、スーパーボール遊び、五〇円の車の模型での競技大会など。また、席がえの方法にこだわるクラス。

今、行なっている方法は、好きな場所を選び、重なれば話し合いで解決するという方法だが、その他にもくし引きなどのいろいろな意見が出ています。その他、自分の家の住所が一番よい所だと

いわれている。実際、おとなしい静かなクラスである。でもそれは見方を変えれば、ちょびりおとなっぽいのかも知れない。何かやらなければならぬときは、りっぱにやりとげる。表面には目立たないが、内に力を極めたおくゆかしい人々の集まりなのかもしれない。クラスには、どういうわけか、賞状があまりはってない。あるのは、陸上競技大会の対抗リレーと、学校祭のクラス展示の二枚だけ……。わたしたちのクラスは仲がよいといつたが、さて、まとまりのほうはどうだろうか。そこで数少ない一の一のだいたいな賞状の一枚、学校祭のクラス展示をあげると……あれは、みんなの血と汗の編集ともいえよう。あの時は、ほんとうによくがんばった。みんないろいろな意見をだし合い、最後の日は、下校時刻ぎりぎりまで。当日は、朝早くから……。みんな力を合わせて、がんばった。やっぱりみんなやればできるんだ……。あれこそ、一の一の深い団結の証拠といえよう。

一見、静かで、おとなしうにみえるが、深く強く結ばれており、一旦立ち上がれば何者にも負けない、勇気と団結の力が生まれるクラス、それが一の一の深い団結の証といえる。主張し合い、「はじぐ」とか、「し、しまつた」などのことばの流行が多く、それが常に変わるクラスである。

このように、新しい物をたえず求め、活気あるクラスなのだ。だが、なぜか、サッカー大会、新聞コンクール、合唱コンクールではあまり活躍しない。いったい、その原因は何であろうか。いろいろ考えたが、それは協力性に欠けているからではないだろうか。新しい物をたえず求めていることはよいだろうがその反面、何事にもあきつぱく、最後まで熱中できない性格がそこに表われている。

それに授業中に表われているように、人の意見を聞かずに自分だけがというふうな利己主義的な考え方の二つが原因でないかと思う。そうするとなぜそうなったかということが問題になる。それは、みんなが自分は一年二組のいったい何なのか、はつきり自覚していないからだと思う。一年二組を一つの集合Aとすれば、みんなは、それを成り立たせている要素なのだ。ところが今の状態では、集合Aが空集合となつている。みんなよ、早く自覚してくれ。そうすれば、きつとどんなことも成しえるだろう。ほくは、それを信じている。(吉田)

一ノ三

外面的によいわがクラス

しかし、内面は、……

一年三組ノハナシデス
石田・稲葉・岩田・川原・京本・工月
小中・小橋・椎名・杉木・高橋・寺岡
道正・永井・中川・中島・野村・橋井
広原・藤木・朴木・堀地・宮井・守川
八木・吉川・足原・荒俣・井口・金岡
河口・桑名・桜井・杉野・田中・谷村
梅野・土胞・野口・藤田・藤浪・平尾
松本・宮・吉田・島原先生↑おまけデス

まことにひまなことではございますが、実際ひまなのでこのように一年三組の集合を作ってみました。えい、近ごろ他のクラスの皆様が、ま、われわれの口からこのようなことをいうのも何ですが、わが一年三組は、きわめて優秀であるというもっぱらのうわさでございます。このことは、われわれのクラスにとつてまことにもったいないうわさだと思つては、ずうずうしくもこのうわさを続けさせていただきますが、それによると一年三組は、大会があることに最優秀の座を奪つてし

まう、ということなのだそうです。

たとえば、学校祭の仮装行列最優秀、新聞コンクール最優秀、大会での男子サッカー一位、女子創作ダンス一、二位、バレーボール大会での男子一位、合唱コンクールの優秀賞陸上競技大会の男子総合優勝、その他いろいろ、なんと集めた賞状が、ざっと十枚もあります。

代表者が賞状をもらいに前へ出ると、われわれは、他のクラスにすまなくて(?) 小さなうなづいては、どうですか?

先日、他のクラスのある女子が、ある日、ある時、ある場所で何やらヒソヒソ、ヤヤッというわがクラスのことを言っているらしい、ということでごつそり聞いてみると、「三組つてよいクラスね、ままとつていて。」という内容のことを言っていた。

しかしほんとうに三組はよいクラスだろうか、ホームの時間などは大変やかましく、学級長が、「静かに夕うるさい夕」と大声で注意しても、よほど神経が太いのか、耳の毛にさえふれないという顔をして平気である。

また、掃除をさぼる者もあり、学級長に立たされても、にこにこしてさつと立ち、言い分けをいってさつとすわる人もいる。

一ノ四

多要素こそわがクラス

一ノ四を紹介するには、このようなせまいわくには、とても入りきれない。それほど多要素のクラスなのである。

わがクラスには、三つのパターンがあるように思われる。その一つは、数人でごちゃごちゃやっているグループ。これは男子に多い。その二は、二・三人の少数で親密なグループ。これは女子に多いようである。その三は、いわゆる一匹狼。どのグループにも属さず、一人でいる人たちである。(ごく少数)

このように三つのパターンがあるため、普通はよくまとまらない。しかし、球技大会などの時には「全員一致でがんばる」というまことに変なクラスである。
朝も夕も、となりとしやべつてばかり。やかましくもほほえましいクラス。それがわが一ノ四なのである。

松本 健
一ノ四というクラスの一面を、一時はやったゲームであらわしてみよう。

「炭酸飲料の恐怖」

スプライト、それは何か。それは一種の飲み物であるが、薬しくこわいゲームの用具でもある。よく振って、敵の顔面にぶつかける。——かけた時の、サワヤカな感じ(?!?) といひ、かけられたその顔の〇〇さといひ、経験者以外にはわからないものである。その感じを一度味わってみたいと思われる方は、ぜひ、やってみてください。(あまりおすすめできるようなものではないが……)

「デデデコデン」
このゲームは、修学旅行の時考案された、暴力的なものである。部屋を暗くし、中に人間を押しこめて、「デデデコデン」といひながら追いかけます。しかしこれは、実に反省しなければならぬものである。(スマミセン)

以上二つのゲームは、悪い一面をあらわすものだった。しかし、これは、すべてふざけ心でやったことであり、読者のみなさんにはこれが一ノ四のすべてとは、考えてほしくないと思っている。

そのうえ、悪いことには、皆が三組はよいが悪い(ややくこしいな)ということを見習っているらしいのである。

はやくいえば、一年三組は、他のクラスからめれば、外面的によいクラスだと思われるわけ、クラス一人一人から見た内面的な一年三組とは、実にままとつていないクラス、いわゆる、点取り虫、と、いつてもいいすぎでは、ないと思えます。大きな行事があると、きだけ、みんな協力しあい、毎日の学活は、乱れているの、なんのつて……。フー。

雄三 喜雄・直高・範矢・光彦・遠郎
総一郎・晶一・寧則・圭吾・康志・巖
和明・高志・清明・孝夫・卓行 泰斗
真・曉・伸二・蟻・清暢・勝
裕明・寿・志乃・省子・なつ子
桂子・仁美・糸子・香都子・貴久子
智子・元子・有香・千晴・真美・真田美
亜紀子・知子・淑子・佳寿美・映子
えい、まことにひまなことではございませした。

一年三組ノハナシハコレデオワリデス
THE END

一ノ四がどんなクラスか、箇条書きにしてあげてみよう。

- 一、朝夕の学活の時、なかなか席につかない。
 - 二、一人一人の意見がとても強い。
 - 三、いつも何かを救げる人がいる。
 - 四、すぐに気がふれる人がいる。
 - 五、電波法、第一〇八条にふれることをわめく人がいる。
 - 六、スプライトで「戦争」を起こす人がいる。
 - 七、まとまりがあるようでないような……
 - 八、いつもいとも、笑い声がとぎれないクラス。
- このように見てみても、非常に「変人」の集まりに似た集団である。欠点も多い。

しかしこの場で、一ノ四は、決して悪いクラスではないことをはっきりさせておこう。
一ノ四は、善人の集まりである。

一致団結こそわがクラス

わが二年一組は、今、若さでみなぎっています。担任の杉村先生は、家庭においてはなんでも、たいへんな愛妻家であり、またよき一児のペバだそうですが、私共からみるとほんのちょびり年とったやさしい(?)お兄様の存在です。先生が若く情熱に燃えていらっしゃるから、自然に私共も、力が出てきます。しかしその力は、先生の期待とはうらはらに、授業中の学習面には生かされず、休み時間に九〇%までを使ってしまいます。(あとの一〇%ですが、もちろん、十二時半にわれ先にと食堂へ走っていくのに使うんだよ)ですから、テストの学級平のなんて、あまり自慢できません。けれど、私共は、そんなことなど「ゲセラセラ」明るさを欠きません。それが二年一組の魅力なんです。

先日の道徳の時間、わがクラスについてアンケートをとってみたくです。
「わがクラスのよいところは」という質問に対して、とても、奮っている答えがあったんですよ。二、三紹介しましょう。

回答 その一、平和的で団結している。

平和的というのは何を意味しているのでしょうか。頭脳明晰などという言葉とは縁遠い者にはわかりかねますが、団結しているというのは、だれもが認めています。そのあらわれは、生徒会行事の成績です。教室のかべにはなんと八枚もの賞状が、われらの健闘をたたえるかのように、はられているのです。これぞ、強い団結力、そして二年一組の象徴ともいえないでしょうか、ただ、エンジンがなかなかかからないのが玉に傷かな。

回答 その二、男女の仲がよい。

すぐ理想的な姿だと思いませんか。男子の統率力がすぐれているのか、女子が、日本の鏡ともいいうべき「大和撫子」がそろっているせいでしょうか、クラスをあげての男女間の対立は一度もありません。男子は教室のうしろで、すもうともプロレスともいえないことをやって、机やいすをめちゃくちゃにし、女子は、それを見て大喜び、和気あいあいって感じ。(なんですって、うらやましいそうでしょう。とかく、もてない人はそう思うとか。もし興味を覚えたら一度いらつしやいな。入場料はとりませんよ。)

ところが、最近、男子は常に席がえを希望

絶えず変化し続けるわがクラス

○月○日

わがクラスの朝は遅い。人々は、この遅い朝の中で、八時三十六分より、朝そうじを始める。そして、わがクラスの一日は、スチーマ争奪合戦で、始まる。この争奪合戦に関係しない一方のチームは、いつも静かである。しかしもう一方の方には、男子十五〜六人がひしめき合っているのである。

この争奪合戦は、「セルジュクトル組 四人」と「チビッコ十字軍十人位で行なわれ、最後には、必ず、「セルジュクトルコ」の四人が勝つのである。彼ら曰く「われら、アレクサンダ、ローマ軍に、服従せよ。」そして、その日一日、チビッコ十字軍は、セルジュクトルコ組のドレイとなったのであるが、次の日はまた、この戦争が、始まるのである。

この戦争で「ギセイ」となった者は、チビッコ十字軍数名だけでない。スチーマのカバーと、ガラス数枚であるこのガラス君、いつも、同じ所がわれる〇月中に、ここのガラスが、入っていた日は、一週間にもみたないで

あろう。この悪条件の中で、わがクラス一部の有志は、黙々と、勉強に、はがむのである。わがクラスの一日は、このようにして、すぎさって行くのである。

×月△日

この日、例のセルジュクトルコの姿は、チームにはなかった。わがクラスこの日は、チャンバラにてはじまったのである。彼らの木刀になる木は、どこにもある。長さが一咫あればよいのである。この木を、セッセとカンナでけずるこの木で、殺陣まわりをやる。セルジュクトルコ一人は、剣道四級上の腕前である。しかし、モトモトは素人である。たまに、頭をなぐられたり、腕にあたりたりめったにうまくいくことはない。先の戦争のように、このような、遊びにはギセイ者が、つきものである。観戦中の人々には、ときどきはね飛ばされた、木刀がとんでいき木刀にされる木は、次々となくなっていく。さて一時間後、床屋ごっこがはじまった。毛の長い犯罪者たちは、補えられ、裁かれ、そして処刑台につれていかれる。約十分後、犯罪者はその罪に、報いることができてさっそく出所である。この床屋さん、現在は、無料であるが、この床屋早くこられたい、なぜなら、

する傾向なのです。といっても、これは不幸にしてかわいいた彼女の横へすわれなかった、数名の犠牲者のあえぎなのです。仲がよいために起こる問題。社会ってきびしいね。(キザ)

回答 その三、いつも花がある。

美化係長並びに係員の功績にほかならぬ姿です。花は人の心をなごませてくれます。おっかなく、かつありがたい先生のお説教も、子守り歌に聞えてきます。(ちよつとオーバーかな)でも他の係もガンバッテいますよ。レクリエーション係は、クラスの社交性を高めようと必死、学習係は、学力向上をめざし、新聞係は新鮮な話題を求めて昼夜走りまわり……という具合、まだまだあるよ。

そりゃ、欠点もあるけど、お互いに、かばいあい、一つの目的に向かって、四十五人が一致団結して進む、それが二年一組なのです。ね、みんな、この心をいつまでも忘れずいたいものだね。

もうすぐ有料になるとか……?

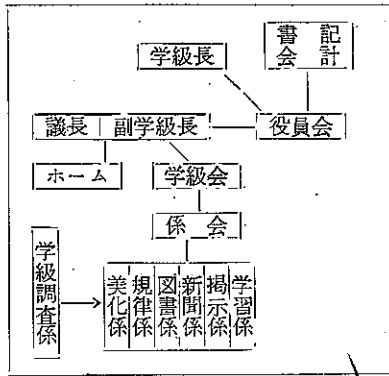
□月○日

大相撲も、千秋楽が近づき、北の富士が、優勝戦線から、脱落しかけたころ、わがクラスでは、ジャンケンによる、力士の星取表作りが、さかんであった。十五回やって勝った数が、その力士の勝数である。そんなある日、午後のそうじの時間に、特設の土俵で、わがクラスの初場所が行なわれた。一日限りである。クラスの初場所から、前頭十三枚目まである番付けも、横綱から、前頭三枚目まであり、取り組みも一人五番つちちゃんを用意された。さてむすびの一番もおわり、優勝決定戦が、おこなわれようとした時である。見張り番から、悪報が告げられ優勝決定戦はお流れ、優勝は、もち越しとなった。残念なのは両者せつかくの優勝をのがしたのである。優勝すれば、みんなから、ナデナデをしてもらえたのに……。

このように、わがクラスの一日は、たえず変化しているように、遊び方も、変化しているわがクラスには、このような、常識を越えた、異常者? が、満載されている、この重き荷物がいつ軽くなるか楽しみである。

(山田)

学級組織



二の四学級歌
 まるい地球のかたすみこ
 小さな仲間ができました
 青空見えるまどがあり
 すりへりチョークと黒板と
 若さいっぱいぼくらのとりで
 ときにはけんかもあるけれど
 ほんとはすてきな
 二の四ホーム

われらの二ノ四一係と学級長と寄せ書き

二ノ四

二学期の前半のころ、わがクラスは必常に腐敗堕落した、何をすることも怠惰なクラスであった。まず、授業を受ける態度が悪かった授業中は何だかさざわわして落ちつかず、先生がちょっと羽目を外されると、それに乗じていつまでもさわがしが休むことがなかった。国語のN先生から「学年一うるさいクラス」という不名誉な称号をさされたのもそのころだった。それはクラスに学問に対する謙虚な態度が薄かったためだろうと思う。そしてこのようなことは、日常生活すべてに通じており、特に掃除の不徹底や衛生観念の無さには閉口した。まるでブタ小屋かゴミの中に住んでいるようだった。生活に節度がなかったとも言えるだろう。このようなことは付中全体に言えることである。しかし、それがいいいしく通っていることをぼくは断固として許せない。ぼくは力づくで掃除をさせたり、席につかせたりしたが、根本からの現状是正にはならなかったようである。

二ノ三

倫理の道を求めるわがクラス

一人一人に自覚のきざしが見えてきた。今、われわれは異常な付中であって正常な道を歩み初めている。掃除もそんなにまじめになったとは言えないかも知れないが、とにかくたいへんきれいだ。うそだと思ったら放課後教室へでも来てみることに。心を込めて掃かれた床にはゴミ一つ落ちていないし、優秀な整備係によってきちんと整理されている。遅刻者も他のクラスに比べて少ない。何だか一変によく似たように思われるがそうではない。実はよいのはこれぐらいのものでまだまだ欠点をあげていたらきりがなくらいである。その一つに学級の係活動が不まじめなことがある。実際に動いている係は数える程もない。これでは全くの子算泥棒である。学級の係とは記え立派に果して欲しい。残された問題は今後話し合って直していかなければならない。考えてみれば、今までクラスについて皆が真剣になって話し合ったことがなかったのである。そして皆が真に自覚したとき、そこにはおのずからよいクラスが成立すると思う。

学級長

坂田 時人

僕は今まで、自分が学級長に立候補するなどと思ってもいませんでした。しかし、なぜかとうぜん二年生になってから、そういうことを思いはじめたのです。それは受験を前に、もはや二年前期から学校での生活態度を、いいかげんにしている人が多からずです。掃除などしなくてもどうでもいい、学校など成績さえよければいいという考えの人が多からずです。僕はけっして、学級長という名前やバッチがほしくてなったのではありません。ただこれからの世の中を築いていく私たちが若者が、こういう状態にあるのがいやだったからです。世の中は、自分一人じゃないということを念頭に置いて、付中生がもっととりっぱな人間の集まりであるよう、そしてほんとうの富山県の代表になる生徒の集まりになればよいと思っと思っています。



は、実に、純情で温厚な人物が集まっている皆楽天的で春風のようにほがらかである。だからわれわれのクラスにとげとげしい角など全く無い。そして時には限界を越すこともあるが、最近では滅茶苦茶にくずれることも無いようだ。多くの者は愛国心に燃え、明日の日本のことを常に考えている。天皇陛下も力強いことだろうと思う。これでもう一つましまりがつくると本当に素晴らしいクラスとなるのである。

また、女子は男子にくらべて強い団結力を持っている。そして女らしい人ばかりである(イヤミではない)。この間、クラスで開いたパーティーの時にも素晴らしいサンドイッチを作ってくれたのである。そして、最後に特筆することは、合唱コンクールでみごと優勝したことである。一週間程前から、下校時刻寸前まで残って練習してくれた。全く頭の下がる思いだった。体育館にわれわれの声は豊かに響き、人々はあたかも音楽に打ちのめされたように聞き入っていた。ぼくはかつてあれ程感動的なうたを聞いたことはない。あの時皆の心は一つになっていたのである。今、われわれは強く結ばれいく糸口を見つけようとしている。そしてあの美しいハーモニーが皆の心の中を流れようとしているのだ

よい人揃いの素晴らしいクラス

徒然草 第九十三段(川腰殿)

『付中の国語の教人に、川腰殿と聞えしはきわめて腹黒き人なりけり。月に数度試験ありければ、いと気持ち悪き笑い浮かべ、』
「者ども、十分辛びにけるか。」とぞ聞きける。生徒、驚きあわてければ、すかさず「もう日も少なく、急げど無理なり。」とぞ笑いける。生徒なお驚き試験に臨めば、川腰殿「心して臨め、あやまちは、やすき所になりて、必ずつかまつる事に候ふ」といふ。恐ろしき時にも終わり生徒安心して日を過ぎせば、またも川腰殿赤印多き紙配りていいける。「者どもよく頑張りにけり。ヒヒヒ。」

枕掃除 第五十九段(恐ろしき大食ひ)
『「呉羽山に鬼婆と言ふものありて人を食ふなる」と人のいひけるに「山ならねども、これらにも女の経あがりて、婆になりて、人の飯とることはあなるものを。」という者ありけるを、某太郎とかや大食いの用聞きて、大弁当箱を持ちありかむ身は心すべきことにこそと思ひけるころしも、自分の組、三の二に

て、その弁当広げ食いけるに、部屋の隅にて音聞きし鬼婆、あやまたず足元へふとより来て、やがてかきつくまに、弁当箱のほどを食わむとす。肝心も失せ防がむとする力なく足も立たず、外へ落ちけり「助よや、鬼婆よやよ。」と叫べば、隅々より走よりて見れば、某太郎なり、「これはいかに。」とて外腹り抱き起したれば、弁当箱かかえ白目むきたり。布有にして助かりたるさまにて、はふはふ席につきにけり。同じ組に住いける女子よへりて飛びつきたりけるこそ。三の二の女子とは恐ろしき大食ひなりけり。」

冬立つ日に詠める

○「窓近き 席に座りて スチームにかすみ立つ前の黒板 ほのぼのと 何処を流るる サイン コサイン ぼけっっ」

○「四限目や 心は飯に 目は黒石に」 わがクラスを思ふ

○「わがクラス 塵は散らかり 部屋は汚ねど 住ひける 先生、生徒 極めて宜ろし 先生は 仏のごとく 生徒を思いをのこらは 何時も元気で 遅しく をなごらも 淑やかに微笑み 美しく

まさされる宝わがクラスに 如かめやも』

☆偉大なる聖人川腰殿の下、をのこ二十七、をなご十八、縮めて四十五の生徒住まうわがクラス、三の一といふ。このクラスよきクラスなれども、また、ひとをかきつきクラスなりその中を覗き見れば、大声で洒落を飛ばし、騒ぎ、走り回る、極めて楽しき、おのころと、それに劣らぬ振る舞ひを見せるおなごらが、忙しく、住まひける。いこ小さけれど活発なる保健委員いてかクラスは極めて整い美しく輝きける。また、ホーム中は、議長、雑音発信者自動記録装置なる物を発明し、皆それを恐れ、極めて静かに座りける。しかし、それにまして、皆静かになりけるは、川腰殿の授業なり。皆、机に、大人しく構へ、授業に臨みける。いかなる極道であれど川腰殿の前前では小芥子となりける。聖人の力とは恐ろしきものなり。(この川腰殿も奥方にはかなわぬとの話も……)

兎も角わが三の一はよい人揃いの素晴らしいクラスなり。

つれづれなるままに、筆を取りて、古文法知らぬわが身、よしなしごとを書きつくればあやしいこそものぐるほしけれ、本日はこれにてごめん。(T・中川)

個人的な人間の集まりこそ わがクラス

小さな所に、数十名の男性と女性がいまいた。別に彼らは、血はつながっていないのに仲間の意識をもっていて、ほかのクラスというものと、自分のクラスというものを、別のものとして考えていました。

彼らは人々に、「個人的な人間の集まり」といわれていました。そして、彼らもいつしかそう考えるようになっていました。男性は女性を、女性は男性を、異なった意識で見ているようでした。(でもいつからか、私には男性も女性もわからなくなってしまうようです)

彼らは、よいクラス、まとものあるクラスを作ろうと思いましたが。でもいったいどんなクラスがよいクラス、まとものあるクラスなのか、よくわかりませんでした。

音楽は、

フォークがいいです。クラシックがいいです。映画音楽がいいです。

ロックがいいです。

歌謡曲がいいです。

ジャズがいいです。

童謡がいいです。

民謡がいいです。

みんないいです。

深夜放送は

バック・イン・ミュージックです。

オールナイト・ニッポンです。

セイ・ヤングです。

チャチャ・ヤングです。

ヤング・リクエストです。

ヤング・タウンです。

ビップ・ヤングです。

若いこだまです。

ヤングタウン東京です。

聞きません。

T・Vは

おもしろい。

バカバカしい。

心の支え。

生きがい。

思い出は

入学式の三年生の顔。

弁論大会の彼。

部活動の新しいユニフォーム。

写生大会のうす汚れた画用紙の裏。

中体連大会の時のコカ・コーラ。

合唱コンクールのカンパあめ。

運動会のファンタ。

交歓会の彼女。

トレセンの食事。

校内競技大会のレモンの味。

修学旅行のバスガイドさん。

学校際のビートルズの曲。

フォークダンスの時の高見の見物。

彼らにとって、ここは小さなスナックのよいうなものではなかったでしょうが。全世界をこの内と外に分けたなら、彼らは仲間であり、このクラスは彼らのための別世界だったのです。

果たして彼らは、この時の気持ちを、一生渾持ち続けるのでしょうか。それとも、忘れてしまうのでしょうか……?!

三ノ三

とりえのない、わがクラス

わがクラス三ノ三には、いろいろな種類の人物がいるが(たとえば、バレーボール気遣い野球気遣い、秀才・天才・凡才、などなど)これが、いつものわがクラスである。

朝(女子) Y「おはよう。」

Z「おはよう。」

Y「漢字やってきたけ?」

Z「ええ。」

Y「やっぱり、まじめな人は違

うわ。」

(男子) K1「O、お後ほちよい顔して

自転車に乗っとるのお。」

O「なんだい、お前こそ短い足

をひきずって来るくせだ。」

K2「K3、きょう何時に家まで

きた?。」

K4「八時五分頃だ、きょう十

四分できたぞ。」

朝掃除A「朝掃除当番かい、掃除でもしよ

うか。」

B「この漢字、こう書くんか?。」

C「いやそうじゃない。」
A「それ、こう書くんだ。」

(掃除しながら)

C「問題言うぞ。」「幻滅はどう書く

か。」

B「A、これでよかろう?。」

A「うん、そうだ。」

(漢字書きながら)

ホームM「早く、席について静かにしてく

ださい。」

E「D、Mがまたわめいているぞ、

座わってやろう。」

D「そうやのう。」

F「わいわい、がやがや。」

M「静かに。」(効め、まったくなし)

Te「こら、静かにせんかい。」(先生)

F「シーン。」

授業中Te「Kこの解答は、どれだけだ。」

K「やってありません。」

Te「お前、勉強しとるがけ(K)。」

O「先生、それじゃれけ(K)。」

四眼目B「おい、きょう何だ。中華か?。」

終了近しく「きょう中華や、それにして

も遅——いの。」

K「そうだの。いちいらする。」

H「これで、終わる。週番ノ。」
週番「起立。」

H「おい、K1K2Sよ、お前らどこ

にいるんだ。」(なんちゅう鬼ノ)

週番「礼ノ。」(無視して)

K1K2S「わあ!。それー。」

昼の掃除N「W、お前、ここまで飛び上

れる。」

W「そんなもん、簡単だがい。エ

イッ。」

J「こりゃ、お前ら何しとる。」

N・W「すいません。」

J「早く、掃除しよ。」

O「おい、ほうきはどこだ。ほう

きは?。」(あわてて)

(女子は、まじめにお掃除している。)

放課後J「これで、終わります。週番ノ。」

週番「起立ノ、礼ノ。」

全員「さようなら。」(そわそわして)

全員「わあー。」(どっと教室をでて

いく)

(五・六分後には教室は、からっぽ)

三ノ四

団結こそ、わがクラス

三の四?そりゃあもちろんすばらしいクラスですとも。何がすばらしいかって?もちろんクラスとしての団結。男子の必死の応援で優勝した運動会のつなひき。班のそしてクラスの団結の表われである創作ダンスの優勝。ああ感激!そして何よりも合唱コンクールの最優秀。その上、球技大会での男子次勝、女子優勝。その女子の様子をちょっと、まず試合の前に審判から「三・四位決定戦もやる」と知らされた時、

「三・四位決定もやるんだって。」「三・四位?ハハ、全然関係ないねか。」「あ、そうだった、ハハ……」ところが一試合目に勝った時「ね、私たちが勝つと思っただけ。」「まさかあ夢にも思ったらんだわ。」「私もだぜ。負けると思っただけで口に出さないこのすばらしさ!! 決して優越感やうぬぼれのかたまりではないのです。(私(筆者)は女子でありますから男子のことにはあまりふれませんが)男子も多分すばらしいのです。前、後期の学級長の絶対的支持を見てもわかるように)

それではわがクラスのアンケートを御紹介

します。

- 男子は女子をどう思うか。
 - ・一人のぞいて、あとは寺とかぼっちゃ
 - ・芋の一言につきる。
 - ・中にはかわい子もいる
 - ・対象がないからわからない。
 - ・美しくてチャームキングでエレガントでたのもしくて力強く重々しく男らしい
 - ・女子って男のことですか?
 - ・大根嫌!!
 - ・心がかよいあっていてすばらしい。
 - ・A君曰く「みんな俺の小指だ!」
 - ・中身までは知らない(N君)
- 女子は男子をどう思うか
 - ・学級長を見なさい
 - ・すばらしいの一言につきる
 - ・いると、やかましくて、いらないとさびしくてさびしくて
 - ・単細胞動物
 - ・おつき合ひしてみたいんだけど、ママがダメって言うの
 - ・男子は何のために生まれてきたの?
 - ・男はみんな狼よ
 - ・気だてのよい人ばかり

○学級長をどう思うか

- ・すばらしい動物だと思ふ
- ・うぬぼれを知らない人(本人)
- ・うぬぼれのかたまり
- ・権力がない。
- ・たよりのないある人
- ・とつてもやさしくてかわい
- ・とつても尊敬している。
- ・よけいなもの
- ・統制力がなく話すことが、へたである。
- ・自由奔放な人
- ・気むづかしい人
- ・三ノ四の仏様
- 三ノ四をどう思うか
 - ・普通はまともでないが、いざとなる
 - ・と強くなる
 - ・二三人の人が風紀を乱している
 - ・あまり印象に残らないクラス
 - ・大変まともだったのに……
 - ・あまりまともでない。
 - ・男女間に少し隔りがある
 - ・とにかく先生と学級長がいいから、クラス全体が明るく、よいクラスになっ

ユーモア・アンケート

☆おせばびつこみ、はなすとてっばるもの

- ・デベン
- ・ホッペ
- ・こんにやく
- ・けちんぼ
- ・おしゃぶり
- ・亀の頭や首
- ・指庄の心
- ・○○○○の下のスポンジ
- ・トイレのプッシュボタン
- ・ぼくのあれ、彼女のそれとそれ
- ・兄貴が大切にしているもの
- ・イヒビ……
- ・あの真白でやわらかく盛りあがり、針でつついたらやぶれてしまいそうで、彼女がこたつに入りながら今いっしょうけんめいあためている、あのふくよかであるのあり、ぼくもみんなも、お父さんもおじいさんも、お母さんも欲しがっている、最近では機械でもつくることのできるおもちゃ

- ・かたつむりのつもの
- ・キンチョールのプッシュボタン
- ・だれかのなにかだが、ほんとはあれ。
- ・モンロー主義でおなじみの、マリリンモンローに聞きなさい。親切に教えてくれますよ。
- ・三つ子のデッサン
- ・命の次に大切なもの
- ・もう一つあつてもいいもの
- ・(一)のネジ。(わからぬ人は絵をかいてみましょう。すぐわかります。わかりましたらやぶつてすぐ捨ててください。○に見つかつたら、わからないようなどぼけた顔をしてこう言ってください。「これは何ですか?」)

☆破顔一笑の意味

- ・彼や彼女のような、そして君のようなみだれた顔で一生(一笑)をすごすこと。
- ・テスト直後の私の顔(さて、うれしいのでしょうか、悲しいのでしょうか)

・仮面ライダーもびっくり(ぼくはそんな番組見てないのだ)

- ・向こうに美人がいるので、あの顔をひっかいて醜くくしょうとして、ひっかいたところ、鏡の中の自分だったので、名譽ばんかいと「あら、自分でしつとするほど、わたしの顔は美しいのね、ホホホ」と笑うこと
- ・いつもひどい顔をした人を見て笑っている人が、ある朝鏡をみて、にっこりわらうこと
- ・こわれた顔は一度笑えばもとにもどり、二度わらうとまたひどい顔になったという、三國志に出てくる有名な話をもとにできたことわざ
- ・苦茶苦茶の顔の人が笑うと苦茶苦茶になって、結局苦茶苦茶になること
- ・正しくは破顔一生で、顔が破れば一生がだいなしになってしまうという、いやな顔の人の教え

★盗人捕えて(……)

- ・夫とする
- あたしあまり顔がいいので、おむこさんがみつからないの。

☆オシロコチシンの意味は……

- ・次の順に読め「オ④ン②ユ④チ①ン⑥ン⑥」
- ・孔子殿にききなさい
- ・○×製菓より今月三日発行の漢方プラス

○ユとしてもらった

- 深夜ミツ子の家に忍びこんだら先客の盗人がいたので、捕らえたらミツ子がおきてきて、○ユしてもらった。
- ・えびがため
- 極悪非道の悪人をとらえる、正義の味方ミツ子の必殺わざ
- ・ハゲにする。
- 私はハゲです。あなたもハゲになりなさい
- ・立ちオ○ッコ
- 盗人をつかまえて一息ついて、オ○ッコをしていたら、盗人に逃げられてしまった。転じて、大成しても気をぬくと、一瞬にして没落するということ
- ・なわを切る
- それは女ねずみ小僧だった。

新薬の薬(ペンビ専用)定価百三〇円

- あなたも飲みませんか?
- ・マージャンの役割
- ・柔道の極意
- ・国連の秘密機関の一つONCOCCHIのこと。月光仮面のような正義味方をつくる
- ・オンナの人が交通事故にあつて血出して死んだ
- ・イギリスの遺伝学者オン||コチコチのズレズレベン
- ・はじめの三字の説明は生田先生に聞きなさい。そらすればなんとなくわかつてくるでしょう
- ・マリファナに続くマヤクの名
- ・今年期待の三才馬
- ・オン師○先生コどもにチかつたことはシンでも守ります
- ・カンボジアの大学者オンチ||コチコチが発明した法則。別名ジョンベンカープ。

☆弱り目(……)

- ・美人
- 弱り目には美人がよくきく
- ・日活映画

——目に毒

- ・八ツ目うなぎ
- これほど目によくきくものはありません。
- ・強目
- 共生
- ・クズかご
- くさったタマゴはクズかごにポイ。(弱り目↓目玉焼き)
- ・寝シヨンベン
- 中学になる息子が毎晩寝シヨンベンして、弱りながら兄貴のドライヤードふとんを乾かしているというところ
- ・おく目
- 弱っているときは、苦勞のために目がおちこんでいるものだ。(大工の子いわく)
- ・キンチョール
- 目がとび出るほどすばらしいことが起きる。
- ・くそつたれ目
- 目やに。貴方もくそつたれ目になりたくないのなら、夜によく眠って、毎朝顔を洗ってきなさいと

文苑



いう教訓

☆あなたの一生は

- ・母は私の生まれる3年前に死んだ。
- ・十才にしてサッカー選手としてこの道二十年といわれる。
- ・一才の時初恋をし、五才にして文を読み十三才にしてゴリラをみ、十四才にして目のおぼけをみる。
- ・あなたらしい
- ・一才の時 付属中学校に入学
- ・二才の時 フランス語の試験に合格
- ・三才の時 初変(?)
- ・四才の時 フランスに留学
- ...
- ・十二才の時 High Japanとなる。
- ・十才にしてフランス語をまんぞくに話せるようになる。十三才にしてフランスから日本へ留学。
- ・一才 ひとりっこ。五才 ひとりっこ十才 やっぱりひとりっこ。
- ・十五才 ついにやった。
- ・一才 四本足 七才 二本足 十四才 三本足(わからない人はいいのです)
- ・私はなぞの人物です。話すことはできな

いのです。

- ・一才でノーマクエン 五才でベスト
- ・八才でコレラ 十三才でセキリ 十八才でテンカン 二十才でサリドマイド
- ・二十八才 でゲンゴウウガイ 三十七才でカンゾウ炎 四十二才でほうこう炎 四十六才でダッチョ 四十七才百七才まで?病ですごす。私はそんな人になりたい。
- ・五才 ゲーテ読破
- ・十才 北社天に熱中
- ・十五才 赤塚不二才の熱烈なファンになる。
- ・私の一生はネスカフェを入れたいコーヒーのようなもの。ただそれだけ
- ・一才 ボビーシャーマンとましがえられる。
- ・四才 プレスリーとましがえられる。
- ・八才 フランドロンとましがえられる。
- ・十二才 ブロンソンと体格でましがえられる。
- ・十四才 永森教頭とましがえられている

☆三つのお願いがかなうなら……

- ・山脈編集委員長のコーナー……
- ・顔のいい女を地方から集める。
- ・○○へ行きたい。
- ・あの人と○○がしたい。
- ・○○さんとくらせる国へ行きたい。
- ・よいおくんになること。
- ・彼の子どもを生むこと。
- ・どこやらにはいりたいよ。
- ・アメリカ産の鉛を買いたいよ。(Pa)
- ・今の妻とわかれたいよ
- ・望むものは君だけさ。
- ・ノックは無用ヨニー。
- ・解禁してちょうだい。(Pa)
-
- ・透明になること。(はいれるもん)
- ・喫煙室をつくること。(カレント)
- ・スクールバーをつくること。
- ・モーターの回数券を発行すること。
- ・モーターの学割をつくること。
- ・海外旅行(トルコ)
- ・山脈編集委員長を殺す(手をつけるので)
- ・十四禁にさげろ。

課題作文

心のささえ

一年一組 中村 誠

ぼくは、この文を好んで書くのでは、ありません。どうして、ぼくがこの文を書いたのか、まずそれを説明します。

ある山なみ編集委員が、A君に、この文を書くように頼みました。けれどもA君は、文章を書くのががてらしく、B君にカレール券3枚で頼みました。ところが、そのB君も文章を書くのががてらしく、C君にカレール券2枚で頼みました。ところが、そのC君も文章を書くのががてらしく、D君にカレール券1枚で頼みました。カレール券1枚で、むりやり頼まれたり君は、そのまま、書かずに、いたらしいのです。それで編集委員がおこりの事件にかかわったものにジャンケンさせたのです。ところがその中に、関係のない奴がいたのです。それはまぎれもなく、このぼくでした。ぼくはおもしろ半分でジャンケンをしました。それなのにたいへんなことがおこりました。ぼくがジャンケンに負け

たのです。それでぼくがいやおうなしに書か

されることになったのです。これが、この文にまつわるエピソードです。でも書かなければならないものは、しかたがありません。まじめに、心のささえについて書きます。

心のささえ、それはいったい何でしょう。ぼくは、何のことかよくわかりません。ただ言えることは、誰でもそれをもっていて、それがあつたり勇気づくというところらうです。たとえひとりひとりの心のささえが、ちがっていても、それがあつたり、悲しい時、苦しい時など、なぐさめになったり、勇気づけてくれたりします。

それで、人間は、生き続けているのかもしれない。ある人は、両親が心のささえとなつていたり、故郷が心のささえとなつていたりしている人もいます。もしこの心のささえがなかったらどうなるでしょう。人間は、苦しいことや、悲しいことがあるたびに、くじけてしまふでしょう。そして、ある者は自殺し、ある者は蒸発するかもしれない。現に自殺などをする人は心のささえがないのかもしれない。

今までのべたことは、一ばんの心のささえですが、次は、ぼくの心のささえについて

あると思うが、決してこれと決めつけることは、できないような気がする。何故なら、私たちは今、いろんなことを経験し、そしてその中から自分の才能を発揮できるものを探求している時期にあるからだ。私の場所もそうだと思う。その自分の「心の支え」を少しでもいいから、今、探求してみるために、自分の日常生活を振り返ってみよう。

毎日、単純に、学校と家との往復。本当につまらない。しかし、その中で僅かな時間に部がある。友だちとの会話があり、生徒会活動がある。

人と接している時、これが一番に楽しい。また、これがなくては、学校にいる意味がない。

だから先に上げた「友だち」は、私にとっても、支えと成っているのではないだろうか。次に、「部」というもの。私は、コーラス部に所属している。みんなで歌い、その中から少しでも心の結びつきを持ち、またそれと共に、歌う楽しさを味わっている。

一人で勉強している時、ぼさっとしていて時、何気なく、歌を口ずさむ。すると何かが生まれる。勉強する意欲？リズム？何かはわ

たの心のささえは？と考えても、わかりません。どうしてわからないのか、不思議なくらいです。もし、ぼくに、心のささえが、なかったら、ぼくは今まで生きることができたでしょうか。それにこれからも生き続けることが、できるでしょうか？そう。もしも、ぼくに心のささえがなかったら、今まで生きていたことも、これから生きること、できないでしょう。でも現に今、生きていますし、これからも生きていけると思う。これは、やはり、ぼくにははつきりとわからないが、心のささえがあるからだと思う。こんなことをいっているあいだに、何かぼくの心のささえだと思ふようなものが、かすかにうかびあがってきたような気がしました。みなさんも、このぼくのへたな文を読んで、自分の心のささえについて、考えてみてください。もしわかつたら、悲しい時、苦しい時には、それを思い出して元気になってください。

書きます。

今まで、だから延べたが、また、ぼくには、自分の心のささえがはつきりしません。ひよっとするとワッシンシン、あれかもしれません。

からない。でも歌によつて精神的に新しいものが生まれるのは確かである。

また、私は雑読や伝記を読むのが大好きだ。人々の努力、功績などを知ることによつて、何故かしら動かされ、新しい力が体内に漲るのである。この時の気持ちは、とてもすがすがしい。その時その時に、自分が生まれ変わるような気がするのである。

ざっと見ると、これらのことが自分を勇気づけているものだと思う。

しかし、改めて、「心の支え」を見つけてよふと思つてもなかなか見つからない。だから今、述べた以外にもいろいろあると思う。とにかく、本当は私には、「心の支え」が何であるかは、はっきりしない。また今は、そうだろう。これから、大人になるにつれ、「心の支え」が明確になりつつあると思う。もちろん、これから、自分を勇気づけるものは変わってくるにちがいない。

だが、自分が成長している課程において、自分の心を支えているものが、ふつとわかる瞬間をたいせつにして行こうと思う。

心のささえ

二の四 野野 美子

よく母親は、「子どもだけが」という生きがいがあり、またそれが「心の支え」と成っていると言う。母親というと、現代っ子に人氣のあるものには、もう関心も減少し、ただ子どもの成長を見ることが嬉しいのだろう。

しかし、父親は家庭の生活を支える大黒柱でもある。だから、家庭が支えられていると同時に、それがあるので働けるのだと思う。

こう言うと、親の心の支えは、単純だと思われるが、もし、支えを失った時、親の悲しみはそうとうだと思ふ。

それだけに、「心の支え」は、人にとって重要なものである。

それでは、私たちの心の支えは、何だろうか。これは、人によってちがうと思うが、「友だち」というものは、大部分の人が持っているもので、またそれが「心の支え」となっていると思う。人間は、自分一人では生きられないので、友だちが存在しなくては、世の中は、全然面白くないと思ふ。

その他にも、バレーボール、バスケットボール、音楽とそれぞれ異なるものがいろいろ

心のやま

三年 野村 克信

心のささえ、誰もが持っているものだろう。私は思いあたるものをあげてみたが、それらしきものが見当たらない。心のささえとは、何なのだ。苦しいとき、悲しいときの神だのみなのか。誰かにとっては、一冊の本であり、誰かにとっては、お金であったり、自分には、そんなたいした物があるのだろうか、いや、どうも見当がつかない。

私にとって今、一番の大切なものは、母と弟と、そして友人との交わりと、父との思い出であろうか。私は、一人になるとよく父と会話をすることがある。私には、「父さん」と声に出して呼べる人がいない。でも、父のいる友人たちが、恨ましくなんかない。私には、父との忘れられない、いつばいの思い出があるからだ。

君は、どんな道歩むんだと聞かれたら、私は答える、父の歩んで来た道を私は、歩きたいと、君の理想の道はそんなにちっぽけなものかと言われても、恥ずかしくなんかない。彼の道は、出世のできな道だが、本当の人間の道で、男の道だ。岩だらけの道で、せま

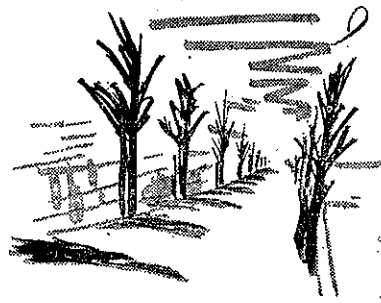
つくるしい道だが、人の道だ。私は、えらい人になれたらなりたいが、その地位で人のえらさは、決まらない。

僕は、わがままな者になりたくない。あれほど世話のやける者はいない。僕は、おべっかつかひになりたくない。あれほどこいやな奴はいない。そりゃ、きれいに舗装された道を歩きたいが、がたがたの道でもかまやしない僕には、自信がある。なんてカッコのいいこと言うが、今の私には、まだまだ無理だ。

父は、十六才で軍隊に志願して、戦闘機乗りたさに軍隊生活にはいつていった。私も十六才「おれにだって」闘志が、わいてくる男の道を私は、歩みたい。それは、やくざ映画にでてくるカッコいい道ではない。何事にもがまんして誠実に生きて、人のためにつくすことができ、一つに命をかけることができる。そんな人になりたい。毎日、一つずつ学び、自分の理想に届くまで進んでいきたい。成績が下がったらくしゃっとしてこんどが

んばろうと生きこみ、かわいい女の子がいたらいいなあと思ひ、こまっている人がいたらどうかして助けてあげようと思ふ。きにくわぬ奴がいたらなぐつてやる。そんな人間味のある人でありたい。夢、理想、決意、思い

出、それが私の心のささえだろうか。



友

一年一組 荒木 昌代

友だち。友だち。友だち……。遊び友だち。いたずら友だち。おきな友だち。

勉強友だち……。

友だちと名のつくものは数えてもきりがない。しかし、それだけに友だちは、とても重要な役割を示している。この広く限らない現代社会における人間関係では、友好的なものが最も大切な地位にあると思われる。その友好の中にもふたとおりあり、一つは心と心の友好。もう一つは、最近のやくざブームに乗じてきた義理・人情によるもの。どちらかと言えれば前者がよいと言ひに決まっている。

この人間社会に生まれて13年目。やっと世間のことがわかりかけてきたこの私ですら、おなきや、義理などで友だち関係を結ぶのはよくないと心にはつきりとききみこんでいる。

われわれは、誠実な友を愛する——イギリスの劇作家マロウもこう言っている。たしかにそうだ。誠実であればあるほど友として価値があると私は思う。

最初から、少しなまじきなことを言ってきたこの私。やはりまだ子どものようだ。なぜ

って、私自身も、友だちということ、深く考えたことがなく、今の友だちがほんとうに自分に適しているかということも不安になつてくる。(ごめんね)私の友だちは……書きつづりたいのだが、プライベートなことに關しては、公表しないことにした。とたかく、私は私なりに、友だちとけつこう楽しくやっている。最近、BOY Friendのこと、よく話題にのってふざけあい、時にはシンクタイムの悩みごとの相談相手にもなっている。こうなるのも、おたがいに、相手の気持ちを心から理解し、そして、相手の立場となることがたいせつであるからだと思っている。

——友人とは、あなたについてすべてのことを知っている、それにもかかわらずあなたを好んでいる人のことである——

エルバード・ハーバードのことである。そのとうり、ほんとうに、理解してない人たちは、あわれにさへ思う。

私は友だちをもちたいと思う。ただ問題は数ではなく選択だ——。カウレイ——さて、友だち作りについてだが、私は、社

交的人間ではない。それだけに、いろんな人の意見を聞いたり、友だちになるきっかけを作るのに苦労している。そして相手をえらぶ時も、末永く、友情を保つことができそうなのと決めてる。誰もがやる平凡なことかもしれないが真げんにやればやるほど効果がある。

私は、このまとまりのないへたな文章を書きあげるため、一週間、書店、図書館を歩きまわった。『友情論』『友だちは自分に対してどうあるべきか』また自分は友だちに対してどうあるべきか』などいろんな本を読んだ。ところが、どれをみても、むずかしく、理解しにくいのがとても多かった。

——友情は、美しく、尊いものである。波乱の多い現代社会にも、変わることもなく、おたがいに絶えず、美しさがにじみでていければおたがいは、友情という最高のきずなでつながれていてしあわせである——

とかんたんでわかりやすければいいじゃないか。この文を書いていて、改めて友情のたいせつさを知ったような気がします。読んだ人も、あらためて友情について考える機会を作ってくださいれば光栄です。

友

三年 遠藤美樹子

友——口にも言っても種々ありますが、その中にいわゆる「親友」があります。「親友」としても魅力ある言葉です。悩みを相談し、助け合い、お互いを高めていく、そこに何か暖かなものがある、そんな友。親友が欲しいと思うのは当然のことでしょう。

しかし「親友なんて無理」と言う人がいます。私も以前はそうでした。唯でも人間は他人には触れられたくない面を持っています。そして、私の場合は、内にある虚栄心によって壁を作り、表面だけでつきあっていました。そんな友では所せん「仲よし」であつても、真のものではないのです。自分自身が殻に閉じこもっているのに、親友の理想像が念頭につきまとい、何だか空虚なモノを感じてしまつた。ありませんでした。

ところが、二年生の中頃、あるきっかけで新しい友を得ました。お互いに、思いきつて内にある物足りなさを話し合い、それ以来かなりうち溶けることができました。今、私と彼女は、自分たちを「親友の種」と呼びます。真の姿にはほど遠い存在だけれど、その可能

性を秘めている、と自負するからです。

私たちが、この種をまき、りっぱに成長させるために、まず相手に対して素直でなければいけません。自らの虚栄心を捨て、自分の心を思いっきりぶつけるのです。相手を信頼し、心の外の壁を取り去った裸の、最も自分らしい心で接してみるので、きっと相手からも驚く程、共通の心が返って来るに違いありません。そして、友のこと、勉強のこと、性格のこと、将来のこと、何でも正直に話し合ひましょう。同じ立場の私たちでなければ解決できない問題も多いでしょうし、友の言葉の中に、新しい自分を発見することもあるでしょう。偽りの飾つたりそではなくて、真実を語り合うならば、得るところは大きいはずです。

「目まぐるしい競争の社会では、親友なんて形だけ」という人もいます。確かに現代は至る所に他と競う場が有り、しいて言えば、人間は皆敵なのかもしれません。でも、その敵同志という関係を醸くするか、価値あるものにするか、その人の腕次第だと思ふのです。お互を正当に批判し、相手が逆境に立てば慰め励まし合ひ、協力し合ひ、その上で力一杯競ひ合ひ。それこそ価値ある競争です。

学問と青春

二年 正橋 立子

記憶力が一番発達しているのは、今の私たちくらいのもので、これからは年をとるにつれて減退していきます。

そういうえば、以前テレビの番組で数組の親子がゲームをしていましたが、子どもは「神経衰弱」のようなゲームに、大人はばらばらの紙を組み合わせるようなゲームに強かったのを覚えていてます。このゲームは、前者は記憶力、後者は判断力のゲームといえると思ひます。やはり、これからわかるように、私たちの記憶力は、大人に比べて大変よいと思ひます。

文苑

「すずめ百まで踊り忘れず」といわれるように小さい頃覚えたことは忘れにくいものです。ですから学問をするなら記憶力の確かな青春時代が、一番と言えてしょう。この時期を利用して私たちは学問を身につけるように努力する必要があると思ひます。

しかし、私たちは、この貴重な時期に怠けていることがあります。「明日やればいい。」「今日はテレビを見るから。」と、怠けているとどうなるでしょう。年をとってから、若い

時に怠けたことを後悔するでしょう。

私は、以前父にこんな話を聞いたことが、あります。

これは、フランスのアヴェロン地方の出来事でした。アヴェロン地方は、うっそうとした森のあるところで、よく狩りがされていきました。

このアヴェロン地方で、一七九九年にある狩人が、十二、三才くらいの少年を見つけてきました。その少年は、狼に育てられていたので、よつんばいになって、歩き、獣のように「ウーウー」と唸っていました。始めのうち、少年を、おりにいれていましたが、何度も森へ帰ろうと逃げ出しました。

この少年のことを聞いたフランスの若い医者イタールは、少年を人間に戻そうと努力しました。そして、イタールの熱心な努力の結果、少年は服を着るようになり、靴もはくようになりました。けれども、夜になると森の方へ向かって悲しそうに泣いていました。

二年たつてイタールは、少年について詳細な報告を発表しましたが、ついに言葉を教えることは出来ませんでした。

これについて精神科の大家であるピネルは、『少年は、生まれながらの精神薄弱児で、

私が大切な物を紛失した時、彼女は私の生活態度をきびしく批判してくれました。私にはこたえたけれど、その後、ふたりで甘い心撲滅の生活の改革を誓いました。彼女が頑張れば、私も刺激されて一生懸命になります。

そして、結果はどうであれ、素直に相手の価値を認め、お互いの向上の材料としていってこそ、競争は大きな意味を持つはずで、

ところで、「親友」とはそれを誇示し孤立した物であつてはいけないと思ひます。そんなのはいつか飽きが来るもの。多くの友の中の一単位であり、それに溶け込み、向上させつつ、自分たちには堅い心の絆がある。そんな姿であるべきだとは思ひません。

あくまで「親友」は人間関係において成り立つもの。いつかは離れる時が来ます。でも単に利益や享楽を得るのみの友ではなくて、自分の心に相手の心が住むような真の友であつたら、決して心は離れないと思ひます。

人間は生まれる時と死ぬ時はひとりですが努力によって人生にもひとりの自分を得ることが可能かもしれません。その道のりは険しいでしょう。でも、今私は一步一步、力一杯歩み出したいのです。だって、すばらしいことなんですよ、ネエ。

口減らしのために森に捨てられたのだ。だから、言葉を覚えれないのだ。』

と、言いましたが、これに対してイタールは『少年が言葉を覚えれないのは、適切な時期に、手本となるような人間が周囲にいなかったからだ。私が教えたときは、もうその時期を過ぎていたから、覚えることが出来なかったのだ。』

と、言いました。このピネルとイタールの意見では、今のところイタールの意見に軍配が上がついています。

これが、「アヴェロンの野生児」の話です。鉄は熱いうちに打てといわれますが、刀かじは、鉄を打つときに、熱くて柔らかい間に打ちます。冷えてしまつては、形を変えることができなくなります。これと同じように私たちが学問を身につけるときの、青春時代の記憶力の確かな時期に受けなければなりません。

学問と青春

三年 塚本 容子

学問と青春——切っても切れない仲である先生に、親に、先輩に、

「勉強しなさい。」
と言われるまでもなく、この時代に生きる若者はいつも、何かを学んでいる。それだけ、周囲のものに対する目が肥えてくる時代なのだろうか。とにかく、この目まぐるしい社会の中で、私たちはいつも何かを見つめ、聞き考えていると言える。

この間父が、私に向かってこう言った。

「おまえはこの頃勉強しないな。」

平生、私の勉強についてとやかく言わない父が言い出した言葉だから、私も、言われて胸にツンとくるものがあった。とは言っても、「うん、そうなの。」と素直に答える気持ちも持ち合わせなかったから、

「ちょっと、近頃、勉強忘れとんが。」

と答えると、とたんに父は、いかにも教育者らしい説教を始めた。

「容子、学生はな、勉強するのがあたりまえなんだぞ。おまえが机に向かって勉強してい

て、だれがほめてくれる？学生が勉強している姿ってのは、だれが見ても、あたりまえの姿でしかないんだぞ。」

一見、全くあたりまえの言葉だった。しかしなんとということだろう。こんなあたりまえのことを、私は気にとめたこともなかったのだ。そう、学生が勉強してあたりまえ——というより、広く言えば、私たち若者は、必然的に多様な学問をしているのである。日常生活一つを取ってみても、よく考えてみれば知らないうちに、私もいろいろのことを学んだように思う。友情について、恋について、愛について……あげてみれば、きりがないほどである。そして、それらの一つ一つが皆自分自身で体験し、考え悩んできたことばかりなのである。時には感情におし流されて、大切な成績を下けたこともあった……でも私は今、よかったと思っている。無意味で、成績表には関係のないことばかりに力を注いだようにも思えるけれど、私なりにいろんなことを学んだから——。人並みに親友も持ち、その友に何かと意見を言ってきたのだから——。テストのためでなくて、人生のはしっこを、ほんの少しでも学ぶことができたんだから——。

私は、この青春時代を、ただひとこと、素晴らしいと絶賛したい。どんな小さなことにも敏感に感情を震わせ、考え、悩み、歩んでいく時代。この時代に学んで豊かになった感情は、どんなに歳をとっても、衰えることを知らないだろう。その証拠に、家事だけに追われているあなたのおかあさんに、漢字の書き取りをしてごらん。サイン・コサインって聞いてごらん。are you foolish? って、聞いてごらん。おかあさんは、チンプンカンプン。でも、おかあさんが歩んできた青春時代どんなに苦労してきた人でも、その時代のできごとだけは、何か心に残っているはず。それこそ、人生八十年(?)の中の青春時代の最も大切な学問なのだと思う。学問らしくない学問とでもいおうか。

十五才の私、まだまだ「青春とはどうのこうの」と、偉い口をたたける貫禄もない。けれど、青春を歩み始めた一人の人間として、「学ぶ」ことの大切さを、しみじみ感じている。今の私に与えられていることは、「人生」を学ぶこと。しかし、高校入試をひかえているだけに、自分の心を抑制していかなければならないことに対して、言い知れない悲しみを感している。

学問と青春

T 荒木 栗

大上段に振りかざした題名である。「勉強と若い時代」といった方がびったりするのにも思う。

学問するということは、人間の一生を通じて付いて回る事柄である。そしてその態度のない人は、人間であることの条件の一部を放棄する人であるとわたしは考える。つまり、人間は生きていくときには学問せざるを得ないのである。そのときの教師は社会であり、自然であり、時代である。あらゆることが勉強になるわけである。

しかし、ここでは狭義の学問について考えてみよう。それは学校で勉強や本の間に埋もれて研究するような学問である。うずもれてとは少し皮肉な言い方であるが、つまり目的をもって積極的に講義を聴いたり、本を調べて考えたり、討議したりする態度である。もちろんそれだけに止まらないが。

中学時代を含めて若い時代には、このような学問をすることが当然のこととして、義務づけられているように見える。しかし、これは義務などではない。若い時代には前途に大

きな可能性と広い豊かな展開を見る時期であり、旺盛な知識欲と探究心に満ち、頭脳も柔軟で、がん張りも利く、だからこの年代のために学校が設けられてあるわけである。将来社会で自分を十二分に生かすため、学校で錬磨するのである。すなわち若い時代が学問することを望むから学校が存在するのである。

ところが、今、中学生に聞いてみると、よい高校に入りたから勉強するのだという、もつとひどいのになると、よい大学を出てよい職に就きたいがらと言う。とんでもない。学校の種類なんかより、勉強してみたいという意欲の方が大切なのである。いろいろなこととをできるだけ多く知りたい、そしてわかりたいという欲求が自然、進学へ気持ちを向けるのであって、他人が行くから自分も……では不十分なのである。

わたしの場合についていうと、中学時代に高校へ行くつもりは無かったし、高校時代には大学へ行くつもりは無かった。ただ上級学校へ行くともっと自分の知識が深まると思っていたに過ぎない。また、そのとき勉強していたという気があったのは、他の人に理解できず自分に理解できないことがあり、他の人が知っていて自分が知らないことがあるなん

て、とんでもないことだと思ったからであり悔しいと考えたからである。でも、今ではその気持ちが薄れてしまっている。悲しいことである。一番それが強かったのはやはり中学時代であった。

青春時代には学問以外にやりたいことの多い時期である。楽しみも多い、少し位はめをはずしても許される、ものを知らなくても若いからといって見過ごされる。しかし、そのまま年老いてしまつたら、大変困るし悲しいことである。後で自分で恥ずかしくなる場面に必ず出会うことになるだろう。

大切なことは、勉強を楽しみの一つにすることである。テストさえ自分に対する一つの挑戦であると考え、悠悠と受けて立つ気がまえが欲しいものである。決して娯楽や安逸に逃げたりしてはならない、それは敗北である。学問に王道はないし、敵しい鍛錬があつて、はじめて成功感と歓喜が得られる。若い時代には次々とそのチャンスがあるからこそ素晴らしいのである。

青春よ、くり返しおし寄せる挑戦に耐えるべし、彼方には輝やける展開が待ち受けている。

学問と青春

T 須山 盛彰

やまなみ編集部からこんなにもむづかしい題目をいただいで、まったく閉口している。編集者の頭には、「学問」―「象牙の塔」―「学究」―等という言葉と、「青春」―「男女交際」―「恋愛」などという言葉が対立させて、その間の価値葛藤を予期しての題だと思ふ。しかし、僕は必ずしも対立する概念だとは思わないし、また僕の過去の体験の中に「学問と青春」をテーマに論ずる材料もまたない。むしろ、今日、「学問とは何か」、「青春とは何か」ということを原点に立ち返って問い直す時期ではなからうか。なぜなら、情報化社会の中の「学問」、人間復興時代の「青春」は、既成の概念とはまったく違った姿になるにちがいないから。

僕は、富山市の在に住むKさんという七十何才の老人を知っている。Kさんは小学校しか出ておらず、何の肩書ももたないお百姓だが、二十数冊の大学メートに彼の住む地域を中心に、開発の歴史、戦争の歴史、土地条件農事、土地改革、部落会のあゆみ、物価の動き……など広い分野にわたって実に詳しく

書き綴られているのである。Kさんいわく、「若い時から物を調べるのが好きで、やってみると次々と疑問が湧いて一層深入りした。別に、学者になるうなどということではなしに、調べるのが一種の趣味でして。お蔭で年をとっても少しも淋しいことなどありません。」と淡々と話された。

僕は、Kさんの業績の一部を前任校の富山東高校郷土クラブの皆さんと相談してガリ版印刷して、Kさんにさし上げた。Kさんの記録が「土地の記録」として素晴らしいものであったからであり、Kさんの労苦を心からねぎらいたかったからでもある。

「学問」が大学という「象牙の塔」の中ではないか。かなざれない時代はずでに去った。派閥抗争にあけ暮れ、大会社からの献金で信念を曲げるような大学教授が多い今日、Kさんのように市井にあって学問を友とし、周囲に清らかな刺激を与える人こそ素晴らしいと思う。情報化時代の今日、何も大学でなければ学問できぬことはなく、労働時間の短縮に向っている今日、何も職をもつたら学問できぬことはない。将来、あり余る余暇が僕に与えられるとしたらもっとも高尚な趣味としての「学問」を続けたいと思う。「青春」についてふれる

自由文

ことば使いについて

一年 須田さつき

「自由題で何か書いてほしい。」
と言われても、何を書こうかと思いましたが私たちの身近な問題、そしていつも忘れかけられている、そんな「ことば使い」という問題について書いてみたいと思います。

▽ 「さつき、もう少しことば使いに気をつけなさい、女の子のくせだ。」

最近、こんなことをよく母から言われます。考えてみると、このごろことば使いが悪くなってきたと思います。

原因は何にあるのでしょうか？

たぶん、学校でのまわりの人たちによるものでしょう。

まわりの人に影響されて、私のようにことば使いがきれい（これは……？）だった人も今のように注意されるようになってしまったのです。

「付中へ行くようになってから、ことばが

きたなくなつた。」

とも言われます。確かにそうです。

母も、ただ私を見ているのではないでしょう。

それに、悪くなりすぎると直らなくなつて私と同じ女子の方は特に気をつけなければいけないのではないのでしょうか？

ことば使いで、その人の性格やなんかがよくわかるそうです。

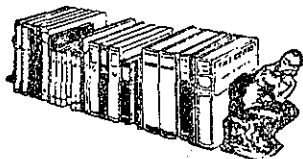
私も日頃いっしょに話をしたりして、いやな感じのする人・キザッぽい人・暗い感じのする人 反対に明るい感じのする人・ニューモアたっぶりにおもしろく話す人等々いろいろな人にふれています。やはりその人がだいたいどんな性格の人かわかります。

最も実際、私もそのように見られているのですが――。

このように、ふだん私たちが何気なく使っていることばにも、なにかしら大切にしなければならぬという感じがられるでしょう。

▽ それでは、ことばはどのように使えばよいのでしょうか？
△ なかには、その場、人に感じてしようずに

字数がなくなつたが、「青春」も青年期の専売特許ではないということをお願いしたいのである。



話す人がいます――。

私はそれでよいと思ひます。私の理想とすることば使いだからです。

多くの人はそう考えるんじゃないかと思ひます。

たとえば、仲がよく心を許して話せるような人なら、よびすてにしたり、その人だけに通じるようなことば……を使ったり、先生と話す時や知らない人に何かを尋ねる時などは敬語を使ひます。

電話でも人によって話し方を変えていませんか？

私もこれらを実行しているのですが、なかなかうまくいかないものです。

じょうずに話すということは、むずかしいなとよく思ひます。

でも、なるべく早くことばをしようずに使ひこなせるようになりたいと思ひます。

みなさんもこの文章を読んで考えてみて下さい。考えていただければ幸いです。

男女交際

一年 小坂 泰哲

ぼくはこの原稿を書いてくれとせがまれたとき、一瞬ニヤリとした。(ぼくは島原先生ではない。男女交際という、みんなすぐ、「イヤラシイ。」とか、「ヒヒヒヒ。」とか言っただけで済むが、実際はそんなものじゃあないと思う。隣の席の異性と話したからといってひやかしたり、「おまえA子(B男)」とできとるなあ。といったりして、顔がいささか赤くなりコーフンするのを見てよろこぶヤツほど真の男女交際を知らないヤツである。(といって当人もいつもいつもいっているが)日本は昔から女子より男子がエライものとなっていた。最近「ウーマンリブ」とやらがはやっているが、現在は「男女同権」が憲法にのっているから男子と女子が気軽に話したっていいはずだ。

それを見て黒板にアレ(君も書いたことがあるはず)を書いて喜んでいる人は、たぶん遅れている人間だ。

体育系部はたいして男子と女子があるが、女子のバスケット部の試合の時、男子がきて応援していた。これぞ真の男女交際ではない

だるうか、ところで、話題はかわるが、君はパスのなかで同クラスの異性にあったとき、君は「おはよう(こんにちわ)」を言っているか。(ぼくは前日、言えるよう努力している)なるべく、言えるようにしよう。人間の信頼感はいさつからくと思うのでやはり男女間のあいさつは必要だろう。朝そうじの始まる数分前の教室を見まわすと男子と女子が、教室を左右に分けているのではないか。これがなんとかいたりまじれないものなのか。そうなったときはそのクラスこそ調和のとれたクラスであろう。今年こそ、そんなクラスができてほしいと念がう。少しまじめな文を書いたので少しユーモアのある文を書こう。

男女交際についてギ間がある場合は、たとえなにがおこっても、地球が海に落ちてでも、島原先生と形川先生に聞いてはならない。なぜなら、島原先生はあの顔を見てわかるとおり○○○○で○○○なのである。(ワカル?)形川先生の場合はトレンセン参加者に聞けばすぐわかる。(両先生の名著を深く傷つけたことをおわびします)わがクラスはたまにハイキングなどに行なったが、そこでは、ふだんより気楽に男子と女子が話しているのを見る。(参加率、百パーセントのぼくはよく

見る。)

切磋琢磨——古聖人

そしてわれわれ

二年 佐伯 和彦

切磋琢磨、詩経、衛風編

如切磋琢磨如琢如磨

玉・石を切りみがくように、道徳

学問を勉め励んでやまぬこと。

また、仲間どうし互いに励まし合

って学徳をみがくこと。

広辞苑 第二版切

切磋琢磨ということばの意味を、私は、辞典の示すままに受け取り、信じてきた。しかし私は、次に述べる論語の一節を読んで、ことばというものには、辞典に書いてある事以上に深い意味があるということを感じ、自分の、ことばに対する、よみの浅さを、いやというほど知らされたような気がした。

論語より、

子貢曰わく、貧にしてへつらうことなく、富みて驕ることなくんば如何。

している。)やはり学校内はうまくいかないのかなあ。男子は男子、女子は女子なりにそれぞれ長所と短所をもっている。学校生活面ではその両長所を生かす必要がある。男女は両方の長所をあわせ、さらに指摘し合っつてよりよくなっていくのではないのでしょうか。それが人間でしょう。これだけ長々と書いたけど、それでもまだギ間のある方は生徒手帳九ページ「生活指針」の第九条を見てください。「HEE END」



子曰わく、可也。未だ貧にして楽しみ富みて礼を好む者に若かざる也。子貢曰わく、詩に云う、切するが如く、磋するが如く、琢するが如く、磨するが如く、其れ斯れを之れ謂うか。

子曰わく、賜や、始めて手に詩を言うべきのみ。諸に往を告げて、来を知る者也。

(辞典に書いてあることは正しい、しかしそれは、あくまで文中の『可也』であって、最高の道ではない。切磋琢磨の本当の意味は、学徳に、勉め励むことが、自分に取って、何の苦でもなく、それ自体に喜びと感じ信ずることをやりとげた一瞬は、永遠にもつなげるのでは、ないか。)

また、自分自身の日々の生活が、果たして切磋琢磨の心の半分にも達していないのではないかと思うと、自分のだらしなさが、無条件に悔やまれ、私自身の精神が、子どもの域を脱していないのではないかと思ったり、私

自身が、このままだめになっていくのではないかとも思ったりした。が、自分も人間としてこの地球上に生まれたからには、一瞬が永遠にもつなげるような、何かを持ち、自分の足跡を後世に残してやらねばならぬと自らに誓いもした。そして、いかなる人かは、知らねども、二千年以上後の、人間の心をも変え得る、孔子という人間の深さと偉大さが、恐しい位に感じられ、いくつかの書を読むうちに、彼の完全無欠さを、あらためて、認識し、彼を、ふくめた、多くの古聖人の道により早く、達して、その道をほんの少しでも延長することがわれわれの使命のように感じられて来た。

事、大小となく、正道を踏み至誠を推し、一時の詐謀を用ふべからず、天を相手にして、己を尽し、人を咎めず、我が誠の足らざるを尋ねし。

過去・現在・未来

二年 梶川 啓司

「寒くなったですな。今晚、霜が降りそうな気がするよ。」と知人らしき人に話しかけた。「やあ、ほんとうですな。ところできょうはどこへー。」うん、きょうは、ボーリングをちょっと。そして、長々とその時の様子を話し始めた。(以下略)

これは、電車の中で耳にした二人の年輩どうしの会話である。これを、個々のすぐれた推理力・読解力をはたらかせて、時間別に分けてみよう。

「寒くなったですな。過去から見ると、現在はそうなった。」

「今晚、霜が降りそうな気がするよ。現在から見た未来で、なるような気がする。」

このように全部分けることができ、三つのグループができる。そして、それぞれ過ぎ去ったことを過去、今が現在、これから来ることは未来といえる。(厳密にいうと、現在は過去から未来への境目となるが、ここでは、広い意味の現在、つまり今日今日としたい。)

過去・現在・未来とは、時間の流れであるということがわかった。そして、時間の流れ

は、いやなくらい日常生活にとけこんできて私たちの自由を束縛するまでになった。

どのようにして、時間の流れをつかんで、これからの時代、つまり未来を生きていくに何が必要か。が問題とされる。まず、未来を確実に生きるためには、未来を予想することであろう。

古代エジプト人は、星を見て時間を決定し洪水の起こる時期を予測したのである。なかなか、一致しないこともあるが、何回もの試みにより、現在の文化が進歩したのである。

そして現在、古いブームといわれる。なるほど、夕方街角には、占ってもらっている人を見かける。その人々の年代層は、現在の衣食の流行の先端をいく若年層であるから、不思議な事だ。結局、現在の若者の未来を予想する能力は、低下してきているのである。

予想の方法には、易者のように、現在の様子から見る方法と、エジプト人のように、過去のデータを集めて重ねて、統計的に予想する方法とがある。コンピュータは後者である。しかし、だれもズバリと確信をもって、予想できる者はいないのである。

しかるに、「易者の場合とエジプト人の場

合の共通点は。」といわれると、どちらも過去の未来であると答える。過去の経験が未来の予想をより、確からしいものにするのである。

また若く、世界を知らない僕らは、過去の出来事を歴史の授業によって知る必要がある。知らない、未来を予想する楽しみが反滅しかつ意味のないあてずっぽうに終わるのである。

諸君、時間は、人類の死まで止まらない。人生も人間が死ぬまで続く。僕らの十余年間の過去が、長い明日からの未来を開くことはいうまでもない。しかし、それには過去を反省するという条件がつく。君たちにできないはずはない。気持ちの問題である。

「あの時、こうだったから、今度はこうすれば。」それだけでいいのである。毎日毎日、同じことをやって、失敗しているより、どれだけ、君たちの利益となるかはだれもが感ぜずるところだろう。

(おそまつ)

今日を生きよう

三年 三村 起一

今日を生きよう等と言うと、なんだか製薬会社のコマーシャルのようだが、実はこれが難かしいのである。僕たちは極端に片足突っ込んでるところか、両足つつこんで逆立して生きているようなものなのだ……。

貴方は朝、目を醒す。もし醒すことができたらあなたは神に感謝しなくてはならない。物騒な世の中である。夜寝ている間に、ダンブが飛び込んでくるかもしれない。強盗があなたの首をチョン切っていくかもしれない。

この危険から遁れられたとしても、油断はいけない。あなたは顔を洗い、歯を磨き、朝食をとって学校へむかう。家を出たら頭上に注意したほうがいい。何が落ちてくるか解らない。石、猫、ハンマー、火炎ビン、鉄骨、人間、犬、水(これは雨と呼ぶこともある)イン石、飛行機、その他……。

足下も見逃がしてはいけない。フタを忘れてたマンホールがあなたを待っている。木材にまぎれて南洋からきたコブラがいるかもしれない。釘、画鋸、錐、マキシンなども落ちてくる。前後左右からは言うまでもなく

危険が迫っている。こうなるよあなたは、頭上に注意を払う。足下を油断なく見張り、前後左右を見わたさねばならず、ロンパリーにかりかねない。

なんとかこの危機をのりこしたあなたは、バスにのりこむ。ところがこのバスがまた恐ろしい。最近の運転手は客を入口のステップにひっかけたまま走り出すくらい朝飯前である。それに本当に朝飯前でお腹がすいて気がいらだっているかもしれないし、家で奥さんとケンカして出てきたかもしれない。

こうなったらもう運を天にまかせただけだが、しかし、万が一ということもある。もしお客を大事にするやさしい心をもっていて朝飯も充分食べ、奥さんとの仲もよい運転手さんならどうだろう。安全だろうか? いや、ダメである。バスが学校に着くまでに出会う、何百台の車のドライバーは、一人のこらずみんな、模範的正直ドライバーだと誰が言えるだろう。

だがその日が大安吉日で、日蓮の命日で、13日の金曜日でなく、キリストの復活した日ぐらいなら、なんとかなるかもしれない。あなたは神のお恵みを受けて、つり皮にかまっただとたん、つり皮がちゃん切れて転ん

だりもせず、ちょうどそこに女の人がいて、「キヤー痴漢よーっ(あるいは痴女よーっ)」などと言われることもなく、ゴリラのように肥満した人に足を踏み抜かれることもなく学校につくことができるかもしれない。

なんとかバスの中の危険を乗り越しても、安心してはいけないのである。これからあとにはいまままで以上の、考えただけでもゾッとしてみたい筆舌に尽くし難い大危険が群れをなして待っているのである……。

どうだろうか。朝起きてから学校に着くまででさえこれだけの危険があるのだ。今日を生きぬくのがいかにむずかしいか、わかっていただけだろうか。十数年も生きてきたのは奇跡もいいところなのである。この奇跡が逃げないように気をつけながら……。

今日を生きよう (妄言多謝 再会)

詩集

流れ星

一年 市山 毅

秋の夜空に流れ星が、ちつていく。
なんの音もなく
なんのかがやきももたず
わずかなひかりをはなち
流れ星がちつていく。
ちかづく冬のおとずれを示すように、
生まれかわりを願うかのように
ちつていく流れ星。
こんど
おまえが夜空にかがやきをみせるとき、
ほくも夜空でおまえをみつめてやろう。
さつていく流れ星よ。

道

二年 中林真由美

どこまでもどこまでもつづく道
長い長い道
きつといつかは通る道
やわらかい日ざしを浴びてやさしくのびる
若葉の時
強い強い光の中を汗水流して通る時
色づいた木々の間を行く時も
茶色くなって舞い散る落葉の道を……
ガタガタ道もあるだろう
平な道もあるだろう
でもいつまでもいつまでも歩き続ける
どこまでも続く長い道
楽しい事もあるだろう
つらい事もあるだろう
長い長い道
いつまでもいつまでも歩いていたい
長い長い道
誰もかきつと通る道……

心の旅

三年 小川 雅美

今は一月……
雪がおどけて町をかくす。白い、そして真っ
黒な雪が……
——どこか遠くへ行きたいワ。
何しに。
——う……ん。何か見つけられないかな
何を。
——そう……。茜雲と白い雲かな。
何でそんなものを
——さあ……。どうしてかな。
雲を見つけたら自分が変わらなかな
どうして
——だって、そんな気がしない？ネッ
白い雲が、茜雲がどこか知らない遠く
へつれていってくれるような……
私は白い雲に乗って青い、空色の、すんだ
空へ行くワ。
茜雲に乗って涙いっぱい空へ行くワ。
そこにはネ。美しい人がいるの。とつても
醜くって美しい人が……
でもそこには醜さがないの。人の醜さが。

私は空を飛ぶワッ 私だけの翼を空いっぱい
いにひろげて、私は飛ぶワッ

今は二月……

透明な終の冠をかぶった女王が、ガラスの目
で町を見る。

どう 何を見た。

——天使を見たワ、真っ黒な。

ニグロワ？

——oui カ、ナ？

真っ白な翼を片方もつてたワ。そして
私を見てさみしそうにはほえんだワ
空が青かったの／＼うーと、うーと
青くって、
遠くに……ひとつ……
真っ白な……雲が……
だれか乗ってたワ。
神様って、あの人のかしら。
たのしかった？

悲しかったワ。さみしかったワ。

私……、何してたんだろ。……

ね、なんで私たちの空はあんなに重い

んだらう。

ね、なんで私たちの町は黒いんだらう
ね、ね、なんで／＼なんで私たちの町は……

今は三月……

ミルクをこぼしてしまったような光が私を突
き出す。

まだ、この町にいる？

——イヤヤッ だってこの町には光がない
もの／＼ だれも手をとらないもの／＼

君、どうする？ これから

——私、私は飛ぶワッ

この空を飛んで、とびまわるワッ

ああッ 神よッ

今、今、私に翼をッ

私のねがいを、私のねがいをッ

私だけの大きな、白い翼を、大空にひろ
げ、はためかせて 私ハッ

私はとぶワッ

今は三月。

クリーム色の空気がただよい、私をつつみ
空には、淡い雲がとぶ。

化粧をおえ、背のびはじめた蕾のあたりを

色あざやかな、てぶが浮き、沈む。

今は三月……

透明な光があふれ、野がひらく、三月。



詩歌鑑賞

山部 赤人

田児の浦ゆうちいでてみれば真白にぞ
不尽の高嶺に雪は降りける

万葉集より

藤原 定家

見わたせば花も紅葉もなかりけり
浦の苫屋の秋の夕暮れ

三夕の和歌

紀 友則

ひさかたの光のどけき春の日に
しづ心なく花の散るらむ

古今和歌集より

松尾 芭蕉

山路来て何やらゆかしすみれ草

しづかさや岩にしみ入るせみの声

藤原 定家

旅人のそで吹きかへす秋風に
夕日さびしき山のかけはし

新古今和歌集より

手謝 蕪村

菜の花や昼ひとしきり海の音

寂連 法師

寂しさはその色としもなかりけり
横たつ山の秋の夕暮れ

小林 一茶

門の蝶子がはへば飛びはへば飛ぶ

西行 法師

心なき身にもあはれは知られけり
鳴立つ沢の秋の夕暮れ

鳥

丸山 薫

船首楼といふ
海に突き出たその不思議に孤独な場所に立って
斜橋に張った矢帆の影をくつきりと浴びながら
ひとりの若者が前方を眺めてゐた
いつの日の いつの時刻も

永い航海の途中で

屈托にあぐねると私はそこへ逃れていった

そして彼に近づいて話しかけた

私の言葉は決っていた

——なにが見えるかね？

彼が決って答へた

——波ばかりですよ それから雲ばかりですよ

——もうあと幾日かかるだらう！

——さあ

ちよっとの間 彼は日数を繰るらしかったが
すぐに何処か遠くの方を見詰めて無言に落ちた
私も亦
黙ってしまった

まるで

考へこんでゐる二羽の鳥のやうに

さうだ

まるで考へこんでゐる二羽の鳥のやうにだ
だが

私達は別になにかを眺めてゐるわけではなかった
なにを考へてゐるのでもなかった

——

絶えず上り下りしてゐる水平線や

雲の無量の光が

只

私達の姿をさう見せてゐるに過ぎなかったのだ

石川 琢木

小学の首席を我と争ひし

友のいとなむ

木賃宿かな

論語鑑賞

がなくなった。

子曰、五十有五、而志于学、三十、而立

四十、而不惑、五十、而知天命、六十

而耳順、七十、而從心、心所欲、不踰矩

〔書きくたし文〕

子曰く、吾十有五にして学に志し、三十にして立ち、四十にして惑はず、五十にして天命を知り、六十にして耳順ひ、七十にして心の欲する所に從へども矩を踰えず

〔通釈〕

孔子は、「私は十五歳で、学問の道に心をよせ、三十歳で、学問の道を固く守って自立し、四十歳では物事の道理はつきり分つて迷わなくなり、五十歳では、自分の天から与えられた使命を自覚し、六十歳では、何事を聞いてもすなおに分るようになり、七十歳では、万事自分の思うままに行動しても道德のきまりをふみはずすようなこと

子曰、学而不思則罔、思而不学則殆

〔書きくたし文〕

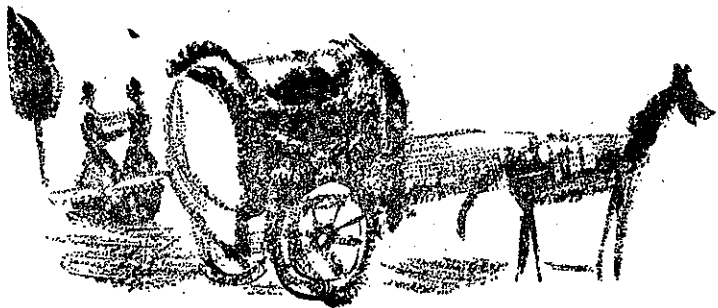
子曰く、学ひて思はずれば則ち罔く、思ひて学ばざれば則ち殆し

〔通釈〕

孔子は、「ただ学ぶだけで、よく道理を考え求めなければ、心がらくして何も得るところがない。またただ自分で考えるだけで、広く学ばなければ、ひとり合点になって危険である。

一、二年の諸君、論語の意味ワカリましたか。これを機会に論語を読んでみては！

師曰く



心正ければすなわち形正し

永森清太郎

これも時の流れであるといえればそれまでも知れないが——。何しろ日本はさまざまな面でずいぶん変った。なかでも、よく目につくもの一つは服装であろう。中学生や高校生にあっては、まだそれ程でもないが、不快なもの一つに女性のスカートがある。全く均衡の失われたぶかっこうさは現わすことばもない。それを何も感じないというよりも、むしろ、かっこうがよいと思っているのだからあきれてしまふ。

服飾は流行ということよりも、ひとりひとりのものである。誰にでも共通してあてはまる服装などあるはずがない。あまりかっこうのよくない脚を露出されると、美的情操が傷つけられそうになる。

もう一つ不快と不潔さを感じるものに、男子の頭髪がある。これは、中学生にもかなり見られる。ピート族のまねか、ヒッピー族のまねかわからないが、実にきたない。見ただけで食欲もなくなってしまう。

服装を見れば、その人の心理がうかがわれる。派手な服装がよいということではなく、

清潔でありたいものである。心正しければすなわち形正し。まことに、ふくみのあることばである。ことに、凡人においては——。

ひとこと

中山宇之一

▲山路を登りながらこう考たえ。——
智に働けば角が立つ。情に極まれば流される。意地を通せばきゅうくつだ。Vと激石は草枕の冒頭に書いてあるが、ふと、このことばを思いだすことに遭遇する場合は、人生にはいくたびもある。

そしてAとかくにこの世は住みにくい。住みにくさが高じると、安いところへ引き越したくなる。Vといっているが、なるほど、と思う場面にもたびたび出会ひである。

しかし、住みにくさが高じたからとて、簡単に安いところへ引越したり、おいそれと横井さんのようにグアム島のほら穴生活はできない。それが現実の人生である。

いろんな人と、いろんなことによつて織りなされ、変化に富み、障害物が存在する。それがまた人生というものである。——それだからこそ人生の妙味を味わうこともできるの

である。

住みにくさが高じたからとて、引つ越しの準備をしたら、弱腰になるのではなくて、如何にそれをのり越えるか、そこにまた人生の意義を見出すべきである。

詩に寄せて

古木 寛

木戸孝允という人の詩に、次のようなものがある。
才子は才を恃み、愚は愚を恃む
少年の才子は愚に如かず
請う看よ他日業成るの後
才子は才ならず、愚は愚ならず

その大意は、とかく才能ある人は、その才を頼つて努力せず、また愚かな人は、どうせ愚かなんだからとということ而努力して事に当るうとしない。年若い時の才子といつてもまだ未熟なものだ。だから見てみたまえ、後年立派な仕事を為しとげた人のことを。若い時に才子といわれた人だ本当に才能ある人となつていくか、必ずしもそうではない。また、愚かだといわれた人が愚かなままで終つていくか、立派な仕事をした人もいるのではな

いか。才も誇るにたらぬ。愚も歎くにたらぬ。若い人は志を立て、それに向つて努力することこそ大切なのだと説いている。

諸君のこれからの人生は長い。そこには喜怒哀楽、そして幾多の試練が待ち構えている。いたずらに一喜一憂することなく地道な努力の積み重ねが大切だ。

自分の生きる道は何か、いかに進めばよいか、大いに自問し自答し、実践していつてほしい。あせらず驕らず、卑屈になることなく前進を続けていただきたい。

勉強と運動

金井 一朗

山なみ17号に「精神を大切にすることが身体を大切にせず、逆に、身体を大切にすることが精神を大切にしないことに反省を求めたい。」と書いた。受験間近の三年生諸君を見ていると、「俺は勉強が大好きである。いや、あまり好きではないがとにかくもつと勉強しないと生存競争に破れる。」と頭で奉公している人間に体力などはいらない。」といった考え方をしている人が多くなつてきているようである。君は勉強することが最も大切なことだとい

うことで、毎日10時間勉強することにしようとす。それには、10時間なら10時間勉強しつづけることのできる頭の働きを維持し、10時間勉強しても姿勢がくずれない筋肉をもつていなければならぬ。なぜなら、眠くなつた時に眠れるのは筋肉をゆるめるからである。筋肉をある程度強力にしておかないと脳が働かない。せめて、脳細胞が興奮を保持できる一時間半なら、一時間半の間、勉強の姿勢を保持させることのできる、筋肉の持続力をつけておくことは勉強に欠かせない大切なことである。その筋肉を強化する方法は肉を食べるだけではだめで、運動するほかないのである。これからは勉学に励もうとする諸君、筋肉の強化にも励もうではないか。

遅刻について

木越 政利

先日、生徒会機関紙「カレント」の特集「附中生を分析する」を読んだ。また遅刻問題が浮き彫りにされている。附中生はなぜそんなに遅刻をするのだろうか。「附中生には規律を守ることができないのだろうか」と思い

朝のあいさつ「おはよう」の一言でその一日が始まるといわれるが、「遅刻」という二字もしかりである。もし、遅刻をしなからう、よい成績をとらう、きょうも一日がんばらう、という気持ちをもつならば、全くおかしなことである。

よい校風、誇らしい学校の名譽は、生徒の一人一人が真剣に生活し、立派な中学生にならうと努力することによつて作られるものである。

遅刻者よ遅刻しないということは、そんなにむずかしいことではないはずだ。一人一人がその気ですとめれば、きつと遅刻問題も解決するであろう。もつと自分を知り、自分に厳しくあれ」とわたしはいいたい。

わが愛することは

川腰 誠

「おまえを苦しめている不幸を頭の中から、追い払うためには、仕事に没頭するより、よい手段は見つからないだろう。」これは、有名なベイトーベンのことばであったかと思ふ。私たちは、とにかく逆境に陥り、自分の仕

事がはかどらずに好転しないとき、自分が為すべき仕事をうち忘れて、自分が置かれている境遇をなげき、天を怨み、人をそしりがちである。

しかしながら、このように天を怨み、人をそしっているのは、決して、問題が解決されないばかりか、ますます事態を悪化させ、自分を不幸のどん底に陥らせてしまうのである。

自分の不幸を歎く前に、まず、与えられた自分の仕事を新鮮な感覚で、創造的にとりくむことが大切である、幸せであることは、人間が自分の生命を純粋に感じ、生きていることに喜びを感じるときに与えられる、仕事に没頭し、それに熱中しているとき、われわれは、何ものにも支配されずに、充実した自分の生命感を感じる。

幸せば、自分が造り出すもので、他から与えられるものではないとは、けだし名言である。

卒業生に送る言葉

須山 盛彰

諸君を送るに際し、気になることが一つある。それはホノノさ細なことだが、君等が目指す高校へ入学しての第一日目、用があつて

きは、その休み時間に読書をした。要するに徹底した努力家であった。努力家であることが誇りにしていたと思う。

付中生諸君、がんばろうではないか。



師 曰 く

課題にせまる夢を、

村田 正義

「少年よ、大志をいだけ」というのは、有名なクラーク博士の言葉である。それは、あまりにも素朴な、質素な学生たちに与えた、はげました。現代の社会は、科学の発達

便所へ入ったとしよう。用が済んでホッとしている時、その学校の先生が入ってきて「馬鹿野郎、来賓便所」と書いてあるのが読めんノカン、この中学の出身だ？ ナニ、フソク？ 附属の者はエリートだから来賓便所へ入ってもいいというのか？」とカンカンになって怒られるということが起らぬだろうか……。なぜかという、我々の学校では一階に男子便所がなく、来賓便所だけが、生徒も出入り自由となっているから。

私の考えでは、附中のやり方が正しいのであつて、便所まで来賓と一般と区別するのはそもそも間違っていると思う。生徒が使う便所も清潔にさえておけば、お客様にだって失礼に当らないはずだ。附属中学の教育方針で最も特色があるのはこの点なのだ。（名札をつけさせないのも同じ考えによる）つまり一人一人の人格を大切に、人間と人間との触れ合う機会を準備している。世間で、英才教育だ、エリート教育だと言つてけむたがられているが、それとは大いに違うことは附中に学んだ諸君ならわかる筈である。母校のよい点を再認識し、正しい附中像を宣伝してくれたまえ。但し、高校の来賓便所は使わぬ方がよい。老婆心ながら。

勉強と部活動、生徒会活動の両立

水野 昇平

勉強と部活動、生徒会活動を両立させることができるか。これは附中生のひとりひとりに課せられた課題である。

確かに、この両者をどちらも徹底的にやるということは大変難しいことである。そのためには不断の努力と不屈の敢闘精神を必要とする。いたずらにテレビ番組にひかれたり、遊びにふけていたのでは、とてもやれるものではない。

だが、これを立派に両立させることのできる人は、そうでない人よりも、粘り強く、視野の広い、スケールの大きな人、活動力に富んだ人になるだろう。社会はこのような人を求めているのではないだろうか。

今までに、たくさんの付中生が見事にこの課題を解決していった。彼等ほどのようにしていたか。彼等は自分のやるべきことがあるときは、たとえ、他の人が遊んでいても、きちんとやった、彼等は時間の使い方が実に巧みだった。例えば、録音で忙しいときには、そのあいまに宿題をした。試合に出ていると

今の時代は、その「大志」が、多くの矛盾の解決なしには達せられないだろう。

マンモスは、自分のキバのためにほろびたといわれる。人間は、その頭脳のすばらしさのゆえに亡びると、予言する学者もいる。

その頭脳の成果が、科学技術の発達となって現われ、月世界までも出かけることになった。一方、地球を一度にふぎとばすに十分な原・水爆もたくわえられ、企業の発達、多くの公害をもたらしている。イタイイタイ病、水俣病、ゼンソクなど、人間自身にふりかかってくる。この後、まだまだどんな害もたらされるか予想できない。交通事故が、戦争とまでいわれ、ゴミの処理に各都市がなやまざれている。

諸君は、卒業して、高校でまた学び、大学へ行くだろう。多くのこれらの課題を、人間のすばらしい英知で、一つ一つ解決しようとし、すばらしい世界を作る夢をもってもらいたい。

「忘れえぬこと」

稲垣 実

自分の関係していることでもある話が多

少身びいきになるのを勘弁してもらいたい。

今年度の思い出の一つにバスケットボール部の市体優勝がある。新チーム結成時は連戦連敗であった。しかし彼らは、「市での優勝」を目標に立てた。おおよそ「優勝」を目標にしない運動クラブはない。特に新学期当初はそののである。しかし彼らはそれに到るまでの練習のきびしさを自覚し、それに積極的に立ち向かった。チーム内に不和が生じた時でも自主的に解決にあたった。県体出場がきまつてからは金井先生の「フタゴロシ」にもよく耐えた。

バスケットの試合は、両チームの実力によるほどの差がないかぎり一進一退をくり返して進んでいく。均衡がくずれるのは技術よりも気力の差によることが多いようだ。ゴールを目前にしてせり合っているランナーにも同じことがいえるのではなからうか。

問題は、こういう苦しさに打ち勝った経験友達と苦勞してある目標を達した時のかけがえのないうれしさを学生時代に経験できる人はやはり幸せというべきであらう。

後輩諸君に、中学生時代にこういった感激をぜひ味わってもらいたいものだと思う。

卒業生に送ることは

宮前 明

君たちの顔をはじめて見たのは、四十四年の四月でした。君たちはまだ幼い可愛い顔をしていました。それから三年間、背は高くなり、体はガッチリしてきました。顔も変りました。口にすることは論理的になり、迫力のあるものになりました。勉強も遊びもよくやりました。旅行にも行きました。成績や進路のことで深刻になったこともありましたが、異性への関心も強くなってきたようでした。いろいろのことがありました。

しかしもう卒業です。

君たちは立派な中学生でした。君たちの純粋な心情には、逆に教えられることもよくありました。その純粋な気持でどんどん前進していった下さい。

次のことは孔子が若者に、「おまらかに純粋な心で学問に励めよ」と説いたことばです。

お互いの存在を尊重する
中山 法遠
たしか、スベンサーのことばだったと思うが、「ひとりりをひとりとして考えるべきで、ひとり以上としても以下としても考えてはならない。」と、言うのがありました。
このことは今の私たちにあっては、あまりにも当然のことのようですが、ここまで考えが到るまで、私たち祖先の血みどろな戦いがあったことです。極端な言い方をすれば、個人の平等と価値の承認を獲得する歴史であったと言っても過言ではないのです。近年、主体性と言うことがよく言われますが、それはこのことであって、ひとりひとりがお互いの人間としての平等の権利を認め合うことです。しかし、歴史の中には自分の主体性を主張するあまり、他人のそれをも否定することがしばしば見受けられました。
その場合は、たいてい自分が正しいと言う理由をつけて、相手を従がわせようとしていることです。現在の世界のように見ても、

卒業おめでとう！

お互いの存在を尊重する

中山 法遠

東と西は、南と北は、自分が正しいと言いついています。確かに、正しいことは必要ですが、しかし、もっと大切なことは、お互いの存在そのものを尊重する精神です。サルトルのことばをかりれば、「実存は本質に先立つ」と、言うことです。
付中生であったということを、どう受けとめていくか？
老婆心ながら、この間いかけをはなむけの言葉とします。

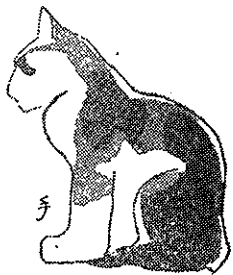
「身勝手」

形川 恵

自動車を運転していると、ときどき無謀な歩行者にでくわし、ドキリとさせられることがある。もう少し車の動きや運転手の身になって歩いてほしいものだと思ったりする。
逆に、自分が歩いているとき車がスピードもゆるめず傍らを通りすぎヒヤリとさせられなんとひどい車だろうと無性に腹をたてることもある。

人間とは、ずいぶん身勝手なものである。自分を中心にしてしか、自分を基準としてしか物を考えられないものようである。

て一筆したためた。



付属中学卒業

島原 一清

世間の人は付属中学のことをいろいろという。「あの学校はエリート中学校だ。」「金持ちの学校だ」などと。どれも的是はすれているとは思わない。

君達はこのような学校に、自分の意志かまたは周囲による影響によって現在まで在学してきた。そもそも中学校は、義務教育九年間の後半三年間にあたる。地方の学校ではこの三年間を契機に契社会へ巣立ったり、実業高校へ進学するものが大半である。それにくらべ、本校では百分近い生徒が県内・外の普通高校に進学する。この面からみれば、確かに

師曰く

本江 進

幻の友情論からの脱出

「友だちは？」と聞くと、「親友ですか、ただの友だちですか。」「という答えがはねかえってくる。「親友」というのは、親に言えなことも相談できるし、困ったときに親身になってくれる友だちだというのだ。そして「私は真の友だちがほしい。」と、声を大にして言うし、文章にも書いたりしている。
ここで疑問に思うことは、親に言えなくて親友にならざるを悩みななどあるのだろうか

しかし、身勝手な人間だからこそ、この世をおめくくと、しかもずう／＼しく生きながらえていけるのかもしれないのだが……

世の中は、この身勝手と身勝手のぶつかり合いが渦となって、近ごろでは住みにくくなってきているのではなからうか。

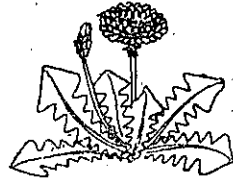
我々にとつて、今必要なのは、まず第一に自分の身勝手さに気がつくことであり、第二には、自分の身勝手と他人の身勝手を調和させる力、自分を自分で制御できる力を蓄えることではなからうか。
これも私の身勝手な考え方だろうか……

「友だちは？」と聞くと、「親友ですか、ただの友だちですか。」「という答えがはねかえってくる。「親友」というのは、親に言えなことも相談できるし、困ったときに親身になってくれる友だちだというのだ。そして「私は真の友だちがほしい。」と、声を大にして言うし、文章にも書いたりしている。
ここで疑問に思うことは、親に言えなくて親友にならざるを悩みななどあるのだろうか

いうことである。そんなことなら悩むにあらぬ。「悩み」とは言えないであろう。そんなつまらない悩みをうちあげられて、友だちらしく扱われるとすれば、私ならごめんこうむりたい。なんのことはない。自分の愚知を人に聞いてもらいたい。欲求不満ではないではないか。
第一「相談のつてもらえる」などという功利性が気に入らない。そんなことで結ばれた友情関係は、かげろふのようにはかないものである。まして、自分が「ただの友だち」として扱われるとすれば、そんな軽薄な輩には、こつちから手を切りたいとさえ思う。
友情はそんな打算的なものではないのだ。むしろ、「あいつのためなら、自分はどうなっても悔いはない」という、相手を信頼する気持ちが根底になければならない。」と、私は思うのだ。
自分が信頼されていることを知ったら、なんとしても、その情にむくいるのが、人間としてあるべき姿ではないか。
友情には、こうしてきびしいまでの自己犠牲が必要なのだ。その気がない者は、一生、幻の友情を追いづづけて失望するがいい。
これから巣立つ付中生のため、老婆心とし

地方の中学とはその質を異にしている。卒業生一八〇名のうち一〇〇名は入学試験によって入ったものであり、金県下の中学生のおよそ一％にあたることからみて希少であろう。しかし、優秀なものが頭から一％だけ入学しているのではないことは誰れもが認めることである。ただ、全体的に上位のクラスの者が多くいるにすぎない。

このような学校で勉強した君達は、果して何をつかんで卒業するであろうか。付属には付属なりの伝統もあり良さもあるが、あわせて悪さも存在していたはずである。決して普通高校のバスポートをにぎることだけではなかったといいたい。これから県下の中学生と土俵を同じにして競う時にこそ付属中学で学んだこと（教科の勉強だけではない）をあらわす正念場になる。



心身をきたえること

杉村 修

私には二才と六か月になる息子がいますが生まれてから一年ばかりは、いつも風邪をひいたり、おなかをこわしたりして医者に通いづめでした。始めての子どもでもしかも無知なわたしは子どものためにいろいろ神経を使い消化の良い物を食べさせたり、ストープをたいて部屋を暖めたり努力しましたがかえって弱くなっていくようでした。そんなある日、私の話を聞いた友人が乾布まさをしたらどうかとすすめてくれました。半信半疑でしたがさっそくその日から始めました。子どもをまっ裸にし乾いたタオルで全身をこすりつけました。子どもはともいまいやがり大声で泣いてあばれました。かわいそうに思い何度かやめようと思いましたが、とにかく二〜三か月続きました。するといままでざらざらだった肌が美しくなり子ども喜んで、かえって要求するようになりました。去年の冬は何度も医者通いをしましたが、今年の冬はまだ一度も行っていない。

このことから私は強いからだや心をつくる

には、それを甘やかすのではなくいじめて、きたえなければならぬということがわかりました。とかく過保護で精神的にも肉体的にも弱い青年が多くなったといわれています。かつてイギリスのケンブリッジ大学で「鉄は熱いうちに打て」ということわざのもとに全寮制による厳しい教育を行ない紳士を育てたということを聞きました。みなさんも勉強やスポーツで心身をきたえ、道ばたの雑草のようにたくましくなってください。

持味のある人間として

島山 和子

織り物は、たて糸とよこ糸で織られている。たて糸の質、よこ糸の質のちがいで種々変わった織り物ができる。

また、同質の糸でもたて糸とよこ糸の組み合わせ方によって、平織、綾織、朱子織り……等、それぞれの持味を生かした織り物ができる。

ぱりっと糊のきいためんは夏の衣服としてしんしょう。使えば使うほどに、丈夫になつてその真価を発揮する。

絹づれの音もやさしい、光沢のある美しい

絹は、訪問着などに、高級な西陣織り物は目を彩らすばかり……。布それぞれに持味がある。そしてそれを織り上げるかげの苦勞は並大抵ではない。

それらの美しい絹は人体に装うことで一つの芸術品として仕上げられる。

卒業生のみなさん、一人一人が織り物のたて糸、よこ糸となつて、時には強靱なめんのごとく、時にはせん細な絹となつて、持味のある人間としてよき社会を築かれんことを念じています。

卒業生への言葉

福村より子

体にびったりなじまない制服を身につけてあどけなさを体中から発散させながら、校舎案内の担任の先生の言葉を真剣な表情で一つも聞きのがさじと、希望に燃えながら入学してきたのも昨日のことのようです。そのような彼等が後二ヶ月余りで卒業。思えば過ぎ去ることの早いのに驚く。体は小柄だが、コッソツ我が道を行く真面目な彼、表面なつて目立たないが自分の思うことを次から次へとやってくる、グイグイ友を導いてゆく強い信念

いま、わたしは――

稲垣不二男

先日読んだある人の文章に 次の一節がありました。

「読書において大事なことは、基礎的な世界観、人生観をもつというところで、それは、自分と肌の合った一人の思想家を、徹底的に読み抜くという事、そして、それを自分なりに喰いぬけることでしょう。喰いぬけるとは、

それによって、現実の諸問題が、さばけるようになるといふ事です。」

実は、いまわたしも、その一人の人物を探しているところなのです。

ともかく、トインビーの「未来を生きる」を読んでみようと思つてみます。

卒業生の皆さんに

荒木しおり

卒業生と呼ばれる皆さんに「卒業」という言葉はふさわしくないとわたしは思っています。何故なら皆さんは卒業するのではなく、出発するのだから。

付属中学校の三月十七日というスタートラインから、人生のマラソン競走を始めるのです。もうすでに、これまで走って来たのだと言いう人もあるでしょう。でもこれから走り始める人も多いのです。

これはスポーツのマラソンと違って、今スパートしたら三十キロ周辺でへばるとは限らないし、今ゆっくりしていたら後からスパイト出来るとも限らないのです。また、ピッチが止がっていながら、その実、距離の伸びない人もありますし、常に他人の後塵を拝

しながら、四十キロ地点ではトップグループに入ってるなんて人も出て来ましょう。

いかに走るかは、その人の心構えで決まります。そして、それは今の時点で決まるのです。あなたには、たった一回しか走るチャンスが与えられません。

この後、うまく走り抜くために、さあ、出発して下さい。

熱中している姿

生田 信之

「何のために勉強するのですか。」という言葉を生徒から聞くことがある。私はその人が本当に勉強している人なのかと思ってみたくなる。まだ考えるひまがあるのだなとも思う。私は名古屋大学の青島臨海実所験によくいくが、研究している人々の姿をみると何かの目的に向かってたゞ黙々と実験し現在おかれている自分自身を考えることよりたゞ研究の流れの中に自分を置き、目的に向かって自由に動きまわっているといった感じを受ける。私も顕微鏡をのぞき、起る変化を追っているときを忘れ、気がつくと鳥の声が聞え驚くことがある。その姿をみた人はどのように考えど

のように批判されるかもしれない。しかしその時の私は生きがいを感じている時ではないかと思う。そのような積み重ねが人間をつくり経験となって次への考えのスタートをきめてくれるのだと思う。考えてばかりいたりして実行に移さないようでは、進歩も人生の生きがもない、たゞ平凡な時の流れとして残らないものになってしまうのである。卒業する皆さんに、熱中することのできる人間であってほしい、熱中の中に生きがいを見出し、得たものを大切にしてほしい。

人は二本の樁である

魚野 正則

卒業生諸君、巣立つ喜びでいっぱいだろう。帰宅したら、母さんの手をよく見て下さい。一本一本のシワに秘められた九年間の苦勞を忍んでみなさい。たゞ喜びだけに浸ってはいけない。顔で笑って心で味合ってください。今さら、と、変な気持もするだろうが、両親に「有難うございました」と言ってみなさい。いえる生徒は人としての人だと思おうよ。人という字を分析して見て下さい。片方だけでは倒れてしまうだろう。二本合って、は

じめて人になるのだ。だからお祈りする時、両手を合わせるでしょう。合わせれば、自分自身おちつくし、安心するでしょう。心の静まる時こそ自分を見つめるよい機会なのです。自己の幸福に酔っていないだろうか。学問は上を見て、行ないは下を見て、己を正して下さい。お金があるから買えばよいという考えよりもお金で買えないものを自分で見つけ自分で作ってください。これこそ付中卒業生の心意気だと思います。付中の誇りは、内に秘めておくべきではない。他中生の模範になるような行為、言動を通して発揮すべきものです。

めだたない事を黙々と実行し精進すること
が本当の努力であることを忘れずに。



後輩に送る言葉

三年一組

僕は出かけた。二つの拳は破れたポケットにつっこんだまま。

外奪も、この上なしのすりきれかた。

大空のしたをゆく僕は、ミューズよ。君の忠僕だった。

おお、ら、ら。僕が天をみたのは眩しいばかりの愛だった。

かけ換えのない半ズボンには大穴が一つあいていた。

夢をみる、小さなブーセのこの僕は、ゆく道々で韻をひろった。

僕の旅籠は大熊星座。

空では星どもがさらさらとやさしい衣すれの音をさせた。

僕はまた、道のほとりにしゃがみこみ、

このさわやかな九月の宵、僕のおでこに延命の美酒、夜霧のしづく音をきいた。

架空な物影のまん中で韻をあわせながらあげた片足を胸をあてて僕は、

たてごと気取りに破れた半靴の二本のゴムひもをびんと引っぱった。

今井 尚志

中学生時代、それは人生で最も楽しい時であり、最もむづかしい時なのだろうか。

これからの人生でこれだけ早く過ぎ去ってしまう日々はあるのだろうか。

小田 大

私は三年間、気がつかぬままに、付中に飼いならされ、そしてもうまじかにして捨てられる身となった。だけど私は一つだけ自慢できることがある。それは思い出をつくったことです。

MASUMI I SHIKAWA

もうすぐ春。事あることにそうおもい。たどりついたら、また逃げた。

ひとつ進めば、みつつ離れ、みつつさがれば、もうとどかない。

またあり日まで……。

鴻野 健太郎

モップスイワクゾダラバ、アジャジャ

『少年老い易く、学成り難し』

中学三年間、僕は計画性がなかった。未来の真実を考えよう。そうすればおのずから現在すべきことが決まるだろう。

ぼくはこの三年間、この学校でいろいろなことを学び、いろいろな友だちを知った。そして卒業、しかし、ぼくにとっては別れるというよりも、新しい出発に感じられる。

『どこまでも行こう、道はきびしくとも、口笛を吹きながら歩いていこう……』

私は、私だけのこのちっちゃな道を、楽しく、誰にも邪魔されることなく、まっすぐに歩いてみたい。

高野 正美

在校生に送ることばといわれても、私にはそのようなものはない。しかし、一年または二年生に三年になった者として思うが、受験勉強だけには、失敗して欲しくない。ああいうものはマラソンだ、無駄なくやって欲しい。

石田 充子

人間と人間との間には、いつしか、別れという時がくる。

その時私は胸を張って言いたい。

「サヨウナラ」

栗山 基朗

付中にはいってわかったことは、PTAの役員会には、医師会もかなわないということ。PTAの役員はおそろしいですよ。気をつけないと……？

佐々木 秀

Au revoir

小竹水恭子

毎日こつこつとやれば、あとであわてる必要はありません。まじめに学んで、不まじめに遊ぶのがこつです。

佐渡 茂美



「一しずかに磨く心や神を知る。」

この詞を心においてひたすらがんばってくれ給え。

窪田陽昌子

人は、長い人生において、さまざまな困難や試験にめぐりあう。そしてそれをのりこえ克服していく時、心に年輪を刻み成長する。

A man's walking is succession of falls.

中川 徹

時間が経つ事は今も続いていて、いつ終わるか僕には知らない。そして僕はいつ終わるのか知らず、大したことも遣ら無い儘に、いつも通りに落ちついて毎日を過し続けている。一体これで良いのか、と反省も為るのだが、結局これで良いのだからと思ったりもしている内に要するに毎日々々が過ぎていくのである。

三月十八日

お母さん、ついに受験のときがきました。長い間、お世話になりました。私は、りっぱに散っていくでしよう。さようなら。

苗加 稔

快晴

105

「バーモスノノ」

金岡 宏美

時は人の感傷などお構いなしに流れて行き人はそれを止める術を持たない。その、時の流れに押し流されないような、確乎たる自身の歩み、それを持ちたい、と私は思うのです。

杉本 守

「アスタ・マニャーナ」

人間、自分の顔に責任をもたなくっちゃね。表面的な顔の美しさより、真の美しい、りっぱな顔がもてるように、がんばらなくっちゃ。

金井 千鶴子

志賀 正樹

生とは、行動と精神の、限らない、きびしい対話なのだ。私は、この三年間外連にばかりとらわれ、内面の広過ぎるくらい広い世界の存在に気付かなかったのだろうか。

千先 康二

北島 節子

高尾 哲康

元気で、元気で〆

中林 壽子

私みたいな美人になりましょう(〆)キマリ〆

黒田美智子

昨日から今日を見つめ、今日から明日を見つめる者が必ず勝利者となることだが、この学校で知った唯一の教訓である。

越崎 一美

「卒業が近くなっても、感傷なんかには耽らないぞ」そう思っていた頃が、今は懐しい。お世話になったみなさん、さようなら。

野上 豊

希望に燃えて入学したこの付中、好きなことを言い、好きなことをしてきた。この三年間に得たものは、「少年老い易く、学成り難し」ということばにはかならなかった。

布村 一規

イマノキミタチニハ、ジブンノリソウヲモトメツケ、ケツシテトチュウデ、ザセツンナイコトガ必要デアル。マタ、ジブンノコウドウニセキニラモツテ行動シテクレタマエ

トカクキミヲハ上級生ノワルイトコロヲ、ヨクマニスルガ、ソレデハ、付中生ノ心構エハ悪化スルバカリダ、ウント良イモノモ、吸収シテクレタマエ。

原井 哲

「卒業」……

英語では「始まる」ということ。そうだがそうなのだ。

これからの人生の始まりなのだよ

舟竹 泰昭

「やると思えば、どこまでやるさ、それが男の魂じゃないか」この精神でやりぬこう。

佐野紀代美

小学校六年間に対し、中学の三年間は、二倍どころか百倍も千倍も短かかったようです後悔することは山ほどありますが、楽しい三年間でもありました。

三村 起一



永井 順子

日の光を輝りて照る大いなる月たらんよりは、自分から光をはなつ小さきともしびたれ

鷗外

密田 稔

「大切なことは、大志を抱き、それをなし遂げる技能と忍耐をもつということである。その他は、いずれも重要ではない」

技能だけで、物事を成し遂げることは、必ずしも間違いではないが、逆が必ずしも真ではない。そこには、何等かの、忍耐が、必ず在することを忘れてはならない。

それは何も、学校でのことについてだけではない。何についても同様である。周囲がどうであろうと★意志の在する所方法あり、思えば思わるる★なのである。つまり、何事も技能と忍耐をもって当たれば、必ずできる。

……人間、一生に一度は、死ぬほどの猛勉強をするつもりである。

『何時?』などと聞く者は、もう既に忍耐がないといつてもけしして過言ではあるまい。

大きな志へ、強い忍耐力を持ち、努力して進む者の前には、自然と道が開ける……。

西村 宣子

何処までも線路は続いている。しあわせを求め何かを見つけた私、私は、今も歩いている。

多田 有希

幸せは――ふうせんに乗って雲まで行くこと。幸せは――ろうそくを吹き消すこと。幸せは――一匹のあつたかい仔犬。幸せは――秋風に吹かれてみの虫と話すこと。幸せは――つぼみが開くこと。

宮崎 研一

中学校生活は長いようで短い。もう二度と戻ってこない貴重な時間を大切に

八嶋祐太郎

三年間の間に……。もっとなやんでみたかった。なやんで、そしてこんなことがわかるかもしれない。「なやみこそ人間の特権だ。」とそしてまた、こんなことがわかるかもしれない。「なやんでなんになる。そうさ、人生は楽しく生きなくてはウソだ。」と。

杉野 宏子

昨日の君は君ではなく明日の君は君ではない君は今日に生きるんだ今日を信じろ明日に頼るな

羽根 順子

私が後輩に送りたいことばは、今の私が痛烈に感じていることです。それは、「人の真心を知らずにいることは、自らの失敗を意味する。」ということばです。

麦野 英順

玉不琢不成器 人不学不知道

山田 充宏

オレはこの三年間何をやってきたのだろうか。毎日学校へかよっただけだったのだろうか。オレは君たちに望む、悔いのない学校生

活を送ってほしい。

藤木あかね

エッ? 卒業? ウソだあ!。本当なの? 本当なのか……。

でも、中学校生活三年間、楽しかったなあ

天上天下 唯我独尊

渡 まさ子

人生で最も重要で、最も夢多いと言われる三年間が、もうすぐ終わろうとしている。

さようなら付中よ、この三年の間、私はあなたと共に生きてきた。もう二度と会えないだろう……。

吉川 栄一

彼の誕生以来、彼はその「主」を求め続けてきた。数十万年前人類が誕生し、彼は「主」の出現を期待した。そして今、彼は「主」を知った。私と、緑の星地球の新しい旅がはじまる。

三年二組

うすあをい岩かげ

北 杜夫

ものおともたえ
ひかりもまだらに
かぜもまじりみる
みしらぬうすあをい岩かげに
ひっそりといだきあい
ひとみにひとみを映しては
とほい神話のなごりに酔ひ
こころの寂しさに燃えたつては
いたいけな息のほめきた
ふと あちあちしく
つつましいくちびるをうばひたい。

ヘンシン(変身)

石川 潔

稲場 進

みんな、好きだった。

S・ENOMOTO

後輩におくることば
「できるなら、時をもとにもどして」と
いいたいのが、今の私の心境だ。
もし、人間が過去に行くことができれば、ど
んなにもすばらしいことであらうか?

秋山 裕子

老田 正道

「自分にうち勝つことは、
最大の勝利である。」
——ブラトナー——

碓井 貞成

大寺 久夫

子日く
「君子は義に喻り
小人は利に喻る」

浦本 徹

卒業というと、僕は何だかさみしいような
気持ちです。でも、あれこれ考えて
みると、卒業というのは嬉しいことなのです。
なにしろ人生の新しい扉を開けるのですから
サヨウナラ!

大永佳世子

I love you more than you'll ever
know. Gimme Shelter.
でも、今、飛び立たなければなりません。
精一杯翼をひろげて、
LOVE-PACK.YOUNG.TOWN.

私たちの新しい世界へ——。

大西 弥一

松葉でチョン、勉強でチョン、クラブでチ
ョン、あそびでチョン、松葉でチョン。

奥田 大成

オレニ名モンクナド書ケトイッテモ
ハドダイ無理ナハナシナノダ。
ダカラ、簡単ニ、
「何事ニオイテモ精一杯頑張ッテクレ!」

大花普示子

今、やっと勉強をはじめたのです。
今、やっと真の友情をつかんだのです。
そして今、やっと中学生生活を感じます。
中学生生活の上に降る雪が、あられのように
散ったことを……。

川上 元秀

たぶん一生は短いもの、けれどもその一日
一日は長く苦しいもの。そして、中学校生活
は、終わりになって悔いたもの。

ゴソー シロー

ドダイ、メイモンクなど書くのは、われに
はムズカシスギルのだ。
アクマデ、ぐおーいんぐ まいうえーいな
のだ。

小川 雅美

遠い世界に旅に出ようか、それとも赤い風
船に乗って雲の上を歩いてみようか……
私は彼と旅に出ます。手に風船をもって……
私は早く16才になりたいのです。だって16に
なったら結婚できるから。彼が私をまってる
の?!

では在校生のみなさま、ひと足おさきに
におおかばかち、あんど まちやみ
小川のまきみ あねき

坂井 幸彦

これといって、みなさまに言いたいことは
ありませんが、あえて言うなら、なるべく勉
強した方がよいと思います。しかし、あとで
もっとあそぶべきだったなんてのは、つまら
ないから、力いっぱいあそんでください。わ
たくしも、よくあそびました。ハイ。

笹倉 肇

昭和三十一年九月十八日
泣かない約束をしたばかりなのにもう涙、
四季の草花が咲きみだれ、私の付属中学校
私は、いま、卒業しようとしている。
るみ子ちゃん、さおりちゃん、さようなら

S・K

God-bye. なんとなく楽しそうなことば
さようなら ちょっぴりキサッぽい感じ
別れ ふかく心の底に響くことば
でももういいんです、今の私には。

佐竹 豊彦

時間は止まってくれない。だから、残され
ないように前進するのみなのだ。

T・S

愛することもこわくて
きらうこともこわくて
何もできない——
そんなあなたに ならないよう……。

希望という名のーアナタを訪ねて!

H・K

輝く明日、みつめてー
風が運んできた夢は、
明日はあなたの大きな夢ニ

出発の日は雨がよい
霧のようにやわらかい
春の雨の日はよい

高松 輝行
永井 克行
わからぬい……。

Good-by, Good-by.
Good-by-by!

中島 康博
考えてみれば、僕が付中に残したものは、
何もない、あるといえは机の傷ぐらい、しか
し僕はこの付中から夢と希望を得た、この付
中を去るのはいやだ、しかし去る時が来たの
だ。

3の2の18の中の山の正の康
あなた方が、この学校を卒業するときこう

N・F
『常に挑戦的で、人間の価値追及的な行動
をとっていききたい』

西尾佳世子
「中学三年間は、思う存分読書をして、色
んな人と語り合って、熱心にクラブ活動に参
加して——」なんて、今頃思っても……。
中学三年間でこんなものでしょうか!?

八島 裕二
おもいっきり泣いて、おもいっきり笑って
おもいっきり怒って、おもいっきり叫んで、
おもいっきり遊んで、おもいっきり勉強して
中学校生活を楽しんでくださいネ。

船田 潤子
時が流れ、明日が今日になり、そして、明
日になって、もう中学生時代も終わり……
たった三年間なんて、短かすぎる中学生時
代だけど、今後の日々も有意義で楽しく、思
い出深いものとして下さいネ。

思うでしよう……サヨナラ……
……バカメ ガンバレヨ テメエラ

高城佐知子
私はミケランジキロ。
私の前にあるのは、
のみと、
一本の皺が刻みこまれただけの
素朴な石。

野上 幸司
卒業ということとは「別れ」ということであ
る。しかし、同じ富山県という狭い地域に住
んでいるのであるから、会う可能性もあるだ
ろう。その時、「あんな男がいたのか。」とで
も思ってくれ。

野波 俊輔
中学校のよさに気がついたのは、三年にな
ってからだだった。それからはあまりにも短か
かった。「常に希望を持って生きる」それが
中学校での収穫だ。

『十五才』は、二度と

M・Y
中学校生活だけが、青春でない
ガンバレ

本江 律子
友をたいつせに、先生をたいつせに、
両親をたいつせに、兄弟をたいつせに、
そして、あなたの良心をたいつせにネ……

松倉 京子
『常に努力』
やっとな、気がついたことばでした。
付中よ、三年間 ありがとう。

T・W
中学校生活は、青春のとびらを開いてから
の第一歩である。
そして、そこにおいては、「不可能」とい
うことばは、およそ脱落者たちの避難所とし
かない。

丸山 裕子
「サヨナラ」を言う日が、とうとう来てし
まった。アー(嘆き)でも私は「サヨナラ」
なんて言わない。——悲しくなるだけだも

やっとな

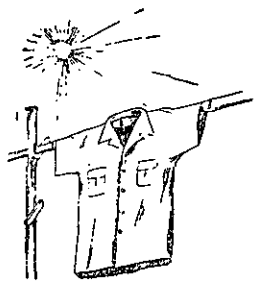
ンヤンヤ
ロクダ キムダケケ
ムダ キムダケケムダケケ
キムダケ ケケムダケ。

中村 徳子
このごろ時間の進むのがはやく感じられる
無駄なく時間を使うこと——これが、人生を
二倍に生きることだと思おう

福田 久昭
一年一組ちか子ちゃん、一年二組みき子ち
ゃん、一年三組ヒサエちゃん、一年四組ま
みちゃん、二年一組のり子ちゃん、二年二組
とも子ちゃん、二年三組れい子ちゃん、二年
四組マミちゃん、三年一組セツ子ちゃん、三
年二組ヒサ子ちゃん、三年三組よう子ちゃん
三年四組ミワ子ちゃん、サヨウナラ

鍋田 佳子
初めてこの付中の門をくぐった日が、まる
で昨日のよう。なのにもう……。
ああ、もっと、まじめにやればよかった。

J・M
の。笑ってお別れしたいもの。……ア——
ダナダ オヨヨヨ(ヤッパリカナイ)
『時は鐘なり』っていうでしょ、
中学生時代は、あつという間に過ぎてしま
いました。みなさんも、あとで後悔しないよ
うに、時を大切に、有意義に住ごしてネ、



三年三組

石坂 浩二

過ぎた日のほほえみを
みんな君にあげる
夕べ枯れてた花が
今は咲いているよ
すぎた日の悲しみも
みんな君にあげる
あの日知らない人が
今はそばに寝る
暖かな星さがり
通りすぎる雨に
ぬれることを夢に見るよ
風に吹かれて
胸に残る思い出を
さよならをするためだ。

荒川 貞雄
中学を卒業するまでによい心友を持つてほ
しい。ぼくの経験から言うのであるが、3年
生にもなると進路やいろいろ悩みを解決する
心友が、必要となってくるからである。

稲松 敏彦
Out of sight, out of mind. 部ではよい
思い出ができたが、ほんとうに有意義な三年
間だったのであろうか。また会う日まで。

遠藤美樹子
この道より我を生かす道なし、そんな道を
力一杯歩みましょう。そこで得られるスカッ
とした充実感と喜び、すばらしいものにちが
いありません。

T. UMEZAWA
Rome was not built in a day.
But it is never too late to learn.

おおさき たかおき
ア、シニタイ.....
コトモナイナッ

大岡知妙子
卒業。喜び、悲しみ、不安.....
いろいろあるけれど、とにかく卒業なのだ。
それは、過ぎてしまったこと
ずっと昔に過ぎたことなんだ
それは.....
私は出発つ。
下保 暢彦
人の前で恥じるのは、よいことであるが、
自分自身の前で恥じるのは、なおよいことだ
である。 サウナラ
熊野 裕子
さざんかとおびきの花が似ているからとい
って、さざんかはおびきではありません。私
もただの私であるだけです。では、ただひと
りの私が心をこめて、さようなら。
岡崎 洋三
彼ハ歩キ続ケル。イツマデモドコマデモ。
時ニハ花咲ク原ツバラ。時ニハ木枯シ吹ク荒

野ヲ。決シテ後ヲ振り向カズ。決シテ歩調ヲ
緩メズ夕日ヲ背中ニ受ケル時モ。朝日ヲ目前
ニ仰グ時モ。私ヲ決シテ止マラナイ。ドコマ
デモ。イツマデモ。彼ハ若者ダカラ。
片山 寿夫
付中のすべてのものさま、ありがとう。
パレーボールヨク トモダチヨク ソレニ、
プラスアルファヨク ソレラニ、
ぼくは成長できた.....

倉地 功子
やりたいことを思いっきりやりましょう。
正しいと信じることなら
失敗しても、恥をかいても、いいじゃない
ベストを尽したのなら。

後輩に送る言葉

金森 英人
尺取虫が縮む
のは次に、前
に進むためだ
ある。



川腰 肇
希望は死ぬ折までもわれわれを見捨てない。
AND WE COULD NOT

SPEND THE LIFE
WITHOUT LOVE. HOPE

小泉 裕子
中学校の三年間はとても短い。ただ何とな
く過ぎてしまったことを後悔している。自
分のやりたいことを実行してこそ、この短い
三年間が有意義なものになると思う。

北野 正巳
サインを消せ、みんなみんなの 合作だ
おまえのもの 私のもの
みんなが心配してやった咲かせた花一輪
ひとりじめは、ひどすぎる。

せと みきと
ともだちは、はるかなたびじに「いまい
どたたないか」と、てをぶってふるえるこえ
でいったけど、あきらめたのでしょ。

少作 智子
皆から悪口を言われ、皆から理解されない
時でも、自然から理解され、自然から歓喜の
情を送られる時、人間は一番深い自信をもつ

.....武者小路実篤
ことができるのである。
久和 茂
主よ、幸福の大きい扉を、たとえ細目
なりと、しばしわが前に聞かせ給え、
後輩よ。おおいに遊べッ
そして、あそび飽きたら
勉強しろッ
全精力を集中してッ

坪田 千秋
なんとなく日を過ごしているあなた、
あなたももうすぐわかるでしょ。
"時は金なり"
郷村 寿朗
この世は、成るように成る。
人間の運命は、決まっている。
がんばって運命をかえよう。

斉藤 敏夫
誰よりも理想に燃え上がった君は、
誰よりも現実の空しさを知っていた君だ。

経明 正祥
今日まで、勉強、クラブ、遊び、すべて不
真面にやってきました。後悔しています。

みなさんは、よく考えて行動してください
○○ちゃんがんばれ(男)

布村 敬子

心に

常に

道を

離れず



長沢 峰己

きのう見た夢
なんか忘れてしまった。
レモンスカッシュのような

付中へ来てほんとうによかった。

ひろの こうじ

Don't let me down!

Please girl let me down !!

She is so heavy.

古田 敏雄

僕は自分の道を行く、

松木 克之

何事にも努力したまえ、努力こそ美しきも
のであり、かつまた、自分の利となるのであ
ろう。中国の故事にもあったのではないかと
「蜚雪の功」と

「蜚雪の功」と

村 治美

明日をみつめて

ただひたすらに

悔いのない青春を

送りたいのです……。

諸橋 道子

人間として生まれてきたからには、何か、

人間にしかできないことをやろう、

有意義な中学校生活を！

山本 一三

今日もまた、私たちはえんま大王に召され
てゆくために生きています。今日のうち
死ぬ用意をしなければ、死んだとき後悔する
ことになる。今日できることは今日のうちに
すべし。

吉川 英貴

何ごととも、あわてず、ゆっくり考え、いつ

も、自分をきびしく見つめて行動しよう。

吉崎 幸子

人生五十年というなら、人は思いのままに
生きるのが、よいのではないだろうか。君は
君の道を、あなたはあなたの道を、そして私
は私の道を――。

村上 巧啓

この学校には考えられないような不思議な
ことがたくさんある。一つは小学校の屋上の
あかりが昼間もついていること。二つめは、
どうして遅刻をしたりまたそうじをさぼる人
がこんなに多いのかということである。

森山 光彦

貴様らに残すものは何も無い。
残るものはただ足跡だけだ。

I'LL GO OUT WITHOUT
SAYING.

女川真民子

理想に燃え
青春をぶつつけるそんな力と
輝く明日が再びもどるならば私は言う。
「さようなら。」と、涙ぐむマミタン

屋敷 初郎

自ら進んで引かれて行くとき、人は自分の
いましめの縄を感じません。しかし、それに
逆らおうとすると、それから遠ざかろうと
するとき、初めて激しい苦痛を感じるのです

元井美智子

「どんなに墮落しても向上の機会を持ち、
どんなに向上しても墮落しても向上の機会を
持つ。それが人間である」下村湖人

安田 正人

付中の味って少ししょっぱくて少し甘い70
円のラーメンのおつゆの味。人生はその中の
固いメン。あたたかいおつゆは固いメンをや
わからなくはぐしてくるだろう。

山田 琴代

オームは弓、魂は矢、
梵は矢的。
断じて射あてよ。

——シッダルトタより——

山川 泰代

私は、この三年間やりたいことをやり、毎
日毎日を精一杯に、楽
しくやってきました。
そしてその楽しい思い
出は忘れえぬものとな
りました。皆さんも、



三年四組

石川 啄木

何という名か知らないが、
細い茎に粟粒のやうな花をもった
黄いろい草花よ、路傍の草花よ。
—何だか見覚えがある。

あゝ、さうだっけ。——

中学校の片隅のあの
黒壁の図書館の蔭に隠れて、
憎まれ者の私が、
濡らした頬もぬぐはずに
じっと見たのもお前だったが——

長い／＼前のことだ。

あの眇目の意地悪は、
破れ靴をはいた級長は、
しょっちゅう眼鏡をかけたたり脱したりし乍ら
よく私と喧嘩した蒼白い英語教師は、
今は皆どうなっているやら。
銀のやうな秋風が吹いて、
粟粒のやうな黄いろい花が
ほろほろと散っている。

さようなら



淺地エタカ

飯田 誠

恐ろしい三年間でした。テストがあることに
恐怖を感じ、また友にも恐怖を感じました。
でも、たいへん楽しい三年間だったと思いま
す。先生方、ありがとうございます。

井沢 孝夫

「自分を甘やかさず、いつも客観的に、そし
て冷静に、自分自身を見つめること。」

これは、付中での三年間で、強く心に感じ
たこと。これを心に言い聞かせて生きたい。

石黒 卓見

昔者、曾子謂子輿曰、「子好レ勇乎。吾
嘗聞大勇於夫子矣。自反而不縮、雖億萬倍
之、吾不レ懼焉。自反而縮、雖千萬人、吾往
矣。」

石本 裕

ROME ISN'T BUILT
IN A DAY. WORK HARD
-ER.

森田 英

断仏、平和はやめたまえ。知るなら九蓮宝
燈、十三仏九、大四喜……

四隅を取って碁を打つな、中を囲え、百目
の地を囲うべし。

柳田 英二

悪質薄情高慢冷淡奇怪單純邪惡臆病極惡
專權無礼強欲傲慢怠惰に過ごした三年間だっ
たが、誠実勤勉謙虚親切正直質素勇敢非凡
無欲剛勇冷静高尚清廉潔白なやつに囲まれた
三年間

YOKO・U

思い出深い三年間、アッと言う間に、ハッ
と過ぎてしまった。泣いた。笑った。願いだ
失恋。風邪ひいた。食べた。生きた。そして
「青春とは、決して後悔しないこと。」だ……

牛島 裕子

わたしの夢見る荒れ野、霧ふかい丘
そこに夕べがたちこめる、重く冷たく
なつかしい想い出のかずかずが
冷たい山々に寂しく残っている(ブロンテ)

金沢 桂子

去らない 去ろう 去ります 去った
去る 去るとき 去れば 去れ
「ラ行五段活用」ですか。

稲崎 義明

思えば長いようで短かった月日でした。
よい思い出、ひどい思い出いろいろあり
ました。みなさん、よい思い出をつくらう。

太田 章

一つの区切り。一つの飛躍。一つの成長。
一つの……。大きな転機。卒業。
我人生の礎を持つ。「人生、人のためならず
人生、修養の道。」巧言令言、鮮し仁——

上村 勝則

S・41・4・7に入学してから現在、あっ
という間の三年間。私はしたいことをやりた

塚 正之

僕を乗せた汽車は、三年間、野を越え山越
え……だいたい疲れた。しかし、終着の「卒業
駅」に着いた時、そこが「人生駅」への始発
駅であることを僕は知った……さあ、頑張ろ
う！

黒沢 章

われわれが果たせなかったこと、つまり付
中生としての自覚をはっきりし、付中中学の
発展に努めること、これらを果たすと共に、
中学三年間を、有意義なものにしてもらいた
い。

川倉 陽子

「どんな小さなことにでもベストをつくす」
「どんなつまらないことにでも、がむしゃら
になってぶつかっていく」
それが私たち、若者なんです。

桑谷 朋子

よき家庭、よき師あつてこそあるあなた。

佐伯 和子

「薬は苦の種。」なまけぐせだけは、今から
直すように必死に努力しなくっちゃなりません。
なまけぐせを直さなかったために、今に
なつてとほうにくれている人がここにいろよ

桜井富士子

愛 それは思いやり
哀 それはいくつしむこと
心……精神
三年間の泣き笑い いつの世も

高田 慶子

嵐の中に出ておゆき、キティ、思ったほ
ど恐くはないよ。傷つくことを恐れていては
恥をかきことをいやがっているは何もできな
いのです。傷だらけの青春！

高見 育郎

我らの天下到来を夢見て、先輩を送り出し
たのに、とうとう送られる身となった。「卒

業」と「ところ天つき」の違いは何なのか。

我から汝への質問

KOUZI TANI

三年間も すみません 今になって
裏切りました すみません 「すみません」
三年目に すみません なんて嘘です
俺の口から すみません 俺が口にする

塚田 邦夫

なんとなく過ごした三年間。これといった
思い出もない三年間。常に自分の不完全さを
感じ、それを何とかしようとしても何もでき
なかった。過ぎさった日を惜しんでいるこの
ころである。

MASAHIRO TUJI

有美婦人。従一嬢行。「非閔夫人之事矣。」
一男子、目逆而送之。
曰、「美而艶哉。婦人願
婢曰、「渠説何。」婢曰。

中林 博道

ひとり、ただひとり、友もなく。

私は、ほんとうにばかかな人間であった。
しかし、三年間の思い出がどんなものであ
ったろうと大切にしよう。

南日 芳郎

学校に通い、一番大きなことは、学ばし
さを感じる事です。自分の師を尊敬し、自
分の師に近づこうと努力してこそ楽しみは、
得られます。要は素直さと謙虚さだと思います。

能波 輝之

私は今日まで生きてきました。時には誰か
の手を借りて、そしてこの三年間いろんなこ
とがありました。でも、もうお別れです。み
なさん、さようなら。また会う日まで。

野村 克信

命かけてと誓った日からはや三年、すてき
な思い出残してきた。先生、お世話になりま
した。みなさん、お世話になりました。私は
今、カギリノナイカナシミニナミダヲナガシ
テイル。

二川 泰志

捨てろろちっほけな喜び、ちっほけな怒り、
ちっほけな哀しみ、ちっほけな楽しみは。
目指せ〇大きな喜び、大きな怒り、大きな
哀しみ、大きな楽しみ、そして大きな自分を。

M & F

「完全なでたらめ。これを作る奴は、天才だ
だから僕は、天才だ。」

諸君、まちがっても僕みたいな奴にはなら
ないでほしいと心の底から願う。

水野 優

御前ら、それで満足なのか。
こんな状態に がまんできるのか。
少しでもなんとかしようとは思わんのか。
死んじまえノクソツタレノケダモノメノ

三辺 正人

いくら教訓めいたことを並べてみても、自
分で体験するまでは無意味・・・

松浦 史子

青春の勳章は
くじけない心だと
知った今日であるなら
……さよなら 附中ノ

間野多恵子

私たちの前に広がるのは、果てしない世界
みんなで歩こう 長い道だが

一つの道を 力のかぎり

明日の世界を さがしに行こうノ

宮本 映子

バラ色の青春を生きるとは、若さたぎる器
からこぼれ落ちた、数多くの苦悩と失敗と涙
を克服し、且つ、明日への希望を失わない
「生きるとする意欲」を持つことだと思いた
い。

村井理恵子

雑草のように
もつと強く もつときびしく
そして 最後
花を さかせたい。美しい花をノ

森 久見子

ほんとうの苦しみを知るまで
どんな所でも、どんな時でも
努力をおしまない人間になりたい。

谷井 保子

この世の中で、友に優る宝物はない。
A friend in need is a friend indeed.
心から友につくせば、友もそれに答える。

針原 寿朗

三年間一度もまじめになったことがありま
せんでした。今になって思えば、あの時もち
とまじめにしていればということが多くあり
ます。これからは、まじめに――。

平岡 昌純

三年間で一番楽しかったことは……それは
あの人がとなりに来た時でした。それはもう
死ぬ思いでした。でもこれでお別れです。:
……さん、お幸せに。

藤井 和夫

一千九十五日、二万六千二百八十時間、
百五十七万六千八百分、九千四百六十万八千
秒、長いようで短かった。そして今、オレ
はこの付中を去っていく。サラバだ。ケケケ

心の友をつくらう。信頼できる友を。

塚本 容子

感情の高まりは、理性じゃどうしようもない
ことだってある……だけど、それに翻れてし
まっちゃうだめ!! きつと、後悔する日がくる
だろうから――。

津名 順子

数字だけは
やって
おこう。

中田 敬子

そのときそのときを、精いっぱい生きようノ
過ぎた時間は帰ってこない。
過ぎた青春は帰ってこない。
「立てノ、そして歩め、うむことなく」

中村美和子

後悔ほどむなしなものはない
どんな事にもベストをつくそう、それでも
失敗しても悔はない。全力を出せないで自分
に負けたときの気持ちは「無」にひとしい。

山なみ20号を発行して

山なみ20号——記念すべき20回目の発行。
「山なみなんかやめてしまえ」とか「予算のむだ使いをするな」とか言う世間の冷たい目の中で、編集した苦勞の結晶。しかし山脈を批判した皆さん、君たちがおとなになつたらどうして山脈を発行したか必ずわかるよ、山なみを一回発行するのに平均十五万円がかつたとする。二十回だから今まで三百万の金を使ってきたことになる。先輩たちがいかに山なみ発行に努力してきたかがわかる。しかしほくも三百万円あつたら、最後に山なみ二十号に寄せた先輩の言葉を紹介しよう。

●「山脈」もいよいよ20号を数えるとき、かつて編集にあつた者として喜びに絶えません。皆さんの御努力に感謝するともに、すばらしい20号が完成するよう期待しております。
米田 保晴

●立派な「山なみ」を心から期待します。
鹿熊 正一
なお、山脈十八号の編集委員長の須田先輩からは英文で長い長い言葉をももらいましたが、皆さんが読めないで悲観したらこま

るからのせません。(笑を言うと私めが読めないからです。)

編集後記

山なみの二十回目の発行、これにはたいへん苦勞をしました。多くのトラブルもおきま

した。最初のトラブル、そして一番大きなトラブルは、委員長にたいへんな人がなつたということ。また予算も足りず、そのためペーシ数も去年より少なくなければなりませんでした。

二十回発行を一つの起点として、山なみの内容を大きく変えなければいけないのに、内容は全く同じになつてしまいました。

これでも努力はしたのです。清書した委員の方がありがとう。そして誰よりも一番働いた係長のかたにはもうすまなくて……。特集の「他校生の付中感」を読んでください。あの意見をとるのに、どれだけのをかいたか。最後まで読んでくれたあなたには、この苦勞がわかるよな、
二十一号からの山なみの発展を期待して、この編集を終えます。

山なみ二十号——編集委員名簿(◎は係長)

委員長——針原 寿朗
副委員長——大窪 貢

☆回顧

(生徒会) ◎千先 康二 宮島 正子
本間 徹 松井 美和 高橋 正志
中村日登美
(部) ◎西野 守 堀地 肇
石田いづみ 山下 勝康 榎本 良治
西野美智子
(クラス) ◎笹倉 肇 桑谷 朋子
田中 智子 諸橋 道子

☆特集

◎針原寿朗 唇波 隆志 界 龍一郎
☆文苑
◎横井 幹 荒木 昌代 森 邦子
◎松倉京子 杉野 宏子

☆ニューモア・アンケート

◎平岡昌純 辻 正博 石田 祐二
☆後輩への言葉
◎舟竹泰昭 渡辺由美子
◎野村幸代 佐藤 育子

☆師曰く

◎稲垣洋一 大窪 貢 齊藤 敏夫
足洗俊之 野口みさを

昭和四十六年度生徒会役員名簿

会長	古川 栄一	(三ノ一)
副会長	針原 寿朗	(三ノ四)
書記	金子 巖	(三ノ四)
総務委員長	遠藤 美樹子	(三ノ三)
校紀委員長	山川 正之	(三ノ四)
保健委員長	正橋 立子	(三ノ三)
文化委員長	高見 育郎	(三ノ四)
体育委員長	太田 章	(三ノ四)
編集委員長	川上 元秀	(三ノ二)
報道委員長	宮崎 研一	(三ノ二)
図書委員長	西尾 佳世子	(三ノ二)
代議員会議長	千元 康二	(三ノ一)
選挙管理委員長	中川 徹	(三ノ二)
	林 裕一	(三ノ二)
	越崎 一美	(三ノ一)
	石本 裕	(三ノ四)
	稚井 貞成	(三ノ二)

前 期

後 期

会長	高見 育郎	(三ノ四)
副会長	太田 章	(三ノ四)
書記	土肥 千晴	(三ノ三)
総務委員長	河西 千佳子	(三ノ二)
校紀委員長	龜谷 直子	(三ノ三)
保健委員長	今野 美子	(三ノ四)
文化委員長	森 久志	(三ノ一)
体育委員長	野上 豊	(三ノ二)
編集委員長	長沢 峰己	(三ノ二)
報道委員長	川原 稔	(三ノ二)
図書委員長	野村 克信	(三ノ四)
代議員会議長	八島 裕二	(三ノ二)
選挙管理委員長	稚井 貞成	(三ノ二)
	広野 幸治	(三ノ三)
	湖東 豊子	(三ノ一)
	西尾 佳世子	(三ノ二)
	斉藤 元泰	(三ノ一)

前期生徒会委員名簿

Table listing members of the previous student council. Columns include roles like 学級長 (Class Leader), 副学級長 (Assistant Class Leader), 代議員 (Representative), 総務委員 (General Affairs), 保健委員 (Health), 校紀委員 (Discipline), 公徳委員 (Public Virtue), 文化委員 (Culture), 報道委員 (Publicity), 体育委員 (Sports), 図書委員 (Library), and 編集委員 (Editorial). Each role lists multiple names and their family names.

後期生徒会委員名簿

Table listing members of the subsequent student council. Columns include roles like 学級長 (Class Leader), 副学級長 (Assistant Class Leader), 代議員 (Representative), 総務委員 (General Affairs), 保健委員 (Health), 校紀委員 (Discipline), 公徳委員 (Public Virtue), 文化委員 (Culture), 報道委員 (Publicity), 体育委員 (Sports), 図書委員 (Library), and 編集委員 (Editorial). Each role lists multiple names and their family names.

「山なみ」第20号

生徒会誌 (非売品)

昭和四十七年三月十日 印刷
昭和四十七年三月十七日 発行

編集責任者 高見 育郎

印刷者 藤田 寛
富山市安野屋町二丁目

印刷所 藤田印刷所
富山市安野屋町二丁目

富山大学教育学部
発行所 附属中学校生徒会

富山市五艘二三〇番地

